

小金井市
保健福祉総合計画策定に関する
アンケート調査
報告書
(障害福祉関係抜粋)

令和5年3月

小金井市

目次

I	調査の概要	3
1	調査の目的	3
2	調査方法	3
3	調査期間	3
4	調査の一覧	4
5	調査結果の表示方法	5
II	地域福祉計画策定に関する調査	9
II-1	一般市民調査	9
II-2	担い手調査	74
III	障害者計画・障害福祉計画策定に関する調査	117
III-1	当事者調査	117
III-2	関係団体	210
III-3	事業所	223
III-4	一般市民	239
IV	第9期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画策定に関する調査	275
IV-1	介護予防・日常生活圏域二ーズ調査	275
IV-2	在宅介護実態調査	355
IV-3	介護保険サービス利用意向調査	369
IV-4	施設サービス利用者調査	431
IV-5	介護保険サービス提供事業者調査	476
IV-6	ケアマネジャー調査	546
V	健康増進計画に関する調査	605
V-1	一般市民調査	605

VI アンケート調査票.....	679
VI-1 一般市民調査.....	679
VI-2 担い手調査.....	687
VI-3 当事者調査.....	694
VI-4 団体・事業所調査.....	704
VI-5 市内在住の18歳以上の市民調査（障害者計画）.....	713
VI-6 自立・要支援認定者調査.....	718
VI-7 要支援・要介護認定更新申請者、区分変更申請者調査.....	728
VI-8 要介護認定者調査.....	732
VI-9 介護保険施設サービスを利用する第1号被保険者調査.....	740
VI-10 介護予防事業所・施設サービス事業所調査.....	744
VI-11 居宅介護支援事業所に在籍するケアマネジャー調査.....	754
VI-12 市内在住の18歳以上の市民の調査.....	764

VI アンケート調査票

- VI-1 一般市民調査
- VI-2 担い手調査
- VI-3 当事者調査
- VI-4 団体・事業所調査
- VI-5 市内在住の18歳以上の市民調査（障害者計画）
- VI-6 自立・要支援認定者調査
- VI-7 要支援・要介護認定更新申請者、区分変更申請者調査
- VI-8 要介護認定者調査
- VI-9 介護保険施設サービスを利用する第1号被保険者調査
- VI-10 介護予防事業所・施設サービス事業所調査
- VI-11 居宅介護支援事業所に在籍するケアマネジャー調査
- VI-12 市内在住の18歳以上の市民の調査

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、アンケート調査により市民の生活実態や地域の福祉に対する意識や意見を把握し、小金井市保健福祉総合計画（地域福祉計画、障害者計画・障害福祉計画（障害児福祉計画含む）、介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画、健康増進計画）を改定する際の基礎資料とすることを目的とします。

2 調査方法

郵送配付・郵送回収及びインターネット回答

3 調査期間

令和4年12月14日から令和5年1月10日まで

4 調査の一覧

アンケート調査の種類及びサンプル数

計画名		調査対象者	サンプル数	回収数	回収率
地域福祉計画	1	市内在住の18歳以上の市民（住民基本台帳無作為抽出）	1,700人	615	36.2%
	2	福祉の担い手（市民活動団体、NPO等）	60団体	40	66.7%
障害者計画・障害福祉計画	3	各種障害者手帳所持者、難病医療対象者、小児慢性特定疾病対象者、自立支援医療（精神通院医療）対象者	6,390人	3,106	48.6%
	4	関係団体、事業所	23団体 55事業所	15 39	65.2% 70.9%
	5	市内在住の18歳以上の市民（住民基本台帳無作為抽出）	2,000人	636	31.8%
介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画	6	自立・要支援認定者	1,800人	1157	64.3%
	7	要支援・要介護認定更新申請者、区分変更申請者	1,000人	523	52.3%
	8	要介護認定者	1,000人	396	39.6%
	9	介護保険施設サービスを利用する第1号被保険者	200人	83	41.5%
	10	居宅介護支援事業所、介護予防支援事業所、居宅介護・介護予防事業所、施設サービス事業所	160事業所	84	55.3%
	11	居宅介護支援事業所に在籍するケアマネジャー	100人	66	66.0%
健康増進計画	12	市内在住の18歳以上の市民（住民基本台帳無作為抽出）	2,000人	728	36.4%

5 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものに網かけをしています。（無回答を除く）
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

Ⅲ 障害者計画・障害福祉計画策定に関する調査

Ⅲ 障害者計画・障害福祉計画策定に関する調査

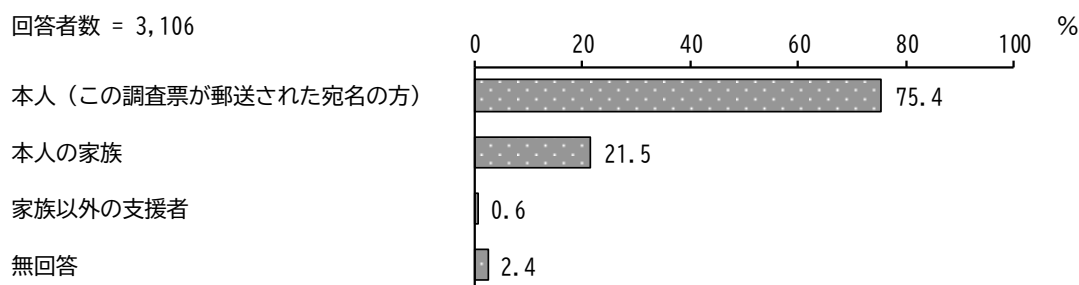
Ⅲ-1 当事者調査

1 回答者属性

F1 お答えいただくのは、どなたですか。(1つに○)

「本人（この調査票が郵送された宛名の方）」の割合が75.4%と最も高く、次いで「本人の家族」の割合が21.5%となっています。

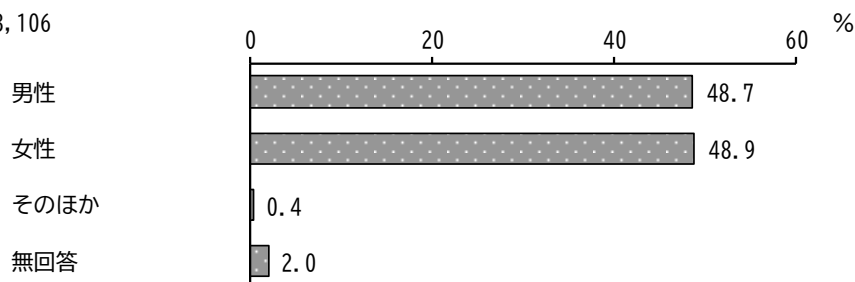
回答者数 = 3,106



F2 あなたの性別はどちらですか。(1つに○)

「男性」の割合が48.7%、「女性」の割合が48.9%となっています。

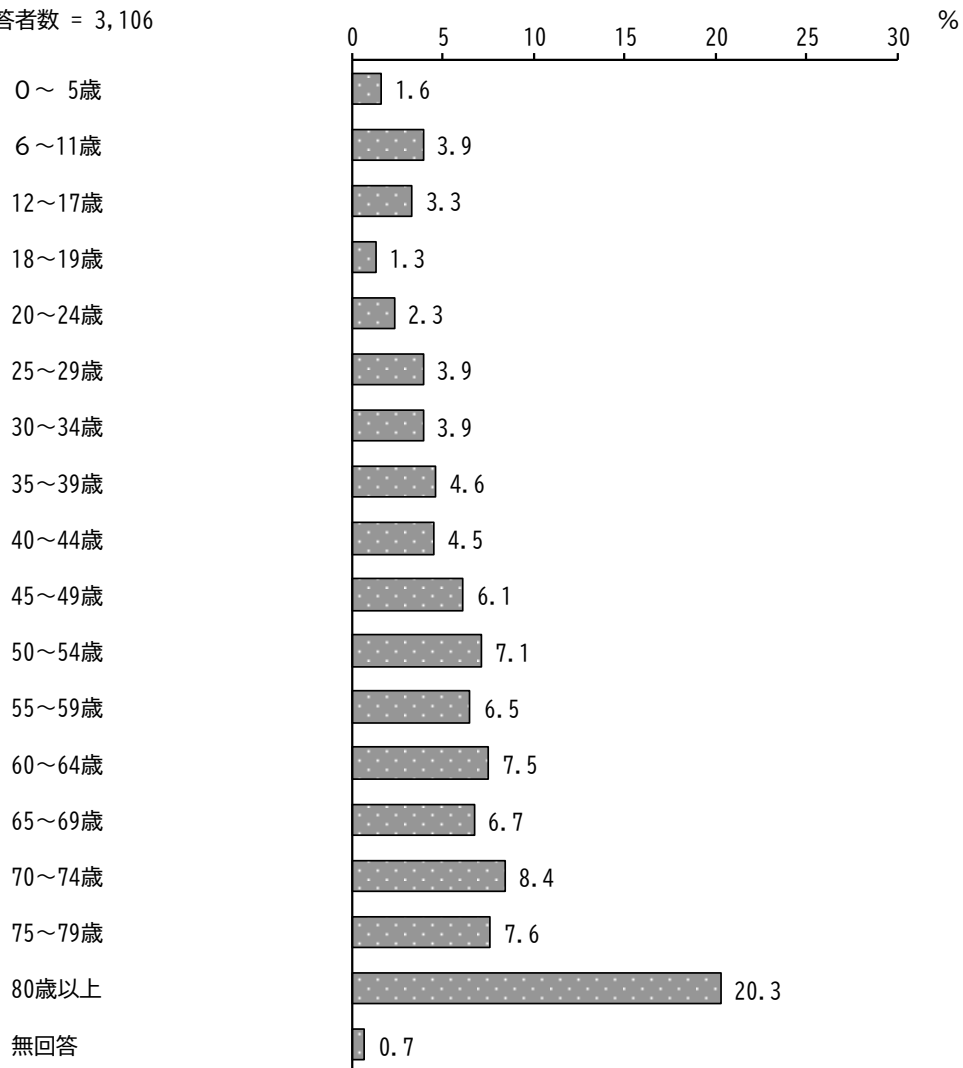
回答者数 = 3,106



F 3 あなたの年齢（令和4（2022）年12月1日現在）は次のどれですか。（1つに○）

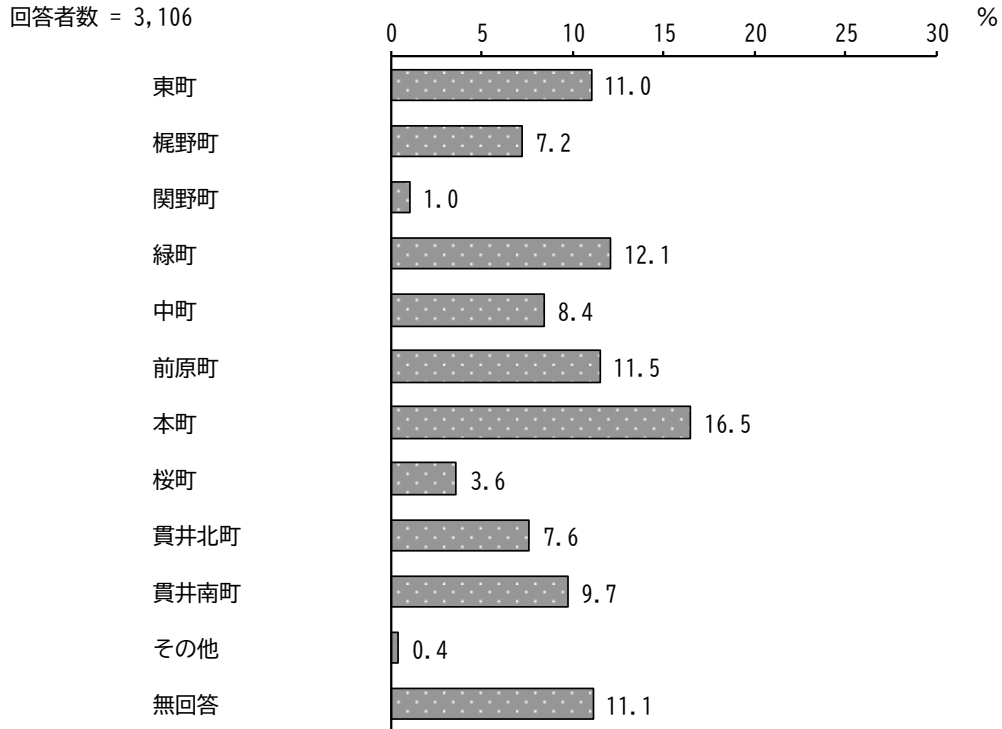
「80歳以上」の割合が20.3%と最も高くなっています。

回答者数 = 3,106



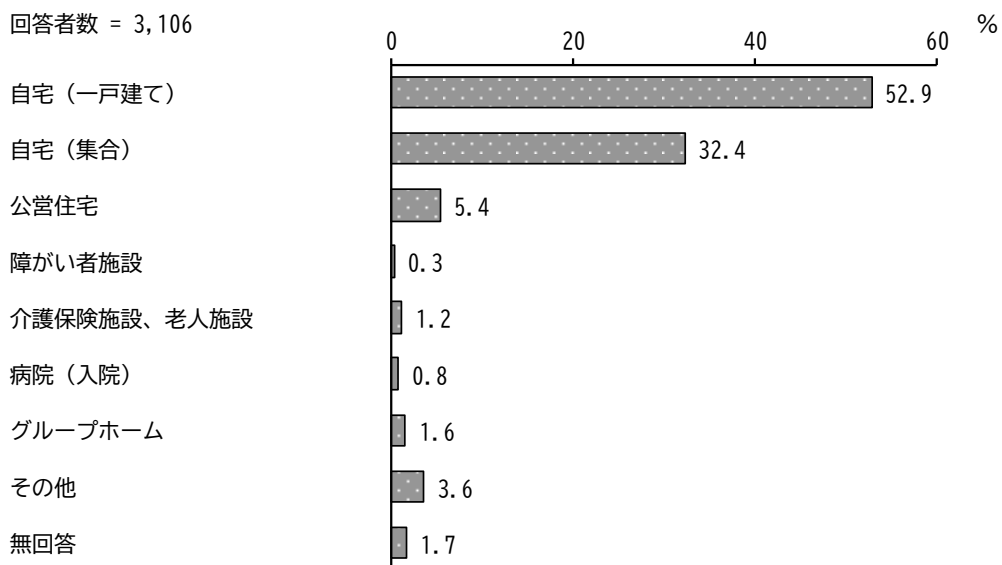
F 4 あなたはどちらにお住まいですか。(1つに○) また、丁目を〔 〕内にご記入ください。

「本町」の割合が16.5%と最も高く、次いで「緑町」の割合が12.1%、「前原町」の割合が11.5%となっています。



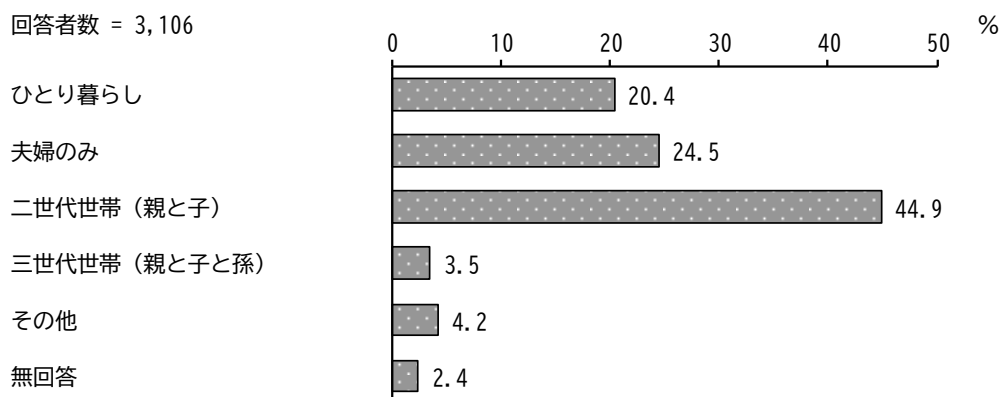
F 5 現在のお住まい（生活の場）は、次のどれにあたりますか。(1つに○)

「自宅（一戸建て）」の割合が52.9%と最も高く、次いで「自宅（集合）」の割合が32.4%となっています。



F 6 あなたの家族構成はどのようになっていますか。施設等に入所している方は実家の状態をお答えください。(1つに○)

「二世世代世帯（親と子）」の割合が 44.9%と最も高く、次いで「夫婦のみ」の割合が 24.5%、「ひとり暮らし」の割合が 20.4%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「二世世代世帯（親と子）」の割合が、身体障害者手帳所持者で「夫婦のみ」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「ひとり暮らし」の割合が高くなっています。

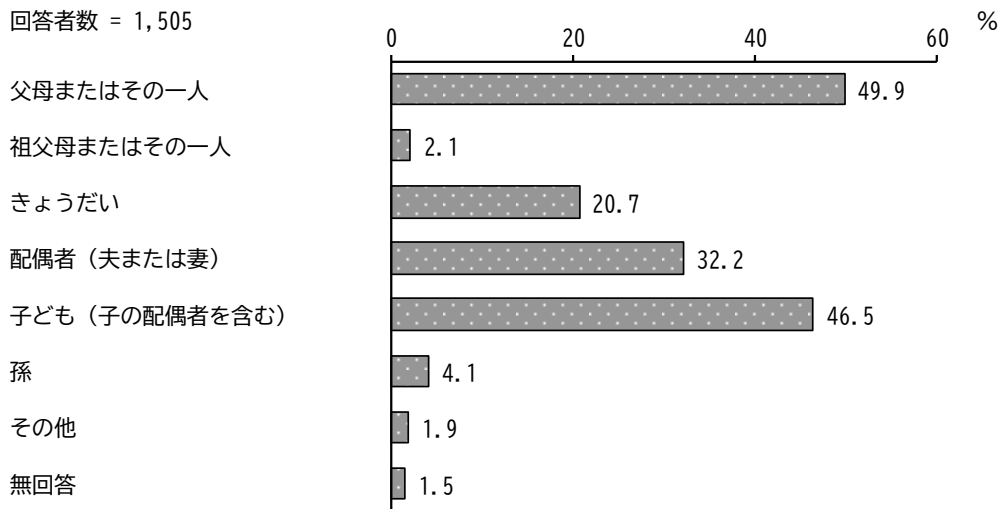
単位：%

区分	回答者数 (件)	ひとり暮らし	夫婦のみ	二世世代世帯 (親と子)	三世世代世帯 (親と子と孫)	その他	無回答
全体	3106	20.4	24.5	44.9	3.5	4.2	2.4
身体障害者手帳所持者	1245	20.9	34.5	34.3	4.4	3.5	2.4
愛の手帳所持者	267	3.7	4.9	76.0	7.1	4.9	3.4
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	30.1	16.3	47.8	1.4	3.8	0.5
その他	835	25.4	14.7	50.5	2.6	4.6	2.2

F 6で「二世帯世帯（親と子）」、「三世帯世帯（親と子と孫）」を選択した方にお聞きします。

F 6-1 現在、あなたと一緒に暮らしている人は、どなたですか。あなたからみた続柄で、該当する方をお答えください。（いくつでも○）

「父母またはその一人」の割合が49.9%と最も高く、次いで「子ども（子の配偶者を含む）」の割合が46.5%、「配偶者（夫または妻）」の割合が32.2%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「父母またはその一人」の割合が、身体障害者手帳所持者で「子ども（子の配偶者を含む）」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「父母またはその一人」の割合が高くなっています。

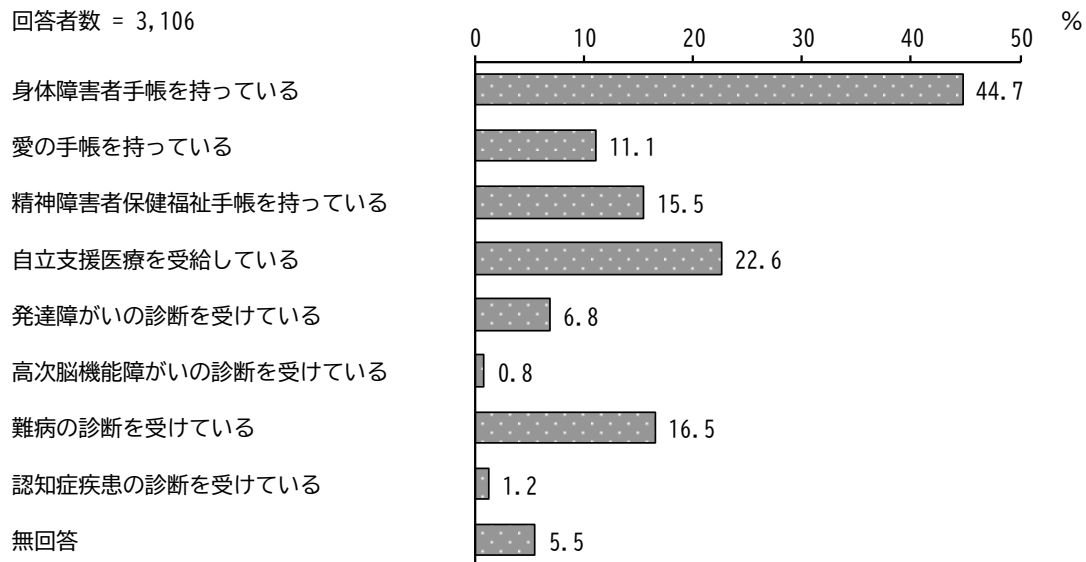
単位：%

区分	回答者数 (件)	人父母またはその一人	一祖父母またはその一人	きょうだい	妻) 配偶者（夫または妻）	を子ども（子の配偶者を含む）	孫	その他	無回答
全 体	1505	49.9	2.1	20.7	32.2	46.5	4.1	1.9	1.5
身体障害者手帳所持者	482	21.8	0.8	6.6	45.2	73.2	10.8	2.1	1.0
愛の手帳所持者	222	91.4	6.3	41.4	3.6	4.5	—	3.6	1.4
精神障害者保健福祉手帳所持者	103	72.8	1.0	26.2	15.5	26.2	1.0	1.9	—
その他	444	63.5	2.3	26.6	26.4	33.1	0.9	1.6	1.6

2 障害の状況について

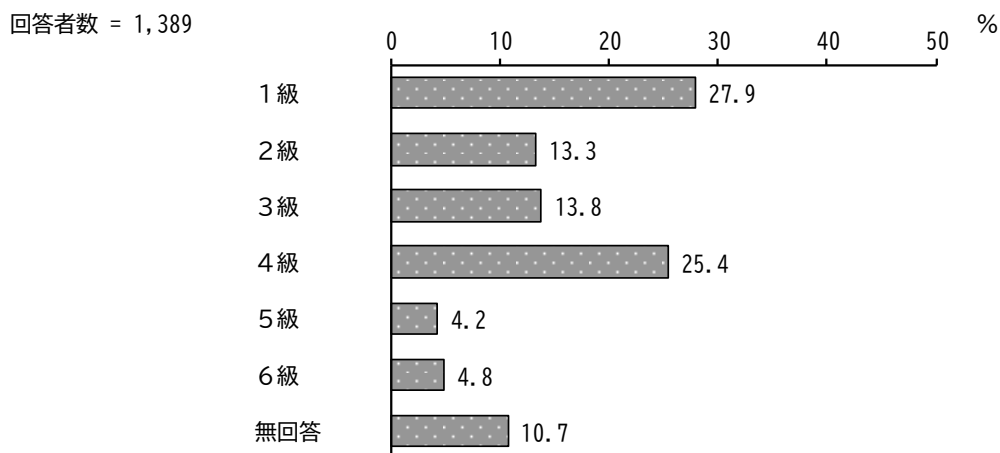
問1 お持ちの手帳又は受けている診断名等についてお答えください。また、手帳の級・度をご記入ください。(いくつでも○)

「身体障害者手帳を持っている」の割合が44.7%と最も高く、次いで「自立支援医療を受給している」の割合が22.6%、「難病の診断を受けている」の割合が16.5%となっています。



身体障害者手帳

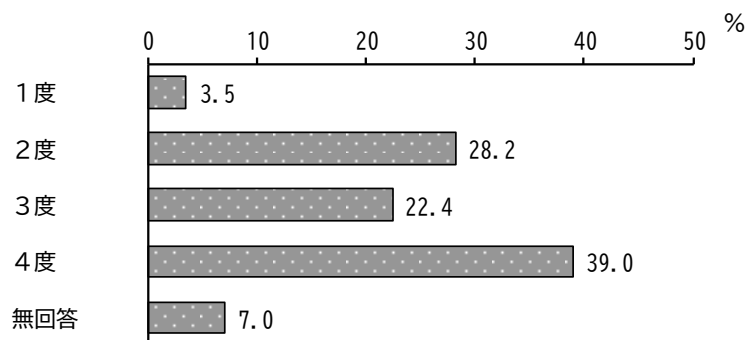
「1級」の割合が27.9%と最も高く、次いで「4級」の割合が25.4%、「3級」の割合が13.8%となっています。



愛の手帳

「4度」の割合が39.0%と最も高く、次いで「2度」の割合が28.2%、「3度」の割合が22.4%となっています。

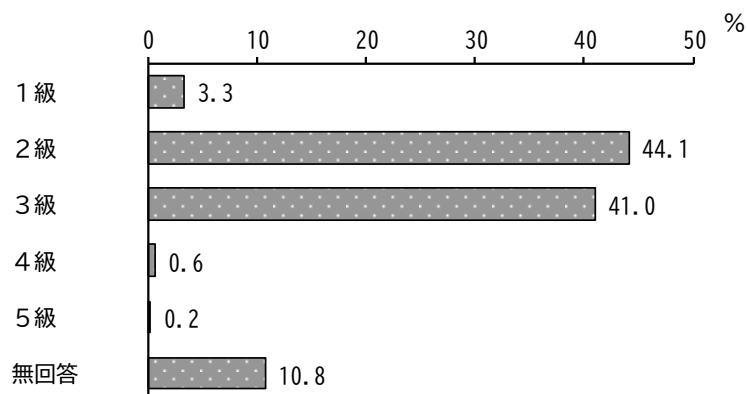
回答者数 = 344



精神障害者保健福祉手帳

「2級」の割合が44.1%と最も高く、次いで「3級」の割合が41.0%となっています。

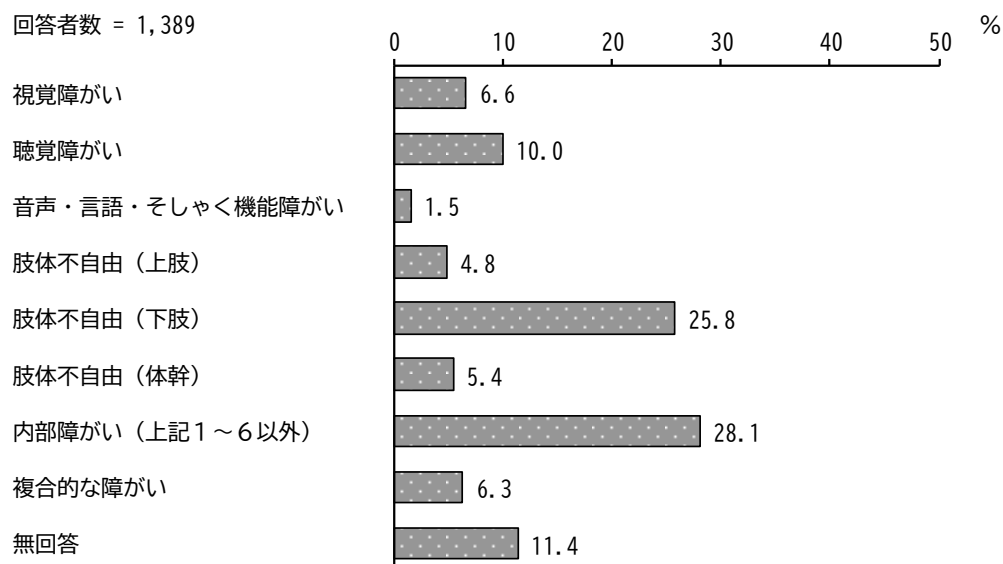
回答者数 = 481



問1で「身体障害者手帳を持っている」を選択した方にお聞きします。

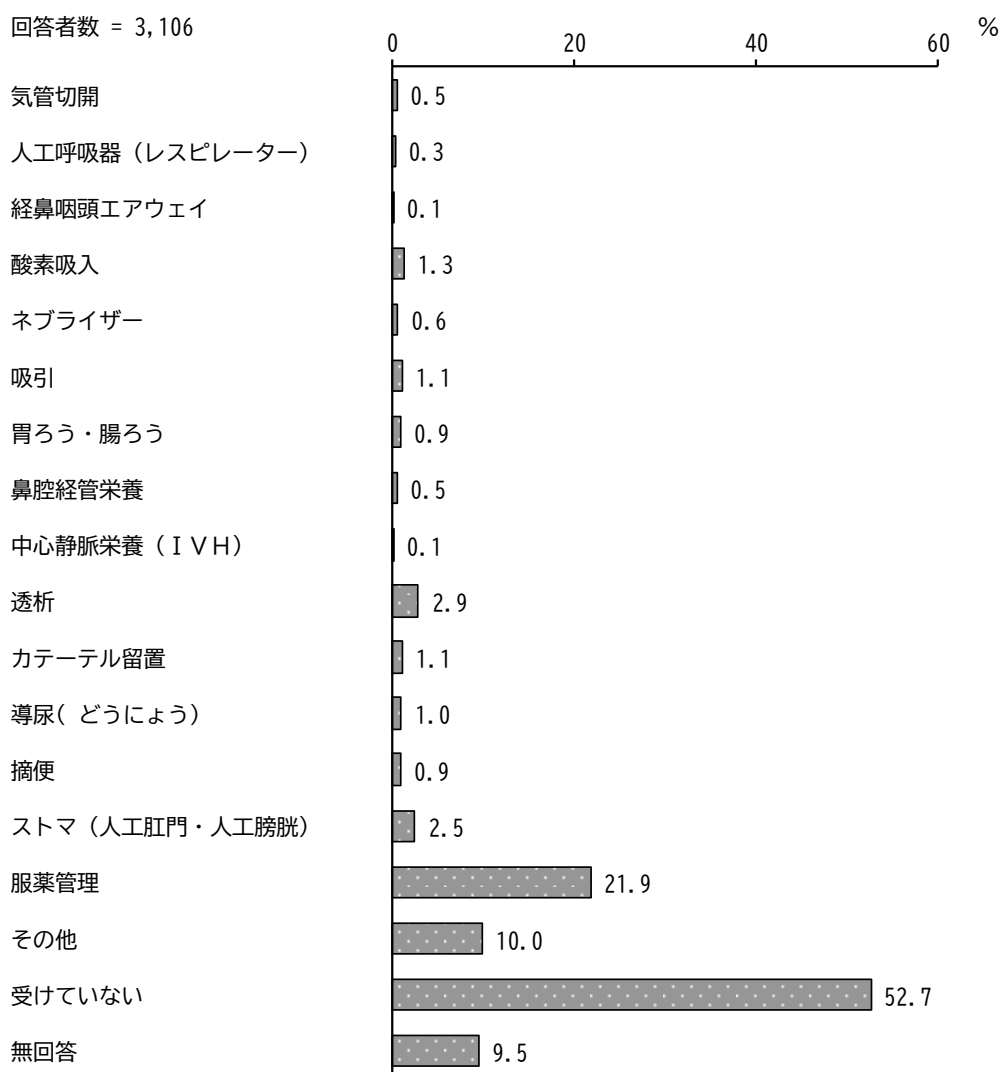
問1-1 身体障害者手帳をお持ちの場合、主な障がいをお答えください。(1つに○)

「内部障がい(上記1~6以外)」の割合が28.1%と最も高く、次いで「肢体不自由(下肢)」の割合が25.8%、「聴覚障がい」の割合が10.0%となっています。



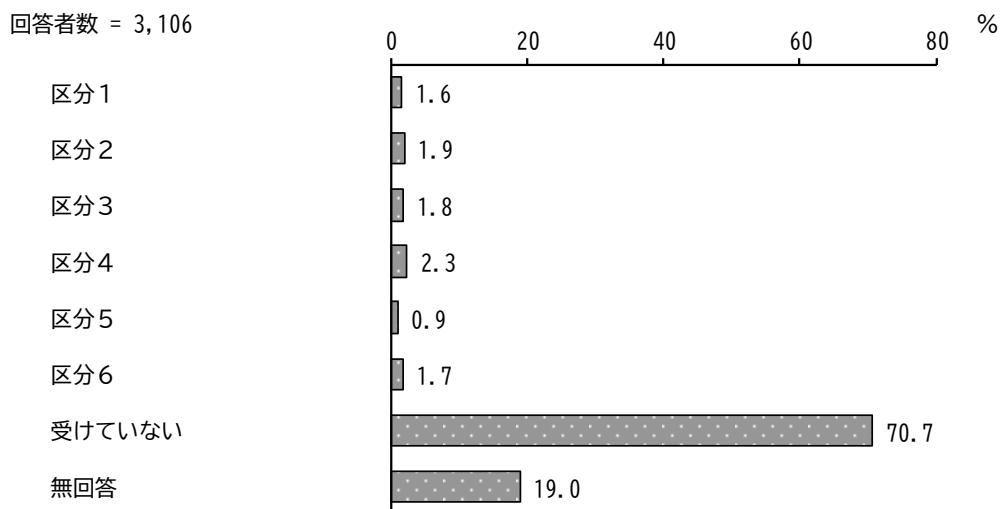
問2 現在、あなたは医療的ケアを受けていますか。(いくつでも○)

「受けていない」の割合が52.7%と最も高く、次いで「服薬管理」の割合が21.9%となっています。



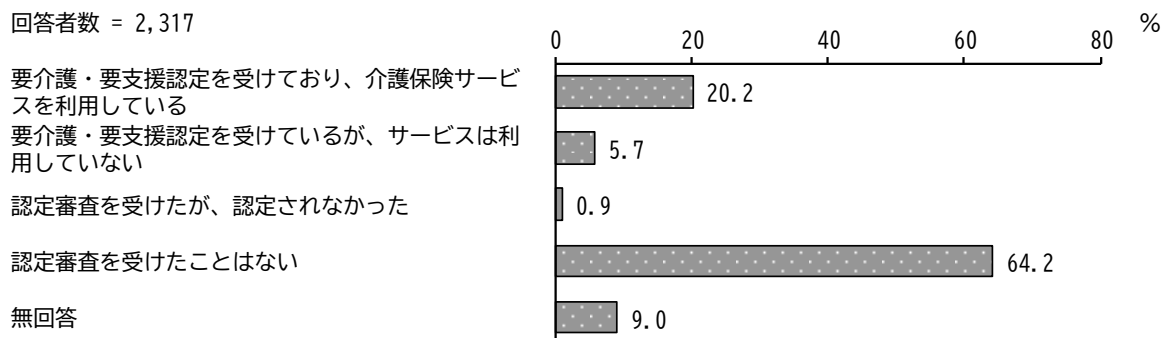
問3 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。(1つに○)

「受けていない」の割合が70.7%と最も高くなっています。



問4 40歳以上の方におたずねします。あなたは介護保険制度の要介護・要支援認定を受けていますか。(1つに○)

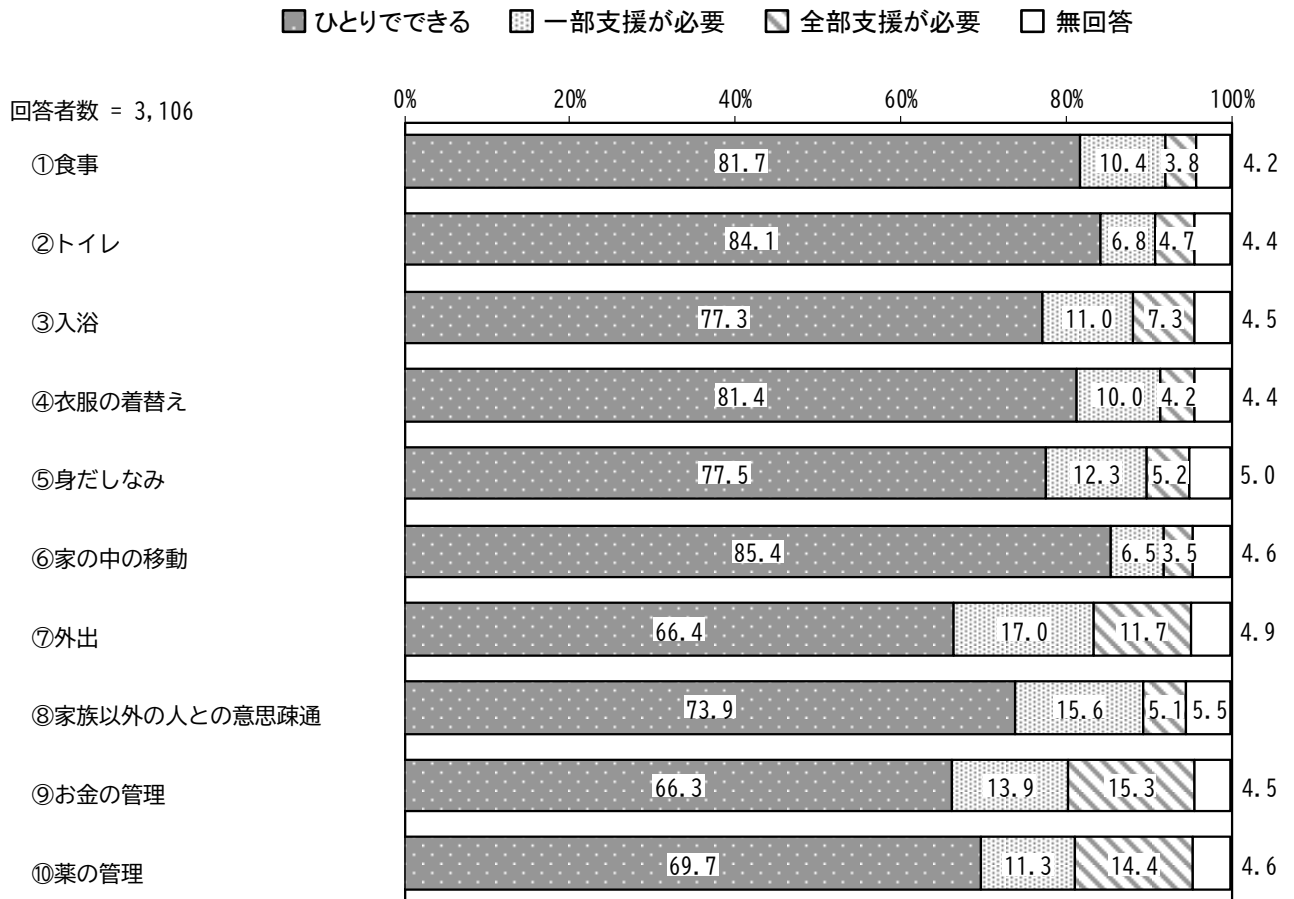
「認定審査を受けたことはない」の割合が64.2%と最も高く、次いで「要介護・要支援認定を受けており、介護保険サービスを利用している」の割合が20.2%となっています。



3 日常生活・介護の状況について

問5 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。

『⑥ 家の中の移動』で「ひとりでできる」の割合が高くなっています。『⑨ お金の管理』で「全部支援が必要」の割合が高くなっています。



①食事

【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「一部支援が必要」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	ひじりどきかる	一部支援が必要	全部支援が必要	無回答
全 体	3106	81.7	10.4	3.8	4.2
身体障害者手帳所持者	1245	83.8	8.0	4.1	4.1
愛の手帳所持者	267	55.8	27.3	13.1	3.7
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	83.7	9.6	3.3	3.3
その他	835	82.5	12.0	2.0	3.5

②トイレ

【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「一部支援が必要」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	ひじりどきかる	一部支援が必要	全部支援が必要	無回答
全 体	3106	84.1	6.8	4.7	4.4
身体障害者手帳所持者	1245	84.2	6.0	5.4	4.4
愛の手帳所持者	267	58.8	22.8	15.0	3.4
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	90.0	2.9	2.9	4.3
その他	835	88.5	5.5	2.5	3.5

③入浴

【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「一部支援が必要」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	ひとりでは できない	一部支援が 必要	全部支援が 必要	無回答
全 体	3106	77.3	11.0	7.3	4.5
身体障害者手帳所持者	1245	76.3	10.3	8.8	4.7
愛の手帳所持者	267	44.9	33.0	18.4	3.7
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	84.2	8.1	3.3	4.3
その他	835	83.7	8.0	4.8	3.5

④衣服の着替え

【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「一部支援が必要」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	ひとりでは できない	一部支援が 必要	全部支援が 必要	無回答
全 体	3106	81.4	10.0	4.2	4.4
身体障害者手帳所持者	1245	80.2	9.6	5.5	4.7
愛の手帳所持者	267	56.9	26.6	12.7	3.7
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	87.6	5.3	2.4	4.8
その他	835	87.7	7.5	1.3	3.5

⑤身だしなみ

【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「一部支援が必要」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	ひとり暮らし	一部支援が必要	全部支援が必要	無回答
全 体	3106	77.5	12.3	5.2	5.0
身体障害者手帳所持者	1245	80.4	8.5	5.3	5.8
愛の手帳所持者	267	39.0	39.3	18.7	3.0
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	77.5	14.8	1.9	5.7
その他	835	81.3	11.7	3.4	3.6

⑥家の中の移動

【障がい種別】

障がい種別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	ひとり暮らし	一部支援が必要	全部支援が必要	無回答
全 体	3106	85.4	6.5	3.5	4.6
身体障害者手帳所持者	1245	81.4	8.5	5.2	4.9
愛の手帳所持者	267	78.7	10.5	6.0	4.9
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	88.0	4.8	2.4	4.8
その他	835	92.2	3.2	1.2	3.4

⑦外出

【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「全部支援が必要」「一部支援が必要」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	ひとり暮らし	一部支援が必要	全部支援が必要	無回答
全 体	3106	66.4	17.0	11.7	4.9
身体障害者手帳所持者	1245	64.9	15.7	14.0	5.4
愛の手帳所持者	267	30.0	33.7	33.3	3.0
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	73.7	18.2	3.3	4.8
その他	835	73.1	16.4	6.7	3.8

⑧家族以外の人との意思疎通

【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「一部支援が必要」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「一部支援が必要」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	ひとり暮らし	一部支援が必要	全部支援が必要	無回答
全 体	3106	73.9	15.6	5.1	5.5
身体障害者手帳所持者	1245	79.0	10.9	4.1	6.0
愛の手帳所持者	267	29.2	46.1	21.7	3.0
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	70.8	21.1	3.3	4.8
その他	835	73.9	17.7	3.8	4.6

⑨お金の管理

【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「全部支援が必要」「一部支援が必要」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「一部支援が必要」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	ひとり暮らし	一部支援が必要	全部支援が必要	無回答
全 体	3106	66.3	13.9	15.3	4.5
身体障害者手帳所持者	1245	73.9	9.8	11.4	4.9
愛の手帳所持者	267	12.0	24.7	60.7	2.6
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	57.4	27.8	10.0	4.8
その他	835	66.6	17.0	12.8	3.6

⑩薬の管理

【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「全部支援が必要」「一部支援が必要」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「一部支援が必要」の割合が高くなっています。

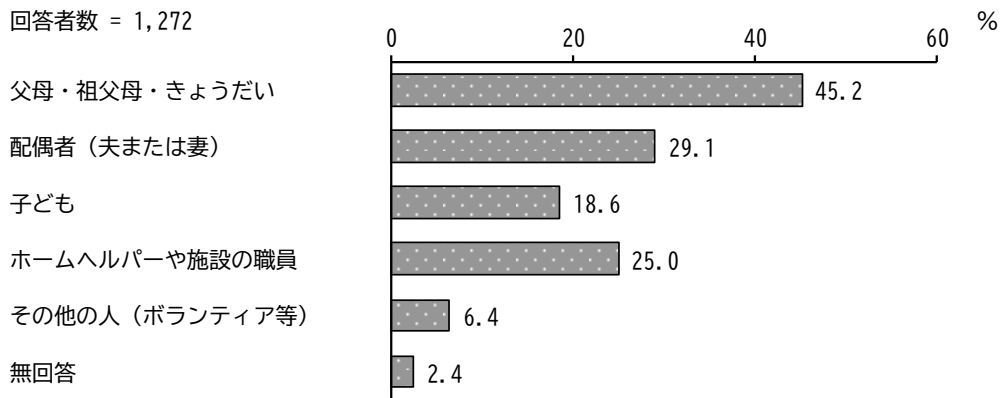
単位：％

区分	回答者数 (件)	ひとり暮らし	一部支援が必要	全部支援が必要	無回答
全 体	3106	69.7	11.3	14.4	4.6
身体障害者手帳所持者	1245	76.1	8.4	10.8	4.8
愛の手帳所持者	267	18.7	21.3	55.4	4.5
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	67.5	19.6	8.1	4.8
その他	835	70.8	12.9	12.6	3.7

問5のいずれかの項目で「一部支援が必要」、「全部支援が必要」を選んだ方にお聞きします。

問6 あなたを支援してくれる方は主にどなたですか。(いくつでも○)

「父母・祖父母・きょうだい」の割合が45.2%と最も高く、次いで「配偶者（夫または妻）」の割合が29.1%、「ホームヘルパーや施設の職員」の割合が25.0%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「父母・祖父母・きょうだい」の割合が、身体障害者手帳所持者で「子ども」「配偶者（夫または妻）」の割合が高くなっています。

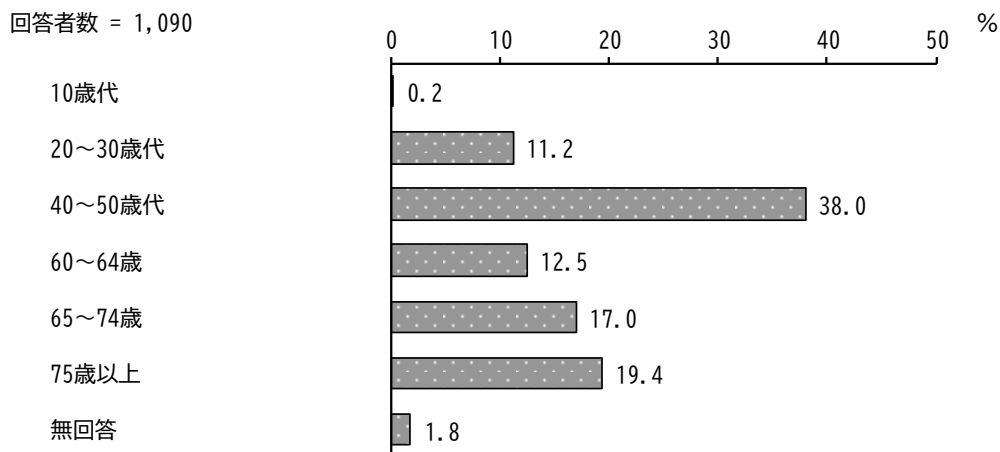
単位：%

区分	回答者数(件)	だ い 父 母 ・ 祖 父 母 ・ き よ う だ い	配 偶 者 (夫 ま た は 妻)	子 ど も	ホ ー ム ヘ ル パ ー や 施 設 の 職 員	そ の 他 の 人 (ボ ラ ン テ ィ ア 等)	無 回 答
全 体	1272	45.2	29.1	18.6	25.0	6.4	2.4
身体障害者手帳所持者	464	13.6	46.1	36.9	28.0	5.4	3.0
愛の手帳所持者	233	87.1	3.0	0.9	30.5	6.4	1.3
精神障害者保健福祉手帳所持者	100	50.0	26.0	7.0	23.0	11.0	2.0
その他	339	64.3	19.5	6.8	21.2	8.3	2.4

問6で「父母・祖父母・きょうだい」、「配偶者（夫または妻）」、「子ども」を選んだ方にお聞きします。

問6-1 あなたを支援してくれる家族で、特に中心となっている方（以下、「支援者」）の年齢をおたずねします。（1つに○）

「40～50歳代」の割合が38.0%と最も高く、次いで「75歳以上」の割合が19.4%、「65～74歳」の割合が17.0%となっています。



【障がい種別】

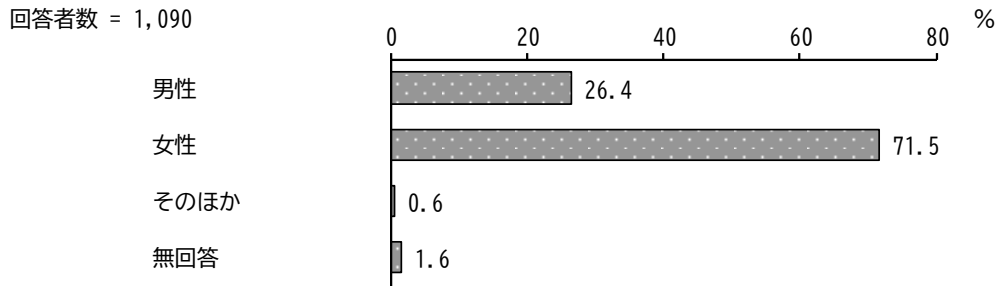
障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「40～50歳代」の割合が、身体障害者手帳所持者で「75歳以上」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「20～30歳代」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	10歳代	20 ～ 30歳代	40 ～ 50歳代	60 ～ 64歳	65 ～ 74歳	75歳以上	無回答
全体	1090	0.2	11.2	38.0	12.5	17.0	19.4	1.8
身体障害者手帳所持者	388	0.3	6.4	24.5	13.7	22.9	30.4	1.8
愛の手帳所持者	210	—	10.5	51.4	13.8	14.8	8.6	1.0
精神障害者保健福祉手帳所持者	79	—	19.0	40.5	10.1	8.9	20.3	1.3
その他	291	0.3	15.1	44.0	12.4	14.8	11.0	2.4

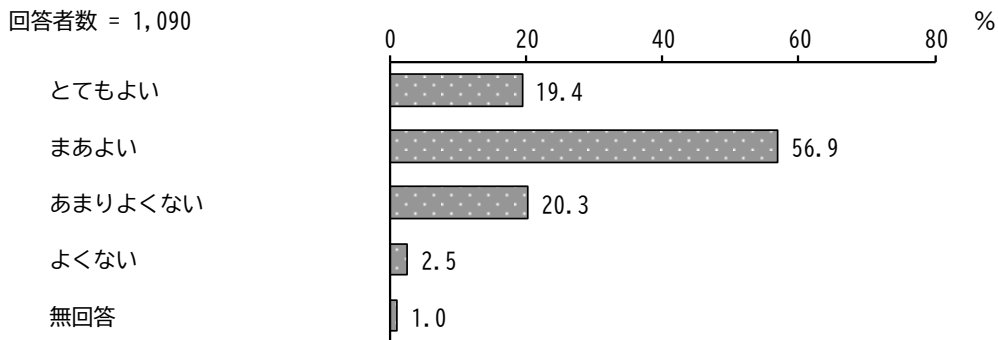
問6-2 支援者の性別はどちらですか。(1つに○)

「女性」の割合が71.5%、「男性」の割合が26.4%となっています。



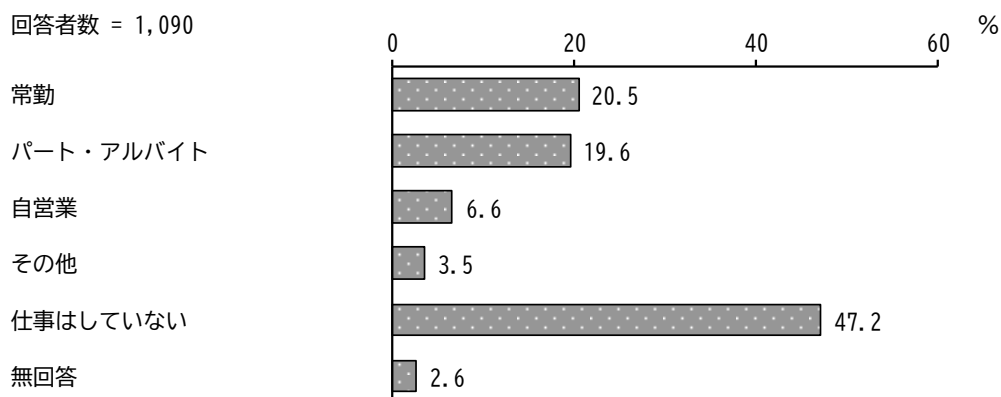
問6-3 支援者の健康状態はいかがですか。(1つに○)

「まあよい」の割合が56.9%と最も高く、次いで「あまりよくない」の割合が20.3%、「とてもよい」の割合が19.4%となっています。



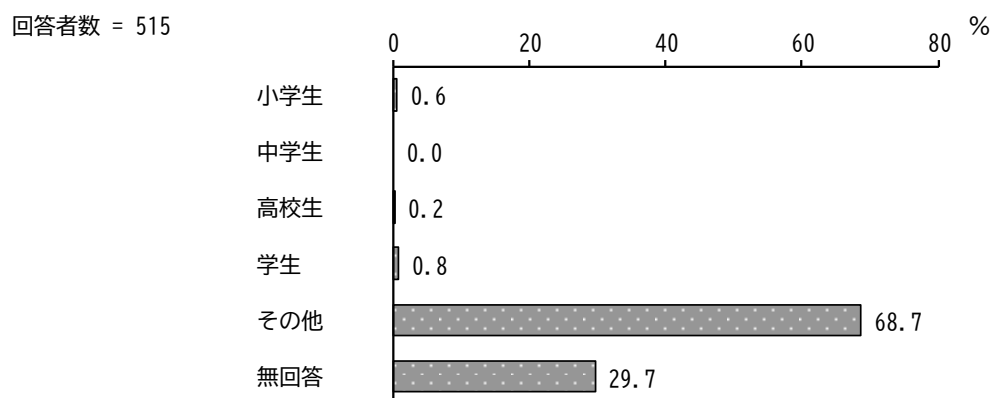
問6-4 支援者は現在、仕事をお持ちですか。(1つに○)「仕事はしていない」を選択した場合は、該当するものをア～オから選んでください。(1つに○)

「仕事はしていない」の割合が47.2%と最も高く、次いで「常勤」の割合が20.5%、「パート・アルバイト」の割合が19.6%となっています。



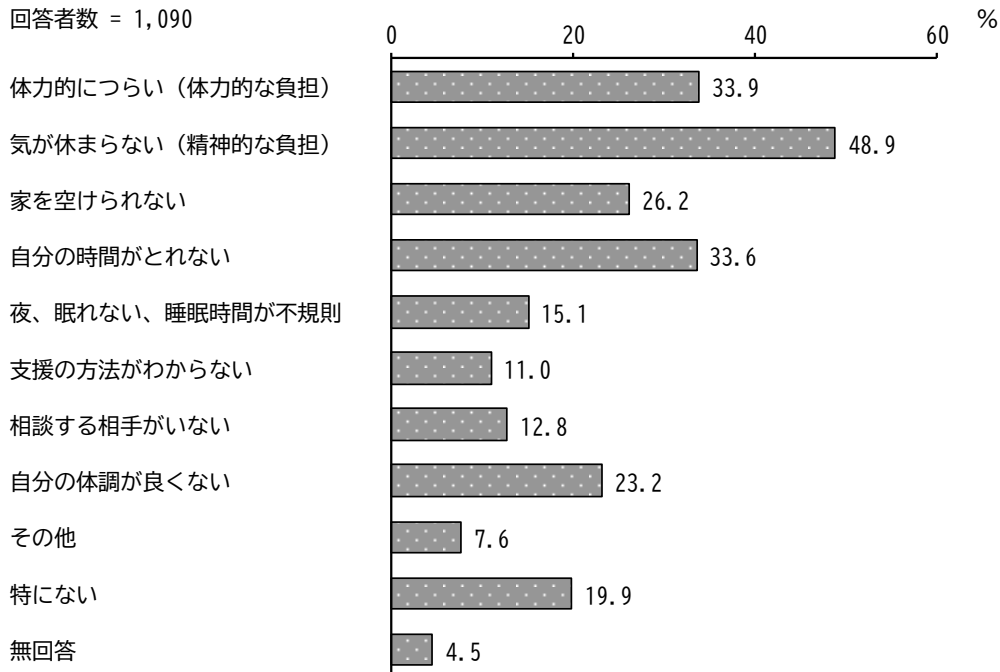
仕事はしていない

「小学生」の割合が0.6%、「高校生」の割合が0.2%、「学生」の割合が0.8%となっています。



問6-5 支援者の方におたずねの上、ご記入ください。ご家族等が支援をするうえで、悩みに感じることは何ですか。(いくつでも○)

「気が休まらない(精神的な負担)」の割合が48.9%と最も高く、次いで「体力的につらい(体力的な負担)」の割合が33.9%、「自分の時間がとれない」の割合が33.6%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、精神障害者保健福祉手帳所持者で「相談する相手がいない」「自分の体調が良くない」「支援の方法がわからない」の割合が高くなっています。

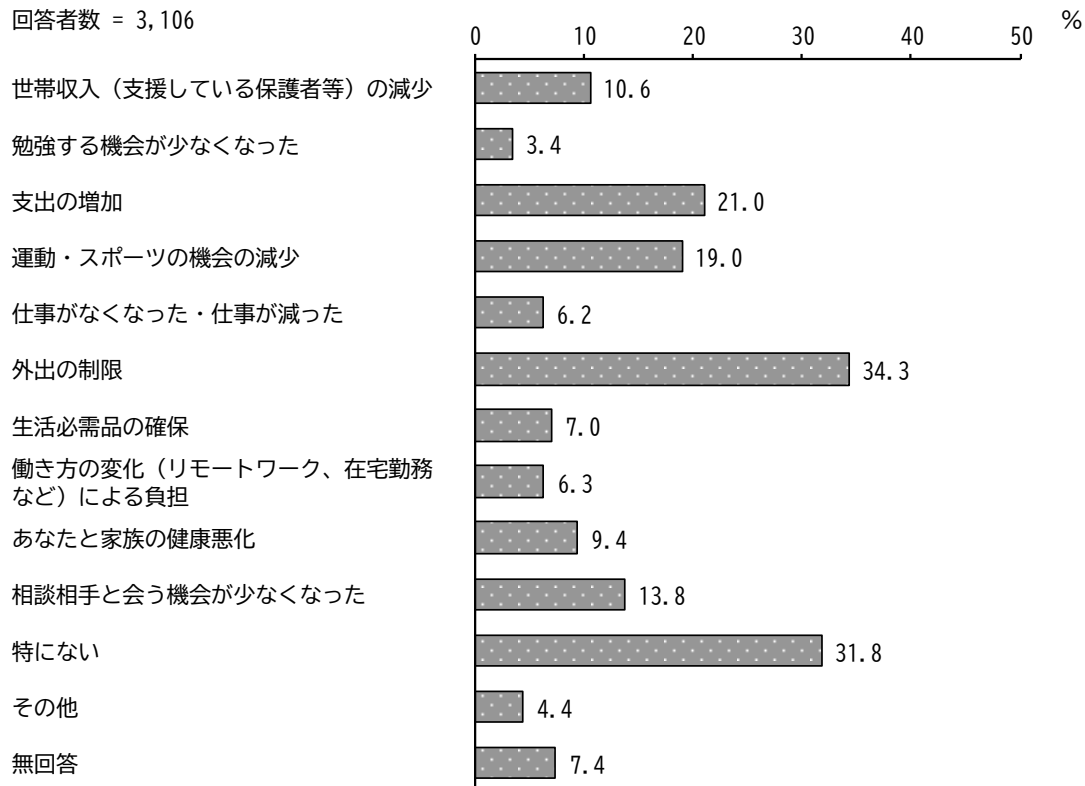
単位：%

区分	回答者数(件)	体力的につらい(体力的な負担)	気が休まらない(精神的な負担)	家を空けられない	自分の時間がとれない	夜、眠れない、睡眠時間が不規則	支援の方法がわからない	相談する相手がいない	自分の体調が良くない	その他	特にない	無回答
全体	1090	33.9	48.9	26.2	33.6	15.1	11.0	12.8	23.2	7.6	19.9	4.5
身体障害者手帳所持者	388	36.6	43.0	26.8	31.7	14.2	5.4	8.2	22.7	6.4	21.4	5.4
愛の手帳所持者	210	41.0	54.3	38.6	42.4	18.1	9.5	10.5	23.3	6.2	19.0	1.0
精神障害者保健福祉手帳所持者	79	31.6	48.1	13.9	27.8	25.3	25.3	30.4	39.2	7.6	20.3	5.1
その他	291	28.9	53.6	21.6	31.3	12.7	17.2	18.2	23.0	10.7	17.5	4.1

問7 新型コロナウイルス感染症の影響により、日常生活で特に困っていることはどのようなことですか。(いくつでも○)

「外出の制限」の割合が34.3%と最も高く、次いで「特にない」の割合が31.8%、「支出の増加」の割合が21.0%となっています。

回答者数 = 3,106



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「外出の制限」「運動・スポーツの機会の減少」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「支出の増加」の割合が高くなっています。

単位：%

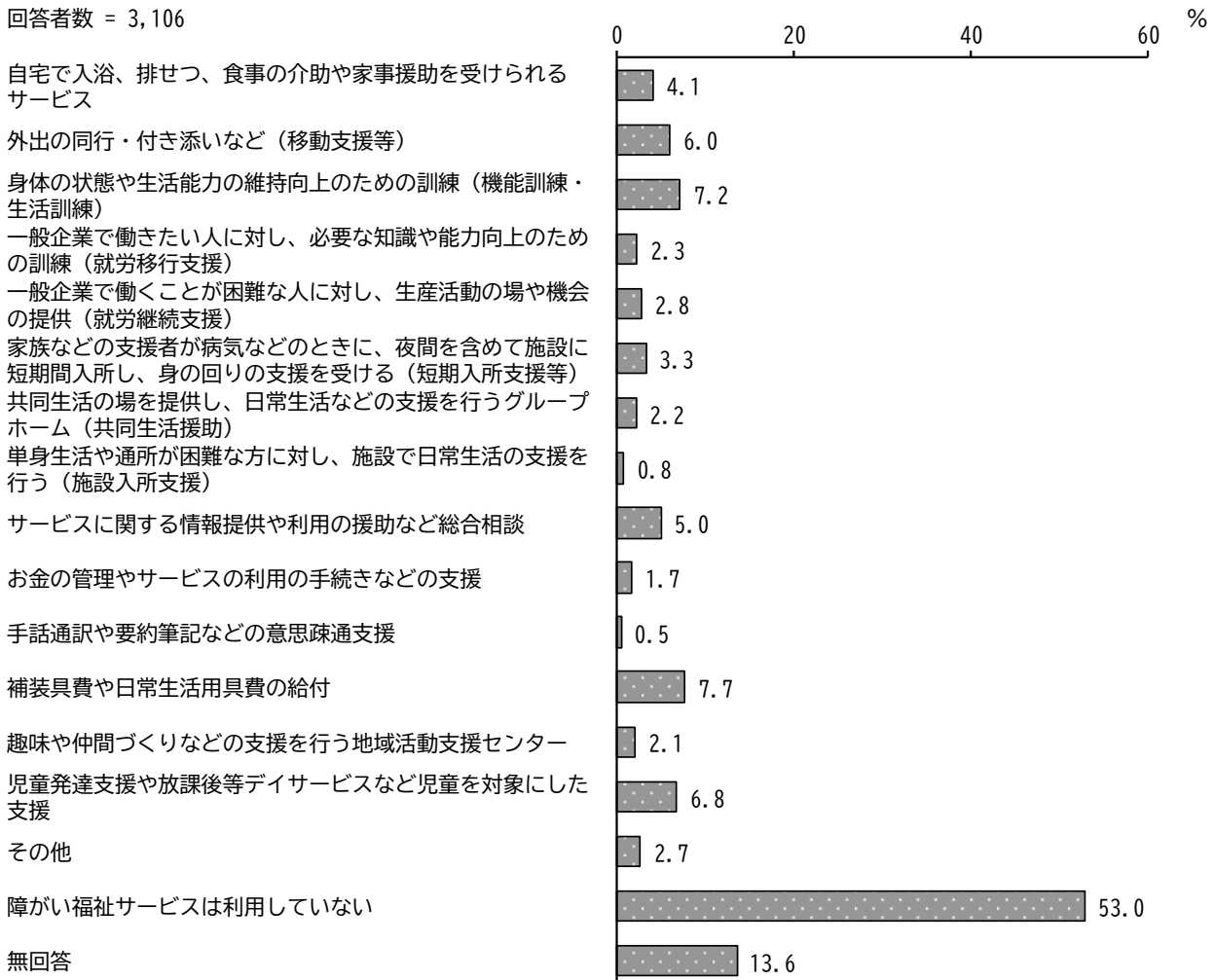
区分	回答者数(件)	世帯収入(支援している保護者等)の減少	勉強する機会が少なくなった	支出の増加	運動・スポーツの機会の減少	仕事 がなくな った・仕 事が減 った	外出の 制限	生活 必需品 の確保	働き方 の変化 (リモ ートワ ーク、 在宅 勤務 など) による 負担	あなた と家族 の健康 悪化	相談 相手と 会う機 会が少 なくな った	特にな い	その他	無回答
全体	3106	10.6	3.4	21.0	19.0	6.2	34.3	7.0	6.3	9.4	13.8	31.8	4.4	7.4
身体障害者 手帳所持者	1245	7.1	2.3	16.3	15.7	4.3	35.1	6.2	4.2	8.4	11.5	34.9	4.1	8.8
愛の手帳所 持者	267	13.1	6.0	20.2	29.6	7.5	46.8	3.7	5.2	9.0	13.1	24.7	6.7	4.9
精神障害者 保健福祉手 帳所持者	209	19.1	4.8	30.6	14.8	11.0	27.3	10.0	10.0	13.9	20.1	29.7	4.8	7.2
その他	835	13.8	4.3	27.5	21.9	8.5	31.3	9.1	8.6	11.0	17.4	28.4	4.9	4.7

4 保健福祉サービスの利用状況について

問8 あなたは次の障がい福祉サービスを利用していますか。(いくつでも○)

「障がい福祉サービスは利用していない」の割合が53.0%と最も高くなっています。

回答者数 = 3,106



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「外出の同行・付き添いなど（移動支援等）」の割合が高くなっています。

単位：％

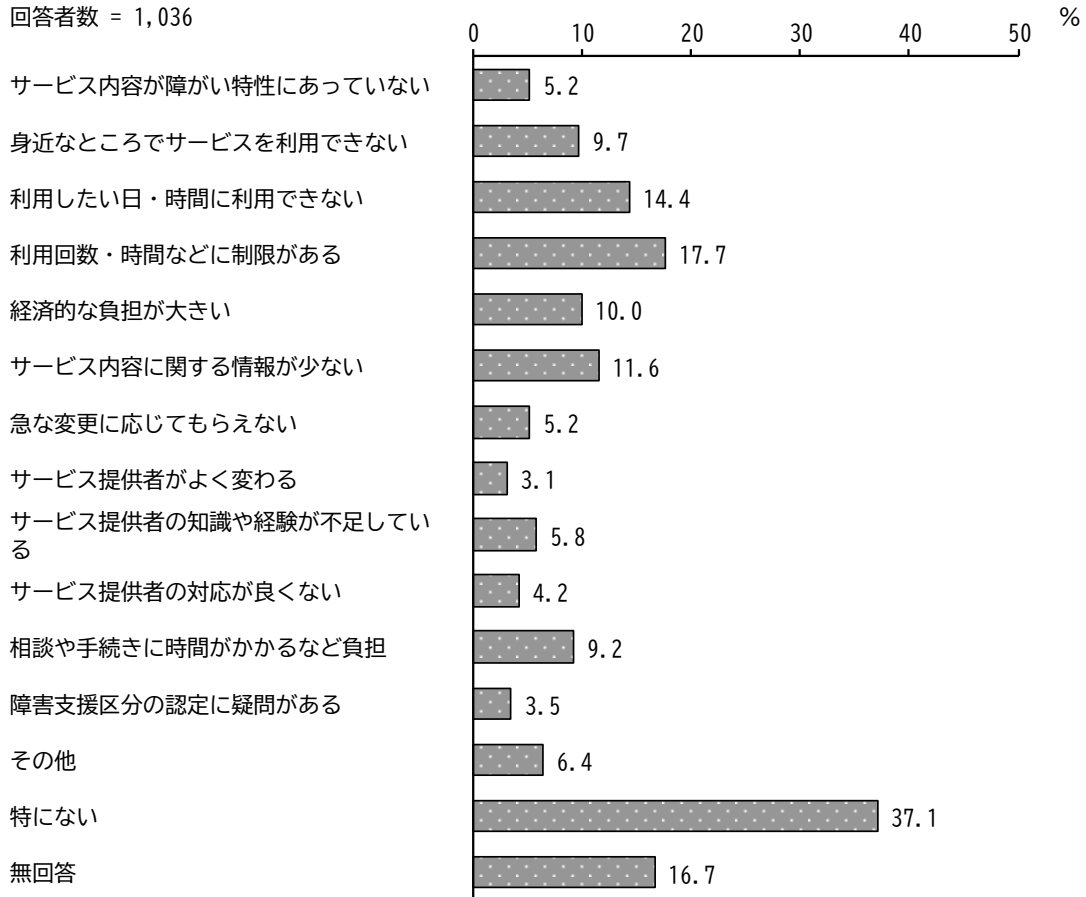
区分	回答者数(件)	自宅で入浴、排せつ、食事の介助や家事援助を受けられるサービス	外出の同行・付き添いなど（移動支援等）	身体の状態や生活能力の維持向上のための訓練（機能訓練・生活訓練）	一般企業で働きたい人に対し、必要な知識や能力向上のための訓練（就労移行支援）	一般企業で働くことが困難な人に対し、生産活動の場や機会の提供（就労継続支援）	家族などの支援者が病気などのときに、夜間を含めて施設に短期間入所し、身の回りの支援を受ける（短期入所支援等）	共同生活の場を提供し、日常生活などの支援を行うグループホーム（共同生活援助）	単身生活や通所が困難な方に対し、施設で日常生活の支援を行う（施設入所支援）
全体	3106	4.1	6.0	7.2	2.3	2.8	3.3	2.2	0.8
身体障害者手帳所持者	1245	4.7	4.3	9.6	0.2	0.4	2.5	0.6	1.0
愛の手帳所持者	267	5.6	31.8	10.1	5.6	11.2	19.1	14.6	1.9
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	6.7	3.3	2.9	8.6	11.0	1.0	2.9	0.5
その他	835	2.8	3.4	4.6	4.2	3.5	1.4	1.7	0.6

区分	サービスに関する情報提供や利用の援助など総合相談	お金の管理やサービスの利用の手続きなどの支援	手話通訳や要約筆記などの意思疎通支援	補装具費や日常生活用具費の給付	趣味や仲間づくりなどの支援を行う地域活動支援センター	児童発達支援や放課後等デイサービスなど児童を対象にした支援	その他	障がい福祉サービスは利用していない	無回答
全体	5.0	1.7	0.5	7.7	2.1	6.8	2.7	53.0	13.6
身体障害者手帳所持者	4.7	0.6	1.2	14.0	2.1	1.0	3.0	53.3	15.7
愛の手帳所持者	11.2	2.6	—	9.0	3.0	28.5	3.4	15.0	6.7
精神障害者保健福祉手帳所持者	3.8	3.8	—	1.0	2.9	3.3	4.8	51.7	10.5
その他	5.5	3.2	—	3.4	2.5	10.5	2.6	57.0	10.4

問8-1 サービスを利用中の方におたずねします。障がい福祉サービスについて不足に感じていること、又は不満に思うことがありますか。(いくつでも○)

「特にない」の割合が37.1%と最も高くなっていますが、「利用回数・時間などに制限がある」の割合が17.7%、「利用したい日・時間に利用できない」の割合が14.4%となっています。

回答者数 = 1,036



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「利用回数・時間などに制限がある」「利用したい日・時間に利用できない」の割合が高くなっています。

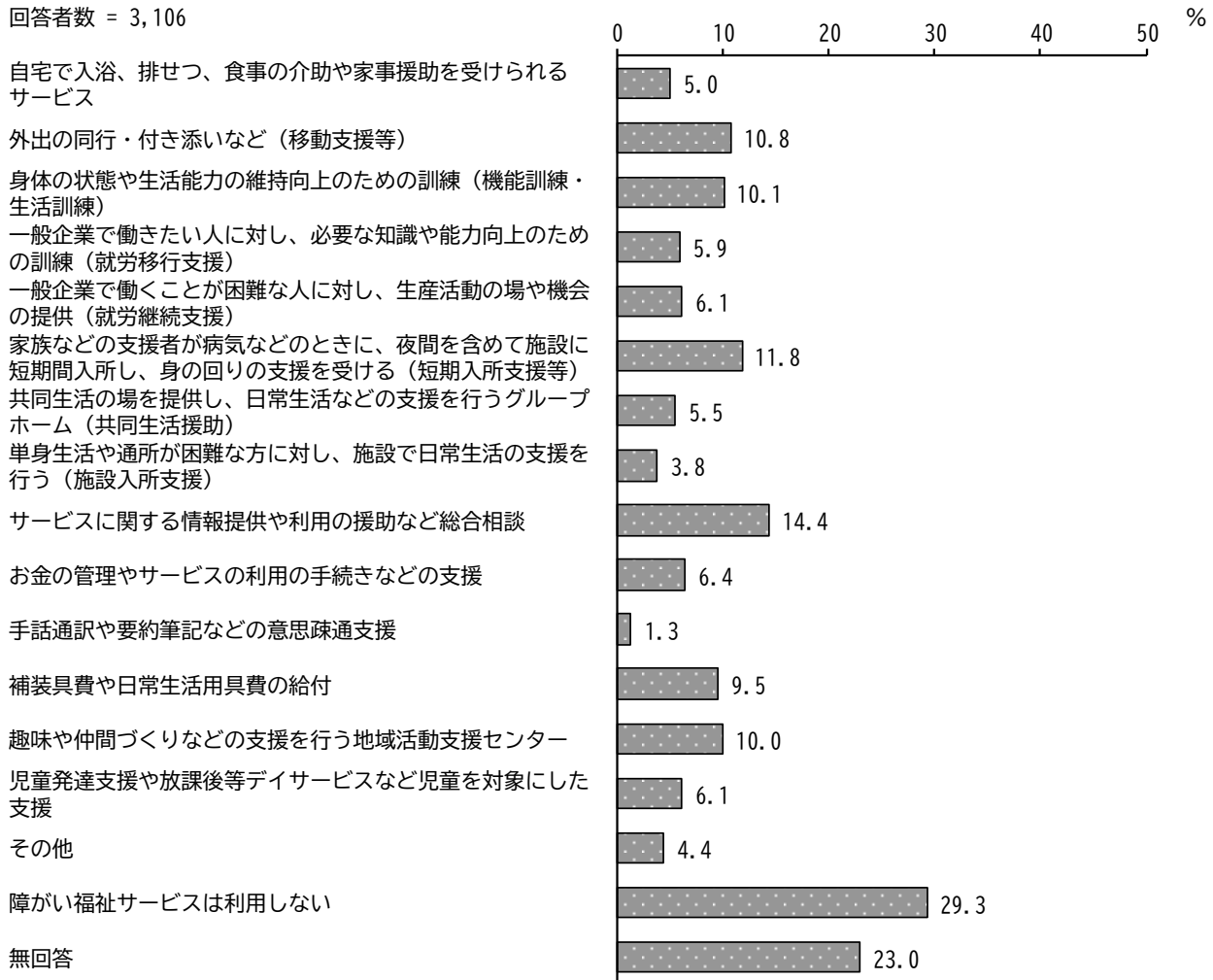
単位：%

区分	回答者数(件)	サービス内容が障がい特性にあっていない	身近なところでサービスを利用できない	利用したい日・時間に利用できない	利用回数・時間などに制限がある	経済的な負担が大きい	サービス内容に関する情報が少ない	急な変更に応じてもらえない	サービス提供者がよく変わる	サービス提供者の知識や経験が不足している	サービス提供者の対応が良くない	相談や手続きに時間がかかるなど負担	障害支援区分の認定に疑問がある	その他	特にない	無回答
全体	1036	5.2	9.7	14.4	17.7	10.0	11.6	5.2	3.1	5.8	4.2	9.2	3.5	6.4	37.1	16.7
身体障害者手帳所持者	386	4.4	7.5	8.0	9.8	14.5	10.9	3.1	1.6	5.4	3.4	8.0	5.7	6.0	33.4	23.3
愛の手帳所持者	209	6.2	16.7	25.8	29.2	6.2	12.9	7.2	6.2	7.7	3.3	10.5	4.3	7.2	35.4	8.1
精神障害者保健福祉手帳所持者	79	6.3	7.6	11.4	12.7	6.3	7.6	6.3	6.3	7.6	10.1	8.9	1.3	3.8	46.8	16.5
その他	272	6.3	8.5	16.9	22.4	9.6	14.0	8.1	2.9	5.1	5.1	11.0	1.1	7.7	39.0	11.4

問9 新たに利用したい、又は利用し続けたい障がい福祉サービスは次のどれですか。
(いくつでも○)

「障がい福祉サービスは利用しない」の割合が29.3%と最も高く、次いで「サービスに関する情報提供や利用の援助など総合相談」の割合が14.4%、「家族などの支援者が病気などのときに、夜間を含めて施設に短期間入所し、身の回りの支援を受ける（短期入所支援等）」の割合が11.8%となっています。

回答者数 = 3,106



障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「外出の同行・付き添いなど（移動支援等）」「家族などの支援者が病気などのときに、夜間を含めて施設に短期間入所し、身の回りの支援を受ける（短期入所支援等）」「趣味や仲間づくりなどの支援を行う地域活動支援センター」の割合が高くなっています。

単位：％

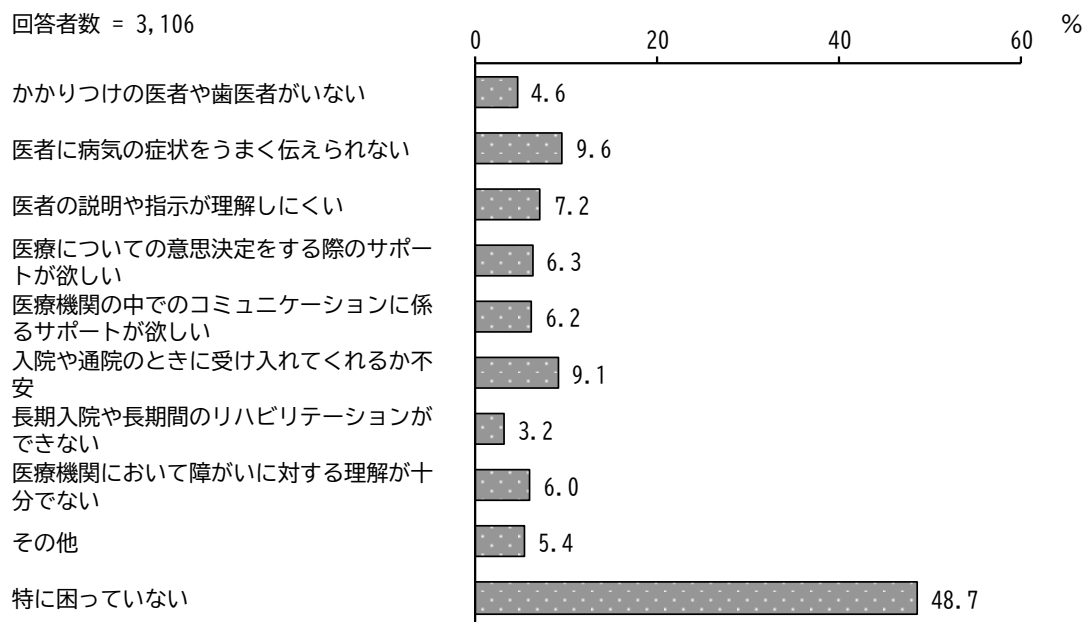
区分	回答者数(件)	自宅で入浴、排せつ、食事の介助や家事援助を受けられるサービス	外出の同行・付き添いなど（移動支援等）	身体の状態や生活能力の維持向上のための訓練（機能訓練・生活訓練）	一般企業で働きたい人に対し、必要な知識や能力向上のための訓練（就労移行支援）	一般企業で働くことが困難な人に対し、生産活動の場や機会の提供（就労継続支援）	家族などの支援者が病気などのときに、夜間を含めて施設に短期間入所し、身の回りの支援を受ける（短期入所支援等）	共同生活の場を提供し、日常生活などの支援を行うグループホーム（共同生活活援助）	単身生活や通所が困難な方に対し、施設で日常生活の支援を行う（施設入所支援）
全体	3106	5.0	10.8	10.1	5.9	6.1	11.8	5.5	3.8
身体障害者手帳所持者	1245	5.5	9.1	11.2	2.3	1.4	12.7	1.8	3.8
愛の手帳所持者	267	9.4	38.2	19.1	8.2	15.0	31.5	35.6	13.5
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	5.3	7.7	6.7	15.3	15.8	9.1	5.3	2.4
その他	835	3.6	9.3	8.7	10.8	10.9	7.9	4.6	2.3

区分	サービスに関する情報提供や利用の援助など総合相談	お金の管理やサービスの利用の続きなどの支援	手話通訳や要約筆記などの意思疎通支援	補装具費や日常生活用具費の給付	趣味や仲間づくりなどの支援を行う地域活動支援センター	児童発達支援や放課後等デイサービスなど児童を対象にした支援	その他	障がい福祉サービスは利用しない	無回答
全体	14.4	6.4	1.3	9.5	10.0	6.1	4.4	29.3	23.0
身体障害者手帳所持者	13.8	2.2	2.4	17.1	8.2	1.4	3.7	26.0	26.7
愛の手帳所持者	22.1	19.5	0.7	10.5	22.1	23.6	3.7	7.9	11.2
精神障害者保健福祉手帳所持者	16.7	12.9	1.4	1.9	16.3	1.9	9.6	26.3	14.4
その他	16.8	9.8	0.2	4.0	10.8	9.9	4.7	33.5	17.7

問 10 医療機関について、困っていることは何ですか。(いくつでも○)

「特に困っていない」の割合が 48.7%と最も高くなっていますが、「医者に病気の症状をうまく伝えられない」の割合が 9.6%、「入院や通院のときに受け入れてくれるか不安」の割合が 9.1%となっています。

回答者数 = 3,106



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「医者に病気の症状をうまく伝えられない」「医療についての意思決定をする際のサポートが欲しい」「入院や通院のときに受け入れてくれるか不安」の割合が高くなっています。

単位：％

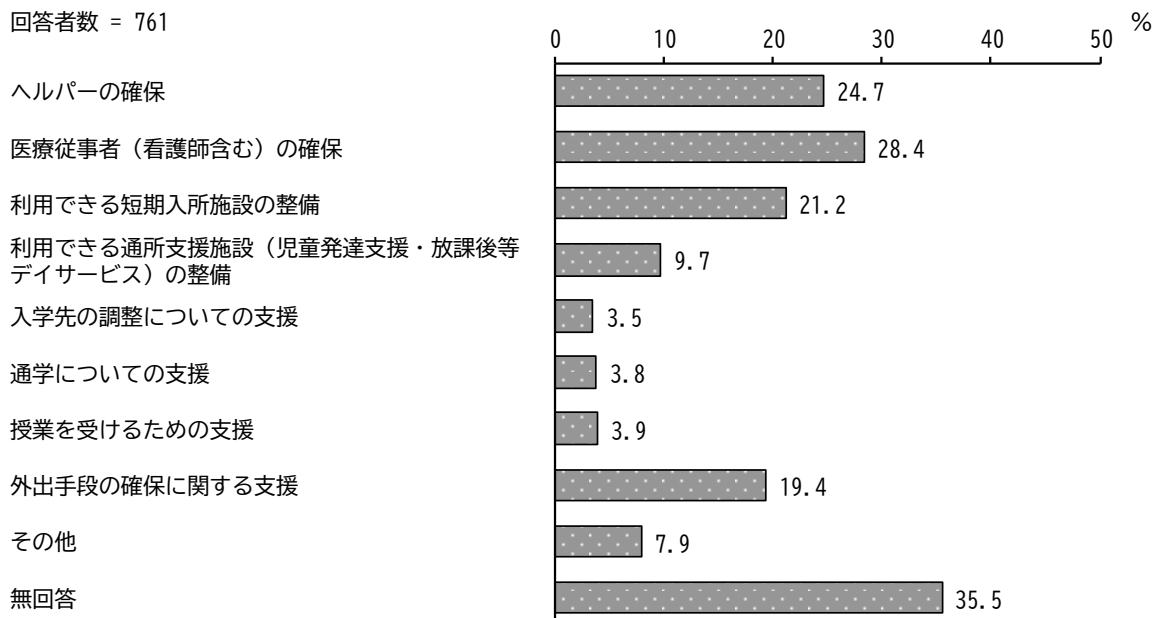
区分	回答者数(件)	かかりつけの医者や歯医者がない	医者に病気の症状をうまく伝えられない	医者の説明や指示が理解しにくい	医療についての意思決定をする際のサポートが欲しい	医療機関でのコミュニケーションに係るサポートが欲しい	入院や通院のときに受け入れてくれるか不安	長期入院や長期間のリハビリテーションがでない	医療機関において障がいに対する理解が十分でない	その他	特に困っていない
全体	3106	4.6	9.6	7.2	6.3	6.2	9.1	3.2	6.0	5.4	48.7
身体障害者手帳所持者	1245	3.8	5.1	4.7	5.4	4.7	8.6	3.8	3.9	3.7	49.5
愛の手帳所持者	267	9.0	24.0	22.5	14.2	13.9	19.9	4.9	15.7	7.1	31.5
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	5.3	15.3	9.6	8.6	11.5	9.1	1.4	7.2	5.7	46.4
その他	835	5.0	14.0	8.4	7.4	6.8	9.2	3.0	9.1	7.5	47.8

区分	通院の手段が確保・利用しにくい	通院の付き添いがいない	専門的な医療機関が近くにない	ちよつとした病気やケガを診てくれる医療機関が近くにない	いくつも医療機関に通わなければならない	気軽に往診を頼める医師がいない	歯の治療が難しい	医療費の負担が大きい	医療機関の建物の構造が医療的ケアが必要な方に配慮されていない	無回答
全体	4.4	2.9	6.7	3.2	7.5	4.9	4.3	9.4	1.4	10.5
身体障害者手帳所持者	5.5	2.7	6.7	2.3	7.4	5.9	3.8	9.9	1.9	12.8
愛の手帳所持者	6.0	7.1	12.7	7.9	10.1	6.7	10.9	7.1	2.6	6.0
精神障害者保健福祉手帳所持者	2.9	2.4	5.7	4.8	10.0	3.8	4.8	11.0	—	9.6
その他	4.6	3.0	5.7	3.5	7.7	4.7	4.8	9.1	1.6	7.2

問 10-1 医療的ケアに関して、どのような支援の充実が必要だと思いますか。(いくつかでも○)

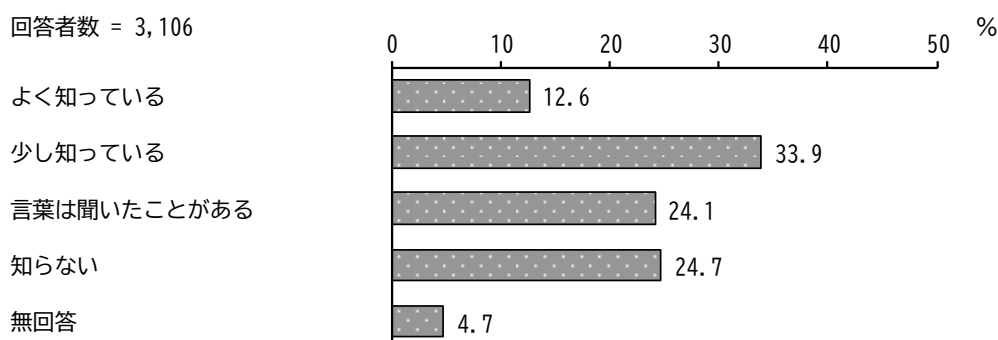
「医療従事者（看護師含む）の確保」の割合が 28.4%と最も高く、次いで「ヘルパーの確保」の割合が 24.7%、「利用できる短期入所施設の整備」の割合が 21.2%となっています。

回答者数 = 761



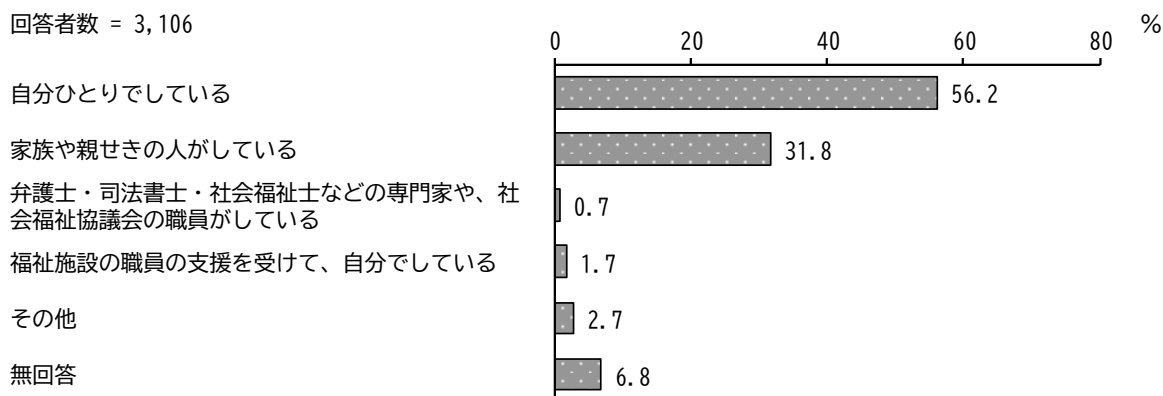
問11 あなたは、成年後見制度について知っていますか。(1つに○)

「少し知っている」の割合が33.9%と最も高く、次いで「知らない」の割合が24.7%、「言葉は聞いたことがある」の割合が24.1%となっています。



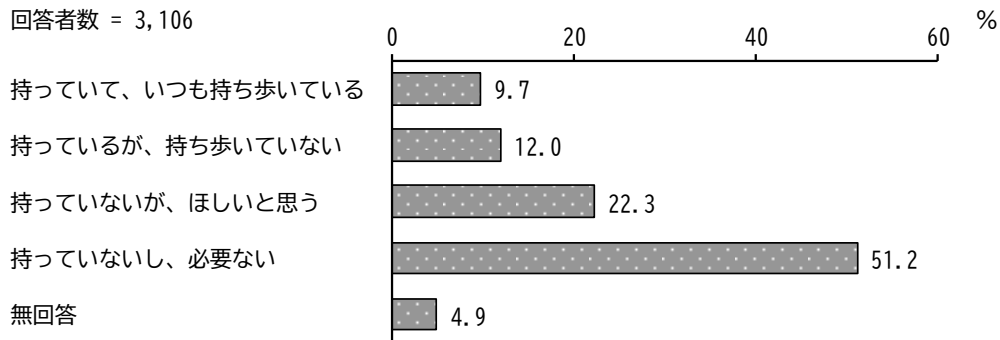
問12 あなたは、お金の管理や福祉サービスの利用や商品の購入のための契約をどのように対応していますか。(1つに○)

「自分ひとりでしている」の割合が56.2%と最も高く、次いで「家族や親せきの人がしている」の割合が31.8%となっています。



問13 あなたは、ヘルプカードを持っていますか。(1つに○)

「持っていないし、必要ない」の割合が51.2%と最も高く、次いで「持っていないが、ほしいと思う」の割合が22.3%、「持っているが、持ち歩いていない」の割合が12.0%となっています。



【障がい種別】

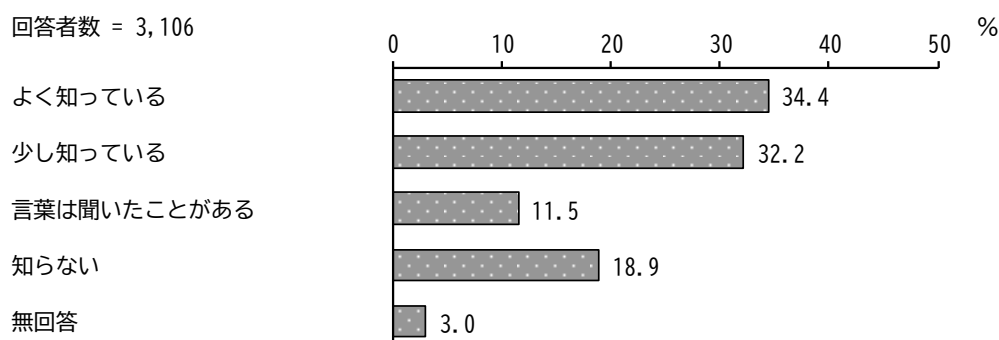
障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「持っているが、持ち歩いていない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	持っているが、持ち歩いている	持っているが、持ち歩いていない	持っていないが、ほしいと思う	持っていないし、必要ない	無回答
全体	3106	9.7	12.0	22.3	51.2	4.9
身体障害者手帳所持者	1245	10.4	12.5	26.9	44.4	5.8
愛の手帳所持者	267	22.5	29.6	19.9	25.8	2.2
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	9.6	17.2	24.4	45.9	2.9
その他	835	7.4	7.9	19.0	62.4	3.2

問 14 あなたは、ヘルプマークを知っていますか。(1つに○)

「よく知っている」の割合が34.4%と最も高く、次いで「少し知っている」の割合が32.2%、「知らない」の割合が18.9%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「少し知っている」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「よく知っている」の割合が高くなっています。

単位：%

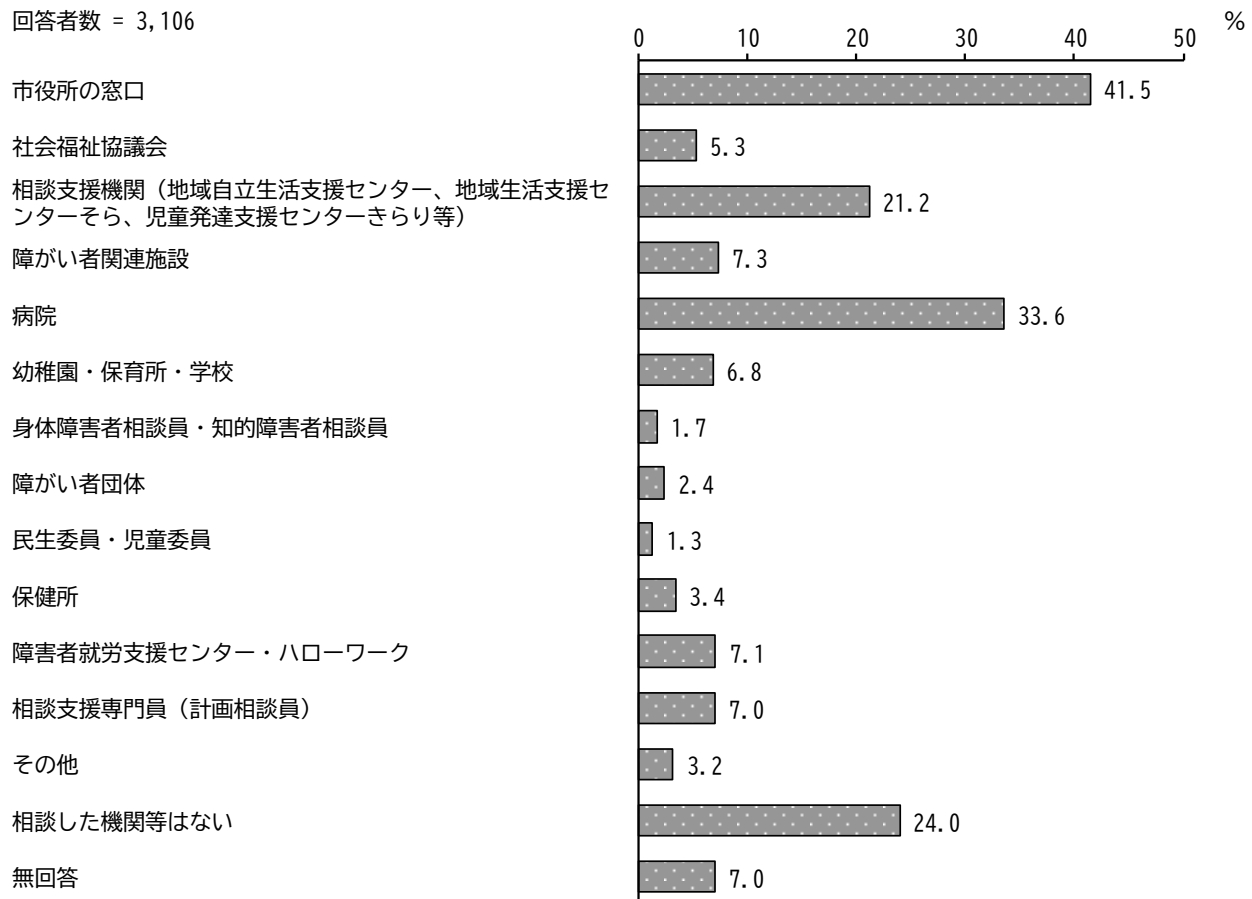
区分	回答者数(件)	よく知っている	少し知っている	言葉は聞いたことがある	知らない	無回答
全 体	3106	34.4	32.2	11.5	18.9	3.0
身体障害者手帳所持者	1245	34.9	28.1	12.1	21.6	3.2
愛の手帳所持者	267	35.2	39.3	5.6	18.0	1.9
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	41.1	33.0	11.5	12.0	2.4
その他	835	33.2	34.6	12.8	16.9	2.5

5 福祉サービスや生活に関する相談・情報について

問 15 障がいや生活などについて相談したことがある機関等がありますか。(いくつでも○)

「市役所の窓口」の割合が41.5%と最も高く、次いで「病院」の割合が33.6%、「相談した機関等はない」の割合が24.0%となっています。

回答者数 = 3,106



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「相談支援機関（地域自立生活支援センター、地域生活支援センター、児童発達支援センター、ハローワーク等）」「市役所の窓口」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「病院」の割合が高くなっています。

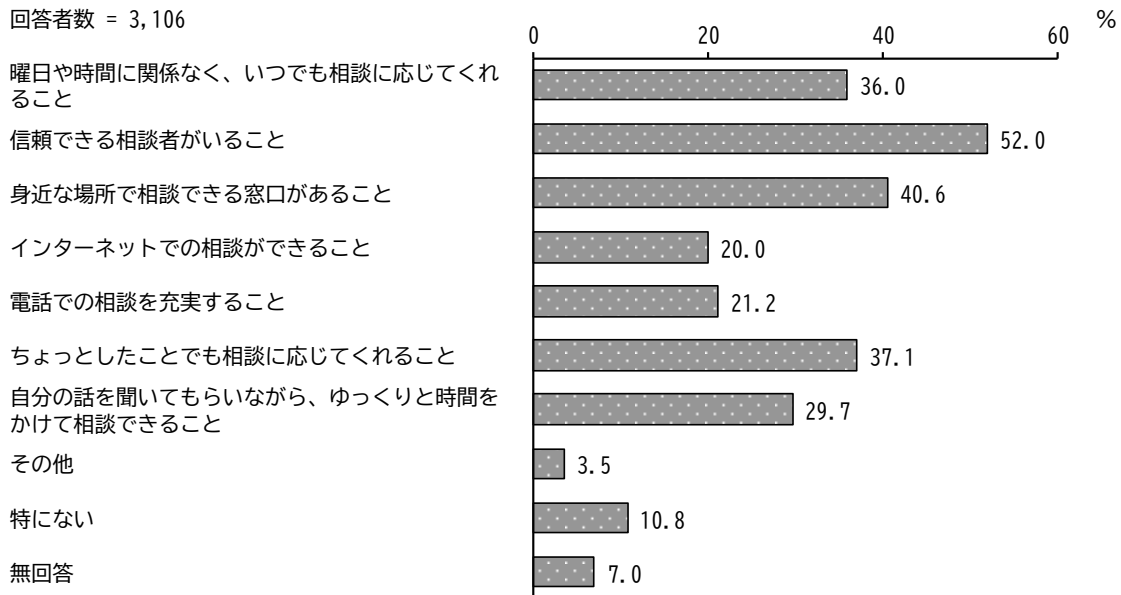
単位：％

区分	回答者数(件)	市役所の窓口	社会福祉協議会	相談支援機関（地域自立生活支援センター、地域生活支援センター、児童発達支援センター、ハローワーク等）	障がい者関連施設	病院	幼稚園・保育所・学校	身体障害者相談員・知的障害者相談員
全体	3106	41.5	5.3	21.2	7.3	33.6	6.8	1.7
身体障害者手帳所持者	1245	40.8	4.1	16.8	5.1	27.1	1.8	1.1
愛の手帳所持者	267	55.4	5.2	39.3	28.8	40.4	23.2	8.2
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	46.9	11.0	28.2	11.5	43.1	4.8	1.4
その他	835	44.6	7.3	25.6	7.2	44.0	10.7	1.6

区分	障がい者団体	民生委員・児童委員	保健所	障害者就労支援センター・ハローワーク	相談支援専門員（計画相談員）	その他	相談した機関等はない	無回答
全体	2.4	1.3	3.4	7.1	7.0	3.2	24.0	7.0
身体障害者手帳所持者	1.8	1.9	1.5	2.8	3.1	2.1	26.4	9.4
愛の手帳所持者	13.1	0.4	9.4	9.0	30.0	4.5	8.2	2.6
精神障害者保健福祉手帳所持者	2.4	2.4	5.7	22.5	9.6	6.7	10.5	5.3
その他	1.3	0.7	4.0	12.2	7.5	4.1	18.7	3.6

問 16 相談しやすい体制をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(いくつでも○)

「信頼できる相談者がいること」の割合が 52.0%と最も高く、次いで「身近な場所で相談できる窓口があること」の割合が 40.6%、「ちょっとしたことでも相談に応じてくれること」の割合が 37.1%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「信頼できる相談者がいること」の割合が、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者で「自分の話を聞いてもらいながら、ゆっくりと時間をかけて相談できること」「ちょっとしたことでも相談に応じてくれること」の割合が高くなっています。

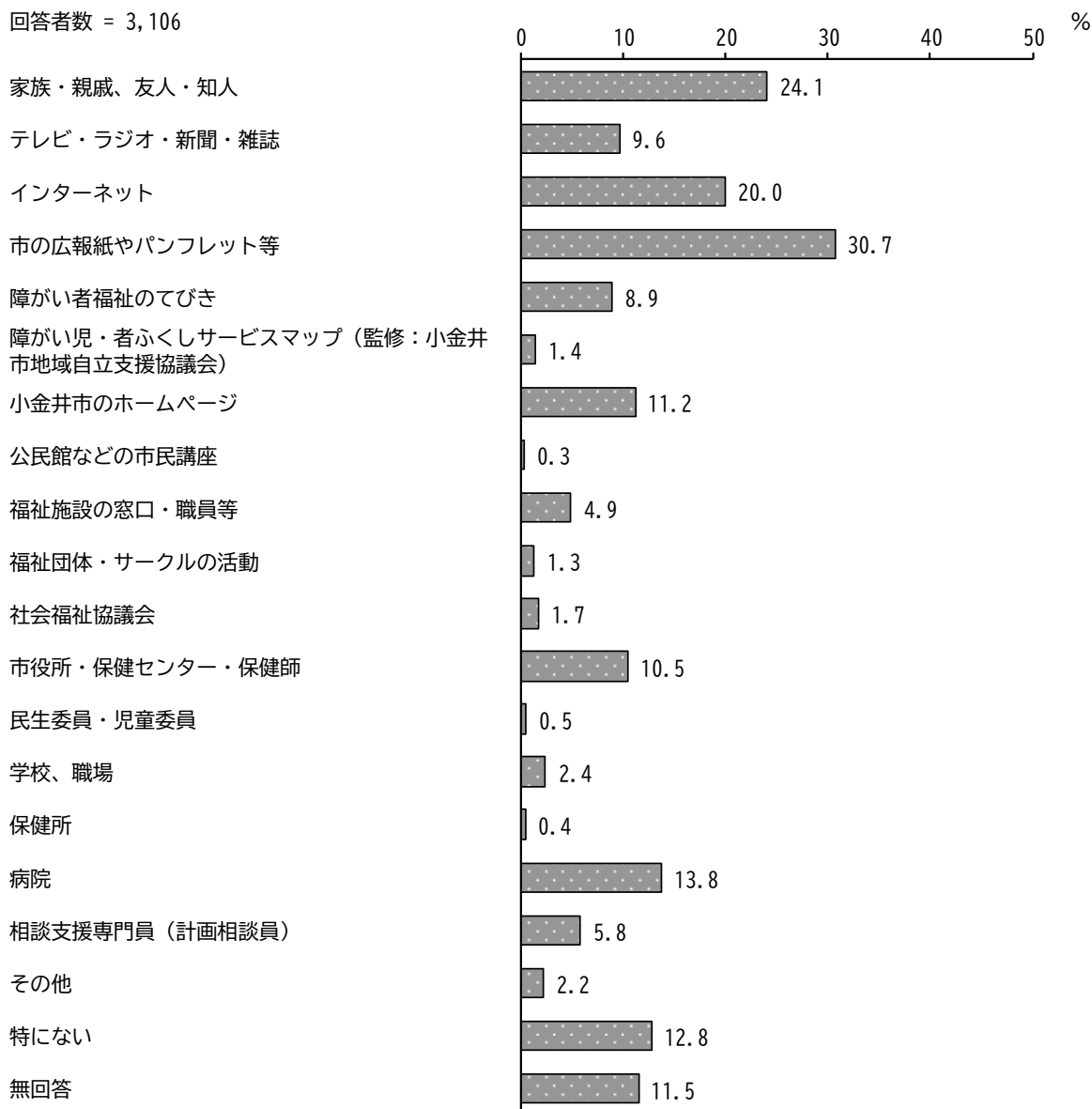
単位：%

区分	回答者数(件)	曜日や時間に関係なく、いつでも相談に応じてくれること	信頼できる相談者がいること	身近な場所で相談できる窓口があること	インターネットでの相談ができること	電話での相談を充実すること	ちょっとしたことでも相談に応じてくれること	自分の話を聞いてもらいながら、ゆっくりと時間をかけて相談できること	その他	特にない	無回答
全 体	3106	36.0	52.0	40.6	20.0	21.2	37.1	29.7	3.5	10.8	7.0
身体障害者手帳所持者	1245	32.8	43.5	38.6	13.4	21.4	31.5	22.6	2.2	12.8	9.4
愛の手帳所持者	267	34.1	69.3	49.1	14.2	15.4	43.1	37.1	5.2	9.0	3.4
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	43.5	54.5	36.4	26.3	22.0	46.4	40.2	4.8	8.1	5.3
その他	835	42.6	62.2	42.8	28.4	24.1	43.5	40.0	5.1	7.3	3.8

問 17 福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。(3つまで○)

「市の広報紙やパンフレット等」の割合が30.7%と最も高く、次いで「家族・親戚、友人・知人」の割合が24.1%、「インターネット」の割合が20.0%となっています。

回答者数 = 3,106



Ⅲ 障害者計画・障害福祉計画策定に関する調査

【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「家族・親戚、友人・知人」の割合が、身体障害者手帳所持者で「市の広報紙やパンフレット等」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「インターネット」の割合が高くなっています。

単位：％

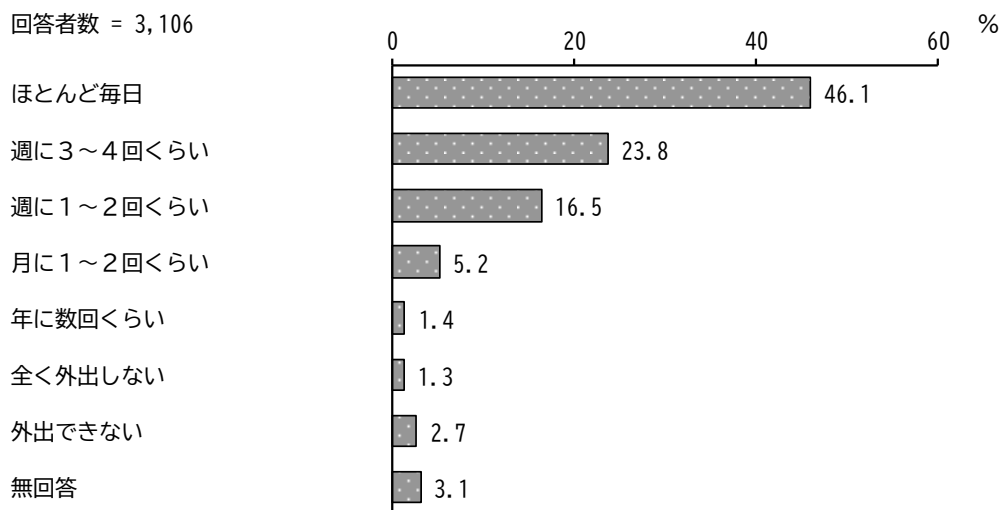
区分	回答者数(件)	家族・親戚、友人・知人	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	インターネット	市の広報紙やパンフレット等	障がい者福祉のてびき	障がい児・者ふくしサービスマップ(監修:小金井市地域自立支援協議会)	小金井市のホームページ	公民館などの市民講座	福祉施設の窓口・職員等	福祉団体・サークルの活動
全体	3106	24.1	9.6	20.0	30.7	8.9	1.4	11.2	0.3	4.9	1.3
身体障害者手帳所持者	1245	21.9	12.8	13.7	37.1	14.6	1.4	10.7	0.4	4.3	1.5
愛の手帳所持者	267	44.2	5.6	13.5	13.9	14.2	3.0	4.5	—	9.0	3.7
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	22.5	4.3	26.3	22.0	6.7	2.4	8.1	—	6.2	1.4
その他	835	24.8	6.3	27.9	27.3	4.3	1.0	13.2	0.1	5.7	0.8

区分	社会福祉協議会	市役所・保健センター・保健師	民生委員・児童委員	学校、職場	保健所	病院	相談支援専門員(計画相談員)	その他	特にない	無回答
全体	1.7	10.5	0.5	2.4	0.4	13.8	5.8	2.2	12.8	11.5
身体障害者手帳所持者	2.0	10.0	0.6	0.2	0.1	9.4	3.9	1.8	13.4	10.9
愛の手帳所持者	0.4	7.5	—	7.5	—	4.9	17.2	2.6	10.1	18.7
精神障害者保健福祉手帳所持者	2.9	13.4	0.5	2.4	—	14.8	6.7	3.3	9.6	15.8
その他	1.7	11.3	0.4	4.6	0.8	21.3	5.9	2.6	11.0	9.1

6 外出について

問18 どれくらい外出していますか。(1つに○)

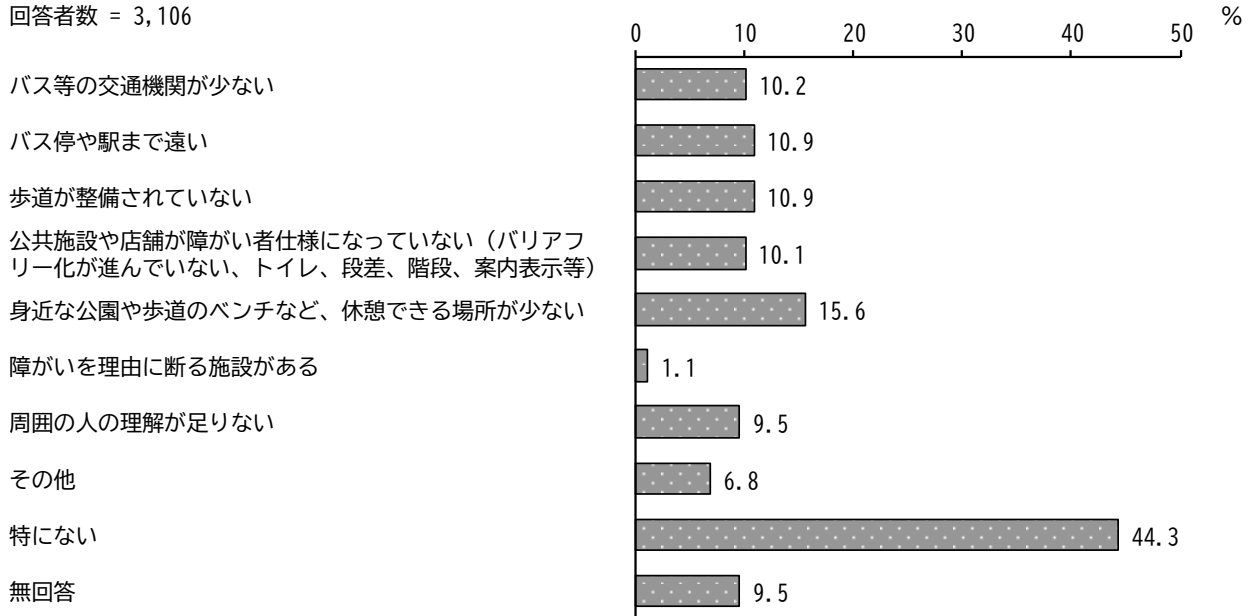
「ほとんど毎日」の割合が46.1%と最も高く、次いで「週に3～4回くらい」の割合が23.8%、「週に1～2回くらい」の割合が16.5%となっています。



問 19 外出のとき、不便に感じたり困ることは何ですか。(いくつでも○)

「特にない」の割合が 44.3%と最も高くなっていますが、「身近な公園や歩道のベンチなど、休憩できる場所が少ない」の割合が 15.6%、「バス停や駅まで遠い」「歩道が整備されていない」の割合が 10.9%となっています。

回答者数 = 3,106



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、身体障害者手帳所持者で「公共施設や店舗が障がい者仕様になっていない (バリアフリー化が進んでいない、トイレ、段差、階段、案内表示等)」「歩道が整備されていない」の割合が高くなっています。

単位：%

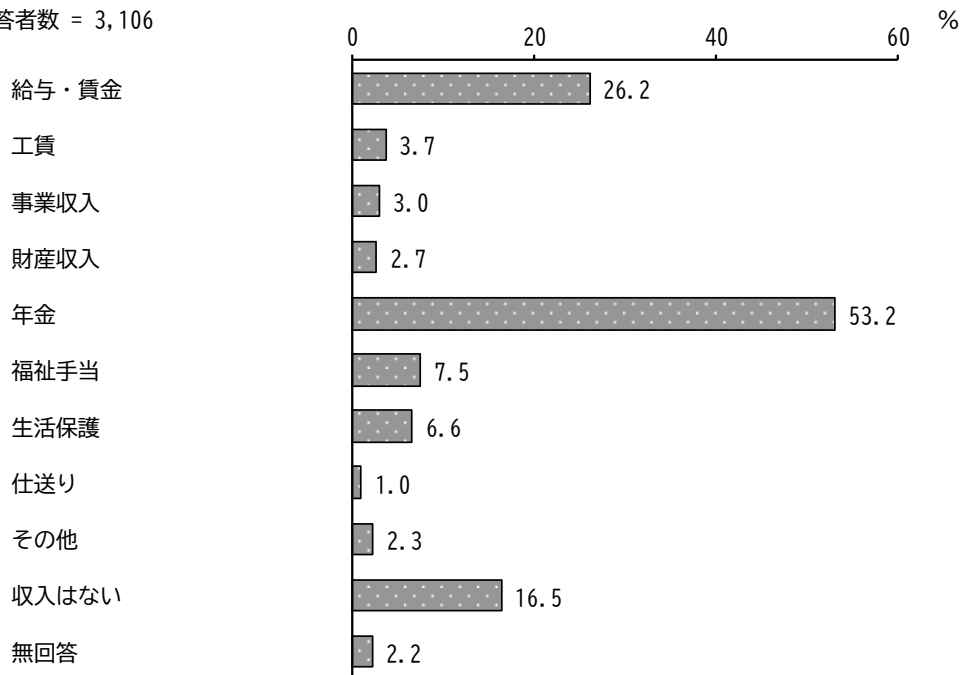
区分	回答者数 (件)	バス等の交通機関が少ない	バス停や駅まで遠い	歩道が整備されていない	公共施設や店舗が障がい者仕様になっていない (バリアフリー化が進んでいない、トイレ、段差、階段、案内表示等)	身近な公園や歩道のベンチなど、休憩できる場所が少ない	障がいを理由に断る施設がある	周囲の人の理解が足りない	その他	特にない	無回答
全体	3106	10.2	10.9	10.9	10.1	15.6	1.1	9.5	6.8	44.3	9.5
身体障害者手帳所持者	1245	11.0	11.7	15.9	15.3	19.8	1.0	6.3	7.8	35.3	11.1
愛の手帳所持者	267	10.1	5.6	10.5	11.6	9.0	4.1	26.6	7.1	36.7	8.2
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	12.0	12.4	3.8	4.3	13.9	1.9	12.4	7.2	47.4	8.6
その他	835	9.5	13.3	7.3	5.3	14.0	0.6	11.5	7.2	52.0	6.1

7 収入や仕事について

問 20 あなたの収入は次のどれですか。(いくつでも○)

「年金」の割合が 53.2%と最も高く、次いで「給与・賃金」の割合が 26.2%、「収入はない」の割合が 16.5%となっています。

回答者数 = 3,106



【障がい種別】

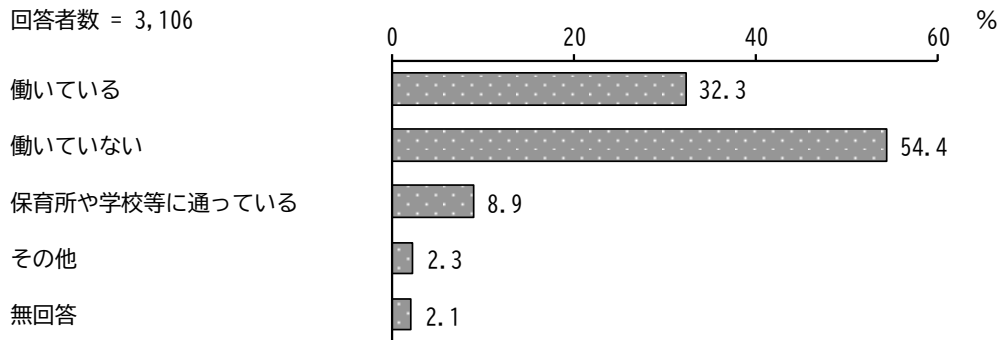
障がい種別にみると、他に比べ、身体障害者手帳所持者で「年金」の割合が、愛の手帳所持者で「収入はない」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「給与・賃金」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	給与・賃金	工賃	事業収入	財産収入	年金	福祉手当	生活保護	仕送り	その他	収入はない	無回答
全 体	3106	26.2	3.7	3.0	2.7	53.2	7.5	6.6	1.0	2.3	16.5	2.2
身体障害者手帳所持者	1245	18.6	0.9	4.0	3.8	75.5	8.4	3.9	0.5	2.0	6.0	2.0
愛の手帳所持者	267	21.7	18.0	0.4	0.4	47.2	25.1	—	—	0.7	34.1	1.1
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	31.6	9.6	—	1.9	48.8	4.8	13.9	1.4	4.3	14.4	1.0
その他	835	32.8	4.2	2.2	2.4	30.8	4.2	12.9	2.3	2.6	25.3	1.8

問 21 あなたは現在、働いていますか（施設も含む）。（1つに○）

「働いていない」の割合が54.4%と最も高く、次いで「働いている」の割合が32.3%となっています。



【障がい種別】

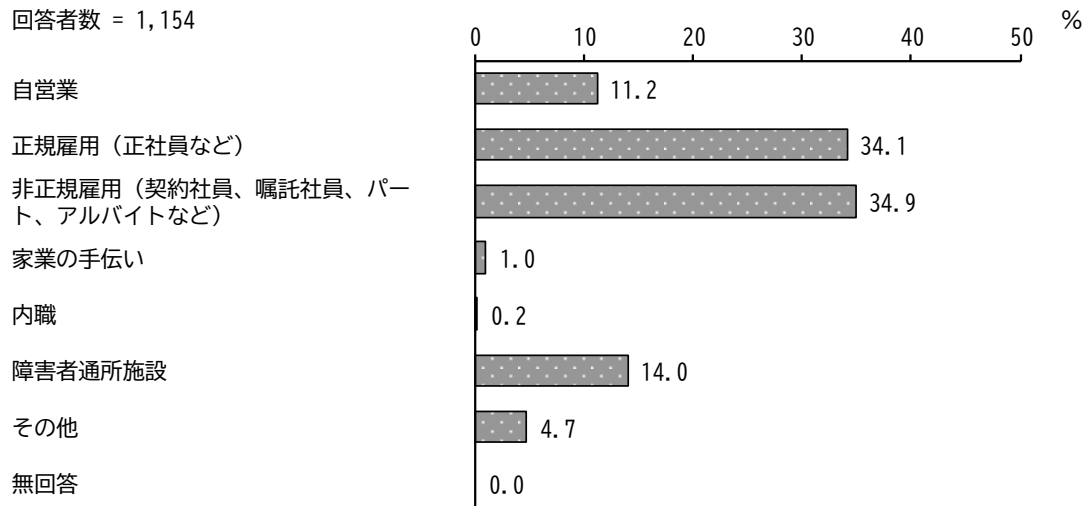
障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者で「働いている」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	働いている	働いていない	保育所や学校等に通っている	その他	無回答
全 体	3106	32.3	54.4	8.9	2.3	2.1
身体障害者手帳所持者	1245	23.3	70.8	2.0	1.8	2.1
愛の手帳所持者	267	42.3	23.2	28.5	3.7	2.2
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	40.7	47.4	6.7	3.8	1.4
その他	835	36.9	45.0	13.9	2.6	1.6

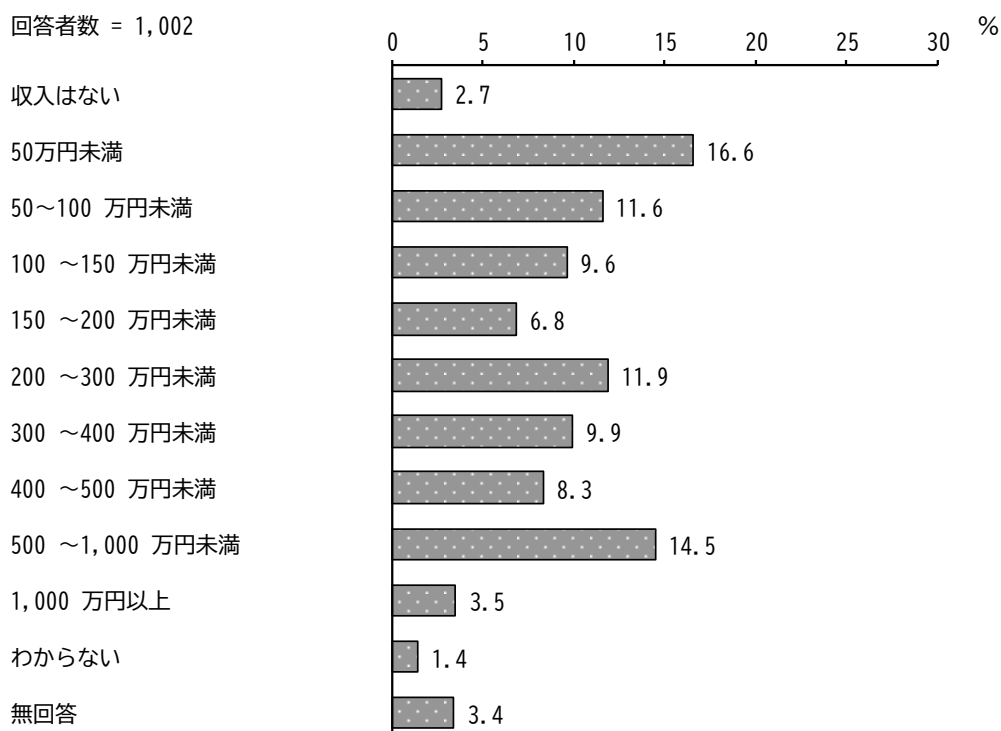
問 22 現在働いている方、または令和3（2021）年8月以降に働いていた経験がある方におたずねします。お勤めの形態や場所は次のどれですか、またはどれでしたか。（1つに○）

「非正規雇用（契約社員、嘱託社員、パート、アルバイトなど）」の割合が34.9%と最も高く、次いで「正規雇用（正社員など）」の割合が34.1%、「障害者通所施設」の割合が14.0%となっています。



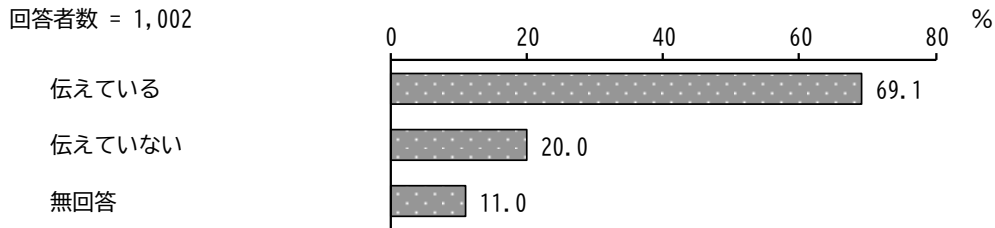
問 23 現在の仕事による年収はおよそどのくらいですか。（1つに○）

「50万円未満」の割合が16.6%と最も高く、次いで「500～1,000万円未満」の割合が14.5%、「200～300万円未満」の割合が11.9%となっています。



問 24 勤務先へ障がいや病気であることを伝えていますか。(1つに○)

「伝えている」の割合が 69.1%、「伝えていない」の割合が 20.0%となっています。



【障がい種別】

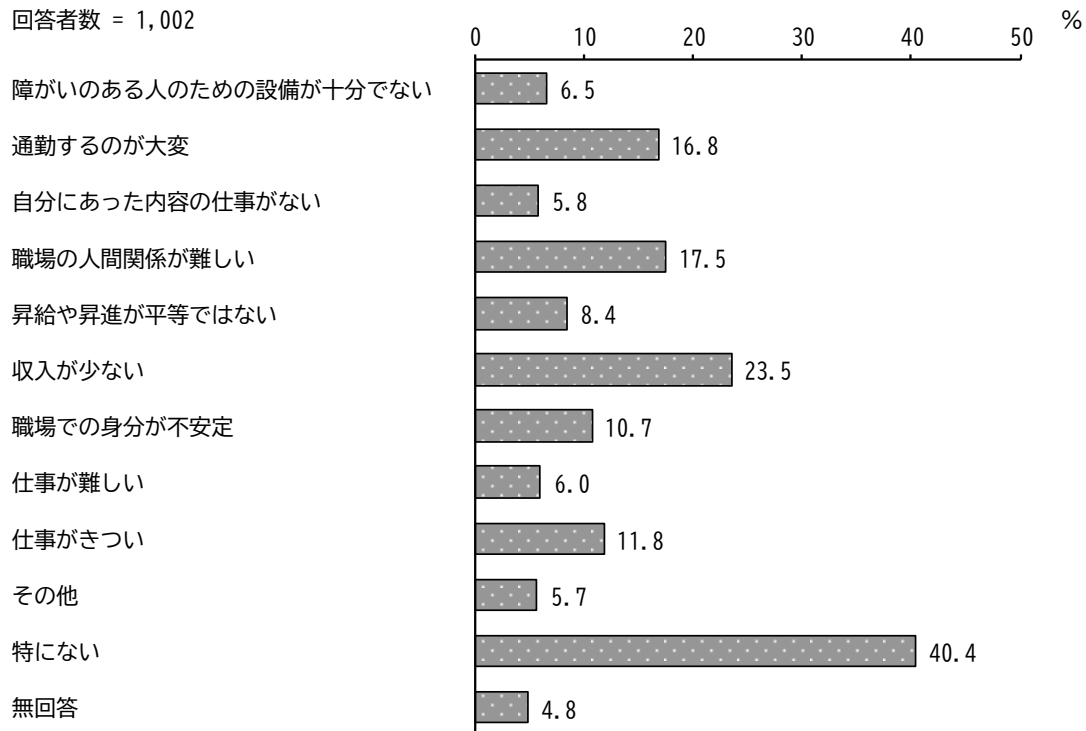
障がい種別にみると、他に比べ、精神障害者保健福祉手帳所持者で「伝えていない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	伝えている	伝えていない	無回答
全 体	1002	69.1	20.0	11.0
身体障害者手帳所持者	290	79.0	7.9	13.1
愛の手帳所持者	113	77.9	2.7	19.5
精神障害者保健福祉手帳所持者	85	78.8	16.5	4.7
その他	308	58.1	36.7	5.2

問 25 仕事をするうえで不安や不満を感じることがありますか。(いくつでも○)

「特にない」の割合が 40.4%と最も高くなっていますが、「収入が少ない」の割合が 23.5%、「職場の人間関係が難しい」の割合が 17.5%となっています。



【障がい種別】

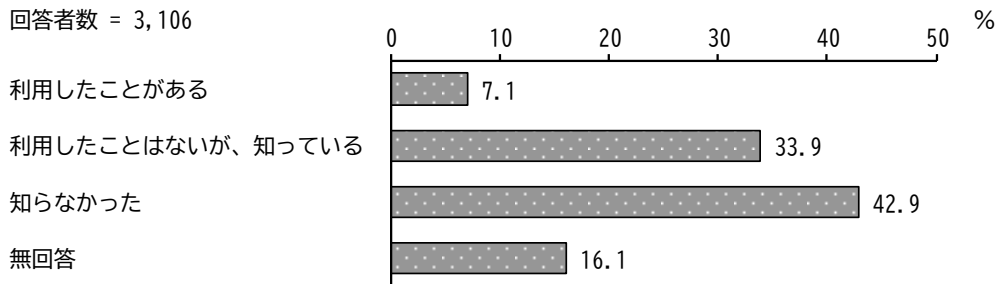
障がい種別にみると、他に比べ、精神障害者保健福祉手帳所持者で「収入が少ない」「通勤するのが大変」「職場での身分が不安定」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	障がいのある人のための設備が十分でない	通勤するのが大変	自分にあった内容の仕事がない	職場の人間関係が難しい	昇給や昇進が平等ではない	収入が少ない	職場での身分が不安定	仕事が難しい	仕事がきつい	その他	特にない	無回答
全体	1002	6.5	16.8	5.8	17.5	8.4	23.5	10.7	6.0	11.8	5.7	40.4	4.8
身体障害者手帳所持者	290	7.9	17.2	4.5	9.3	6.6	16.9	5.5	4.1	9.0	5.9	47.9	6.9
愛の手帳所持者	113	7.1	10.6	9.7	17.7	3.5	28.3	5.3	6.2	7.1	3.5	41.6	7.1
精神障害者保健福祉手帳所持者	85	4.7	27.1	9.4	23.5	12.9	41.2	18.8	4.7	10.6	11.8	25.9	—
その他	308	6.5	18.2	7.5	29.2	12.3	26.9	17.5	10.1	15.6	3.9	29.9	2.9

問 26 あなたは「障害者就労支援センター」を知っていますか。(1つに○)

「知らなかった」の割合が42.9%と最も高く、次いで「利用したことはないが、知っている」の割合が33.9%となっています。



【障がい種別】

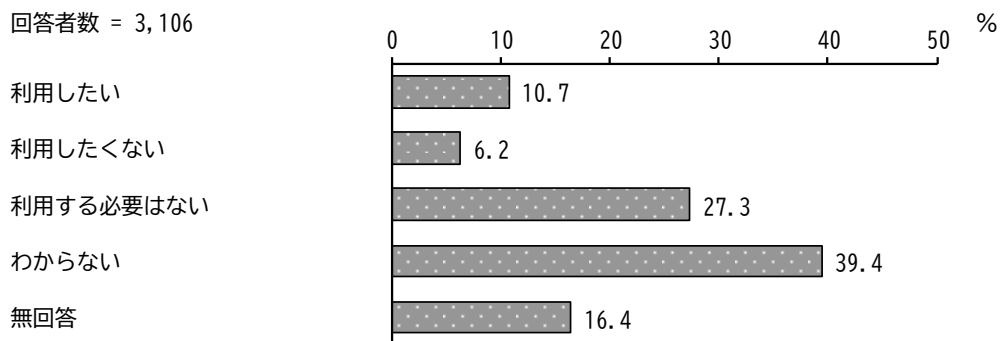
障がい種別にみると、他に比べ、精神障害者保健福祉手帳所持者で「利用したことがある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	利用したことがある	利用したことはないが、知っている	知らなかった	無回答
全 体	3106	7.1	33.9	42.9	16.1
身体障害者手帳所持者	1245	2.7	33.3	41.2	22.8
愛の手帳所持者	267	15.4	33.7	37.5	13.5
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	25.4	36.4	30.6	7.7
その他	835	10.5	32.2	49.6	7.7

問 27 あなたは「障害者就労支援センター」を利用したいと思いますか。(1つに○)

「わからない」の割合が39.4%と最も高く、次いで「利用する必要はない」の割合が27.3%、「利用したい」の割合が10.7%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「利用したい」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「わからない」「利用したい」の割合が高くなっています。

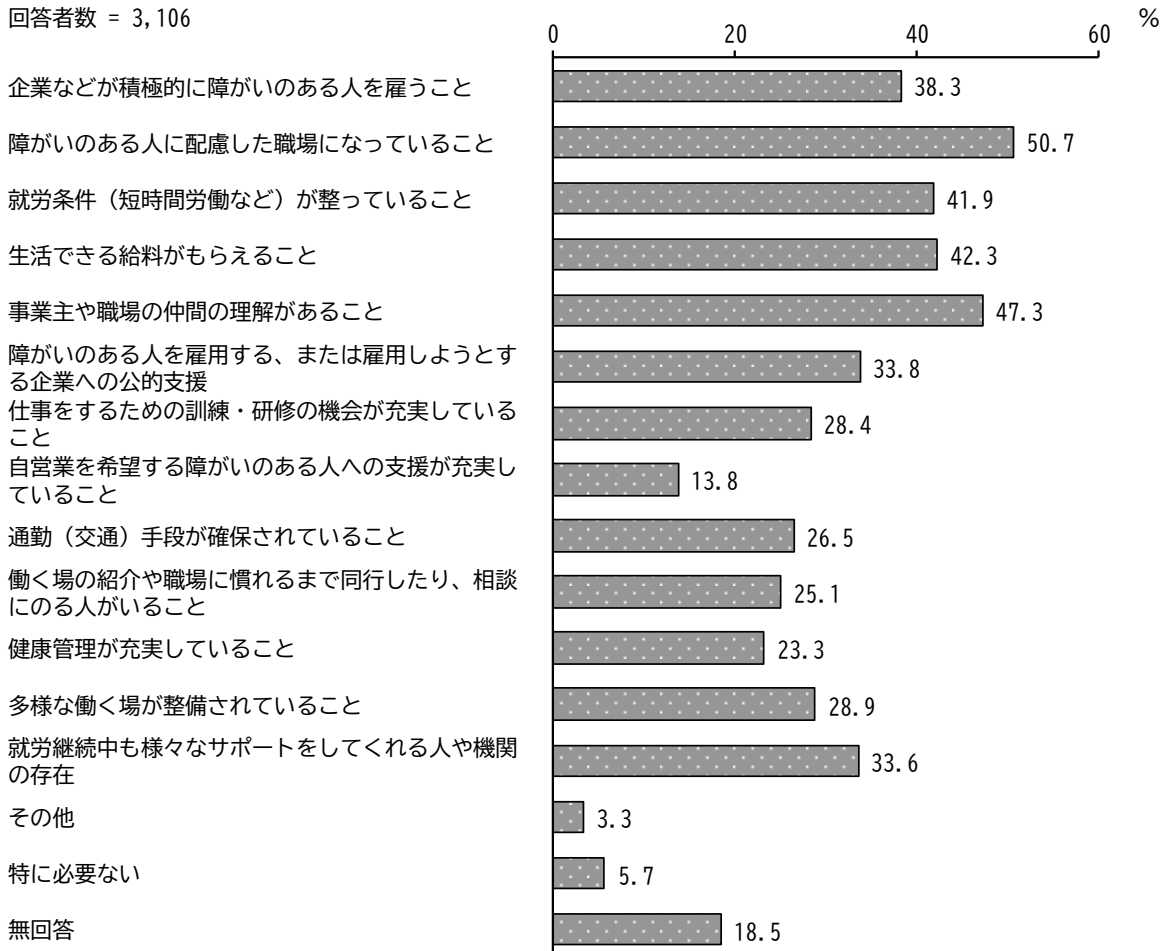
単位：%

区分	回答者数(件)	利用したい	利用したくない	利用する必要はない	わからない	無回答
全 体	3106	10.7	6.2	27.3	39.4	16.4
身体障害者手帳所持者	1245	6.4	6.3	28.4	36.3	22.6
愛の手帳所持者	267	24.7	4.5	17.6	38.2	15.0
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	19.6	8.6	14.4	48.8	8.6
その他	835	14.9	7.2	25.9	44.4	7.7

問 28 障がいのある人が働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつかでも○)

「障がいのある人に配慮した職場になっていること」の割合が 50.7%と最も高く、次いで「事業主や職場の仲間の理解があること」の割合が 47.3%、「生活できる給料がもらえること」の割合が 42.3%となっています。

回答者数 = 3,106



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、精神障害者保健福祉手帳所有者で「生活できる給料がもらえること」の割合が、愛の手帳所有者で「就労継続中も様々なサポートをしてくれる人や機関の存在」「働く場の紹介や職場に慣れるまで同行したり、相談にのる人がいること」の割合が高くなっています。

単位：%

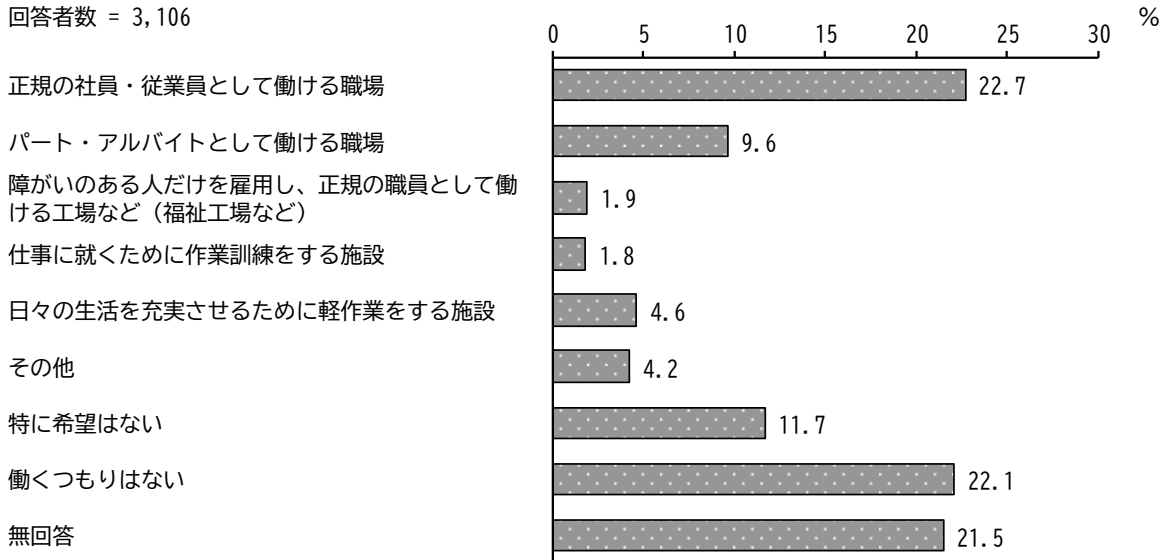
区分	回答者数(件)	企業などが積極的に障がいのある人を雇うこと	障がいのある人に配慮した職場になっていること	就労条件(短時間労働など)が整っていること	生活できる給料がもらえること	事業主や職場の仲間の理解があること	障がいのある人を雇用する、または雇用しようとする企業への公的支援	仕事をするための訓練・研修の機会が充実していること	自営業を希望する障がいのある人への支援が充実していること
全体	3106	38.3	50.7	41.9	42.3	47.3	33.8	28.4	13.8
身体障害者手帳所有者	1245	35.3	43.1	34.2	30.5	38.1	30.3	21.1	12.9
愛の手帳所有者	267	40.1	61.4	41.9	43.4	55.8	41.6	34.5	12.4
精神障害者保健福祉手帳所有者	209	40.2	59.3	52.6	60.8	55.0	32.5	34.9	12.9
その他	835	44.1	58.8	50.4	57.1	56.5	37.7	36.2	16.8

区分	通勤(交通)手段が確保されていること	働く場の紹介や職場に慣れるまで同行したり、相談にのる人がいること	健康管理が充実していること	多様な働く場が整備されていること	就労継続中も様々なサポートをしてくれる人や機関の存在	その他	特に必要ない	無回答
全体	26.5	25.1	23.3	28.9	33.6	3.3	5.7	18.5
身体障害者手帳所有者	25.1	17.3	20.6	22.2	24.6	2.7	7.5	25.6
愛の手帳所有者	28.1	40.1	26.6	36.0	49.4	4.1	3.7	15.0
精神障害者保健福祉手帳所有者	26.3	37.3	27.3	30.1	41.6	4.3	2.9	10.0
その他	29.8	33.5	27.1	36.3	43.0	4.8	4.2	10.4

問 29 あなたは今後、「働く場」として、どのようなところを希望されますか。(1つに○)

「正規の社員・従業員として働ける職場」の割合が 22.7%と最も高く、次いで「働くつもりはない」の割合が 22.1%、「特に希望はない」の割合が 11.7%となっています。

回答者数 = 3,106



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、身体障害者手帳所持者で「働くつもりはない」の割合が、愛の手帳所持者で「日々の生活を充実させるために軽作業をする施設」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「正規の社員・従業員として働ける職場」の割合が高くなっています。

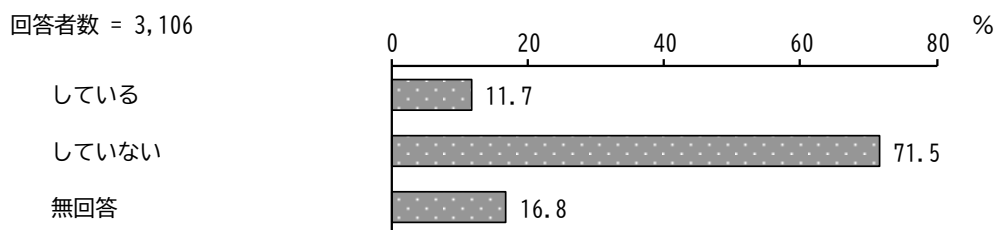
単位：%

区分	回答者数 (件)	正規の社員・従業員として働ける職場	パート・アルバイトとして働ける職場	障がいのある人だけを雇用し、正規の職員として働ける工場など (福祉工場など)	仕事に就くために作業訓練をする施設	日々の生活を充実させるために軽作業をする施設	その他	特に希望はない	働くつもりはない	無回答
全 体	3106	22.7	9.6	1.9	1.8	4.6	4.2	11.7	22.1	21.5
身体障害者手帳所持者	1245	13.1	6.7	0.6	1.6	3.1	2.2	11.8	34.5	26.3
愛の手帳所持者	267	18.0	4.5	9.4	4.5	15.0	7.1	10.5	11.2	19.9
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	34.0	15.3	1.9	1.9	5.3	6.7	11.5	8.1	15.3
その他	835	33.9	12.7	2.0	1.8	4.8	6.3	11.1	11.0	16.3

8 保育・教育について

問 30 あなたは、現在、幼稚園・保育所・学校に通園・通学していますか。(1つに○)

「している」の割合が11.7%、「していない」の割合が71.5%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者で「していない」の割合が高くなっています。

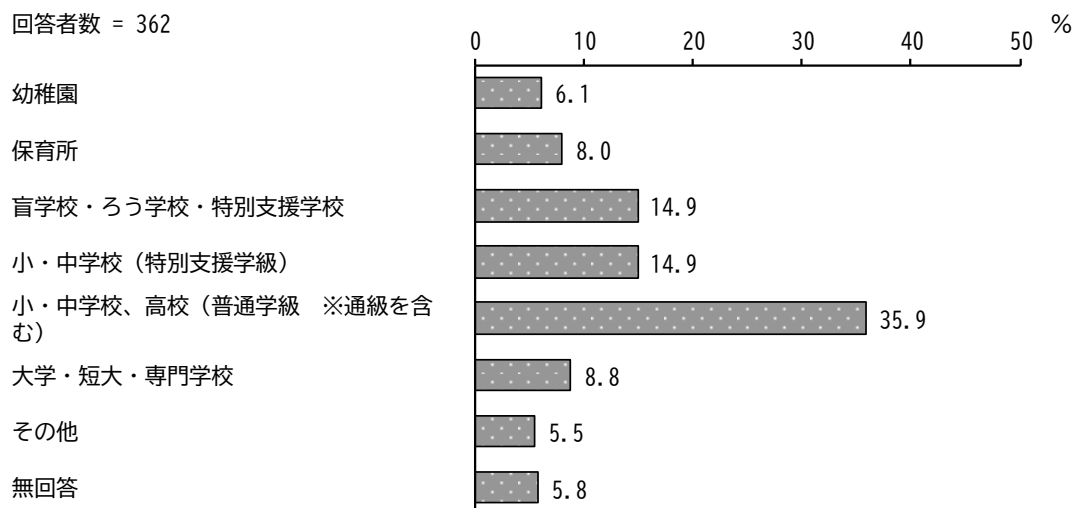
単位：%

区分	回答者数 (件)	している	していない	無回答
全 体	3106	11.7	71.5	16.8
身体障害者手帳所持者	1245	4.0	72.3	23.7
愛の手帳所持者	267	36.7	54.3	9.0
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	8.6	80.4	11.0
その他	835	16.9	73.3	9.8

問 30 で「している」を選択した方にお聞きします。

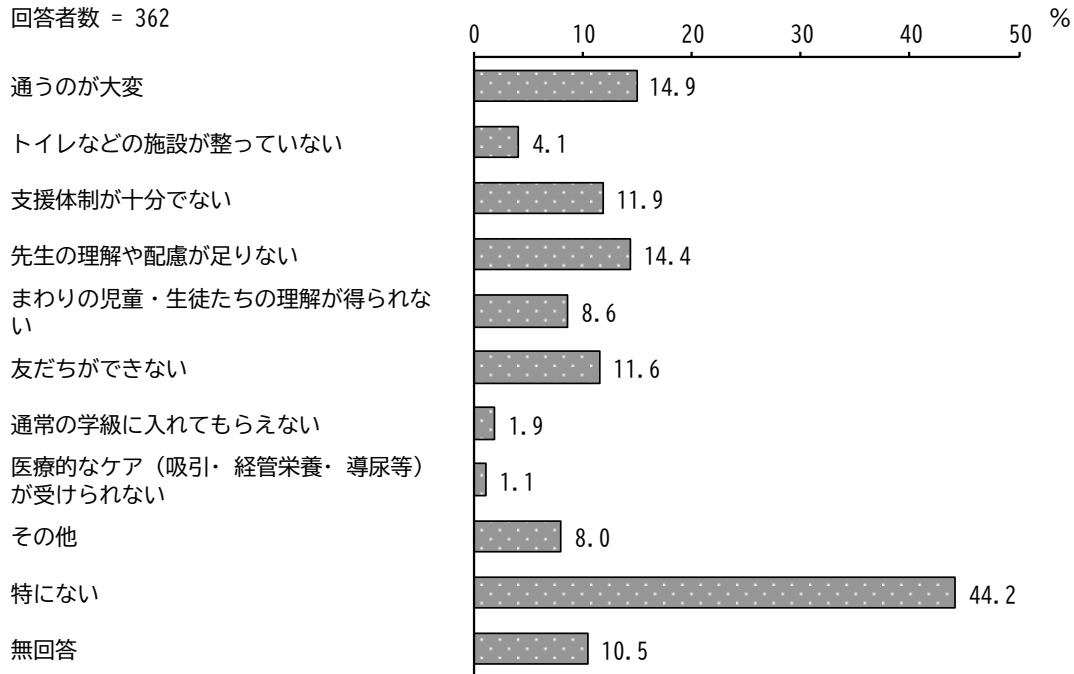
問 30-1 通園・通学先は次のどれにあたりますか。(1つに○)

「小・中学校、高校（普通学級 ※通級を含む）」の割合が 35.9%と最も高く、次いで「盲学校・ろう学校・特別支援学校」、
「小・中学校（特別支援学級）」の割合が 14.9%となっています。



問 30-2 幼稚園・保育所・学校などに通っていて困っていることは何ですか。(いくつかでも○)

「特にない」の割合が 44.2%と最も高くなっていますが、「通うのが大変」の割合が 14.9%、「先生の理解や配慮が足りない」の割合が 14.4%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、精神障害者保健福祉手帳所持者で「友だちができない」の割合が、愛の手帳所持者で「通うのが大変」の割合が高くなっています。

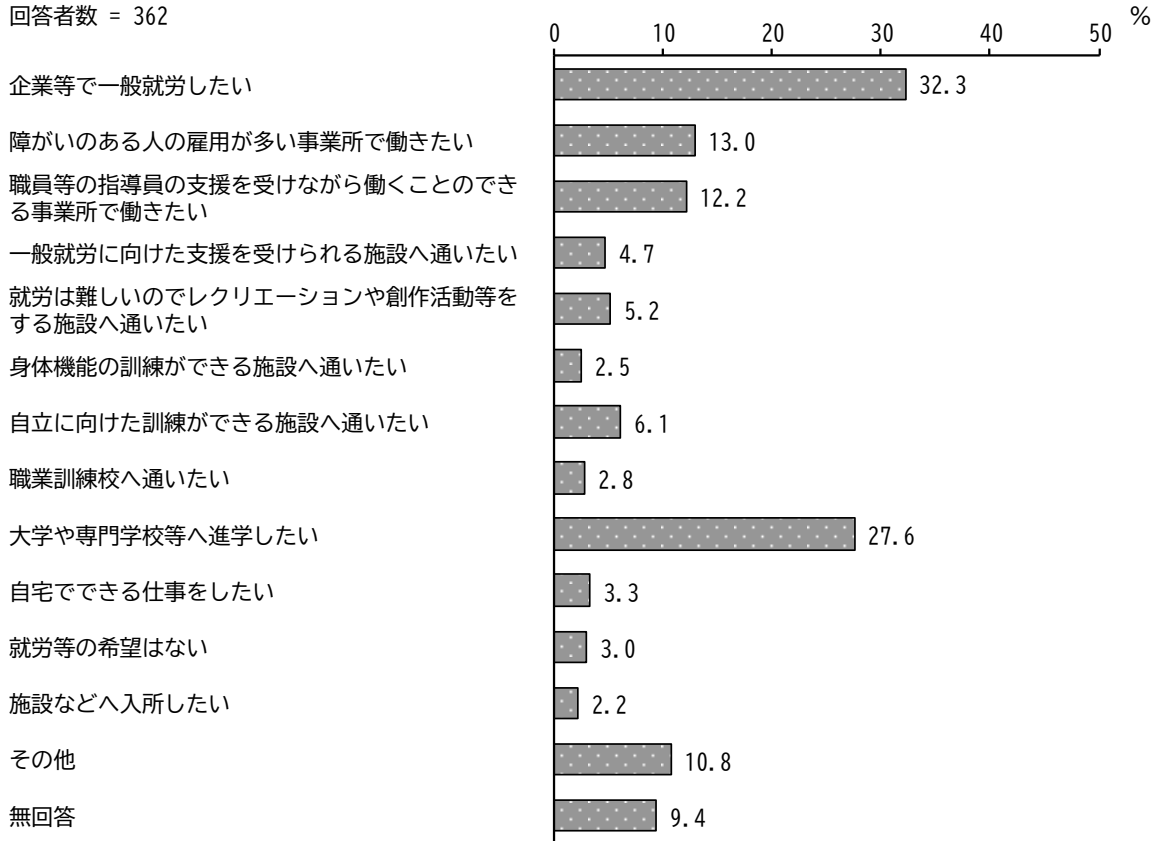
単位：%

区分	回答者数(件)	通うのが大変	トイレなどの施設が整っていない	支援体制が十分でない	先生の理解や配慮が足りない	まわりの児童・生徒たちの理解が得られない	友だちができない	通常の学級に入れてもらえない	医療的なケア（吸引・経管栄養・導尿等）が受けられない	その他	特にない	無回答
全体	362	14.9	4.1	11.9	14.4	8.6	11.6	1.9	1.1	8.0	44.2	10.5
身体障害者手帳所持者	50	12.0	12.0	8.0	4.0	2.0	4.0	—	—	2.0	40.0	32.0
愛の手帳所持者	98	24.5	4.1	6.1	11.2	5.1	6.1	3.1	2.0	9.2	49.0	7.1
精神障害者保健福祉手帳所持者	18	11.1	—	16.7	16.7	16.7	22.2	5.6	—	5.6	27.8	11.1
その他	141	12.8	2.8	19.1	19.9	12.8	16.3	2.1	1.4	9.2	38.3	7.8

問 30-3 今後、どのような進路を希望しますか。(2つまで○)

「企業等で一般就労したい」の割合が32.3%と最も高く、次いで「大学や専門学校等へ進学したい」の割合が27.6%、「障がいのある人の雇用が多い事業所で働きたい」の割合が13.0%となっています。

回答者数 = 362



【障がい種別】

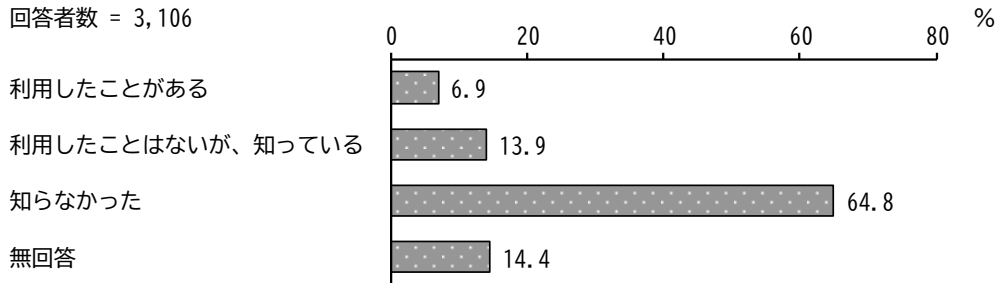
障がい種別にみると、他に比べ、身体障害者手帳所持者で「企業等で一般就労したい」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「障がいのある人の雇用が多い事業所で働きたい」の割合が、愛の手帳所持者で「職員等の指導員の支援を受けながら働くことのできる事業所で働きたい」「障がいのある人の雇用が多い事業所で働きたい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	企業等で一般就労したい	障がいのある人の雇用が多い事業所で働きたい	職員等の指導員の支援を受けながら働くことのできる事業所で働きたい	一般就労に向けた支援を受けられる施設へ通いたい	就労は難しいのでレクリエーションや創作活動等をする施設へ通いたい	身体機能の訓練ができる施設へ通いたい	自立に向けた訓練ができる施設へ通いたい	職業訓練校へ通いたい	大学や専門学校等へ進学したい	自宅のできる仕事をしたい	就労等の希望はない	施設などへ入所したい	その他	無回答
全体	362	32.3	13.0	12.2	4.7	5.2	2.5	6.1	2.8	27.6	3.3	3.0	2.2	10.8	9.4
身体障害者手帳所持者	50	38.0	8.0	2.0	4.0	—	8.0	—	—	28.0	8.0	6.0	—	2.0	26.0
愛の手帳所持者	98	18.4	20.4	25.5	7.1	13.3	3.1	8.2	1.0	8.2	—	2.0	7.1	20.4	6.1
精神障害者保健福祉手帳所持者	18	16.7	27.8	5.6	5.6	—	—	11.1	11.1	22.2	5.6	—	—	11.1	11.1
その他	141	37.6	12.8	11.3	4.3	4.3	1.4	8.5	5.0	34.8	4.3	2.1	0.7	8.5	5.0

問 31 すべての方におたずねします。あなたは「小金井市児童発達支援センターきらり」を知っていますか。(1つに○)

「知らなかった」の割合が 64.8%と最も高く、次いで「利用したことはないが、知っている」の割合が 13.9%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「利用したことはないが、知っている」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「知らなかった」の割合が高くなっています。

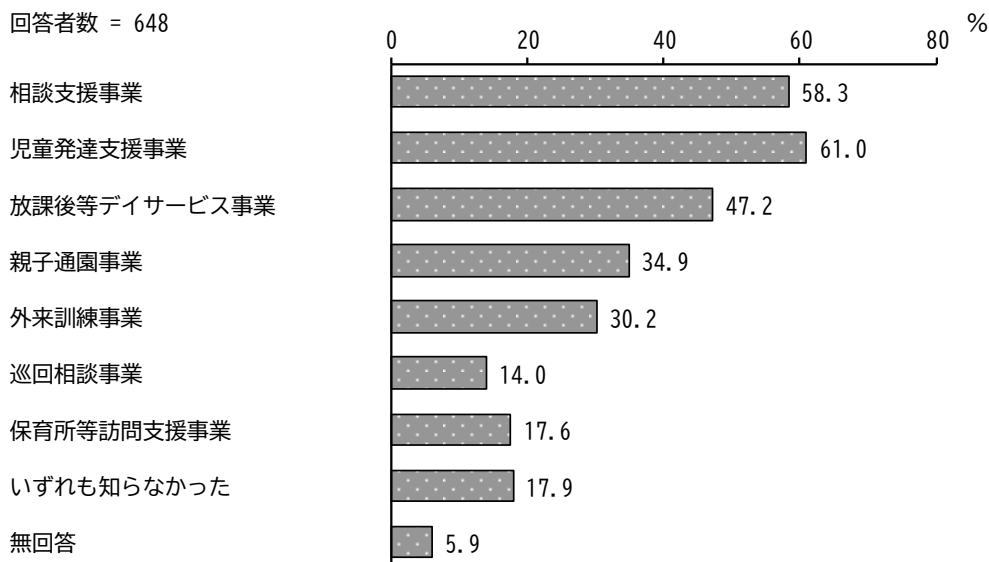
単位：%

区分	回答者数(件)	利用したことがある	利用したことはないが、知っている	知らなかった	無回答
全 体	3106	6.9	13.9	64.8	14.4
身体障害者手帳所持者	1245	1.3	10.3	68.4	20.1
愛の手帳所持者	267	25.5	34.8	29.6	10.1
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	4.8	10.5	74.6	10.0
その他	835	10.4	14.5	66.6	8.5

問 31 で「利用したことがある」、「利用したことはないが、知っている」を選んだ方にお聞きします。

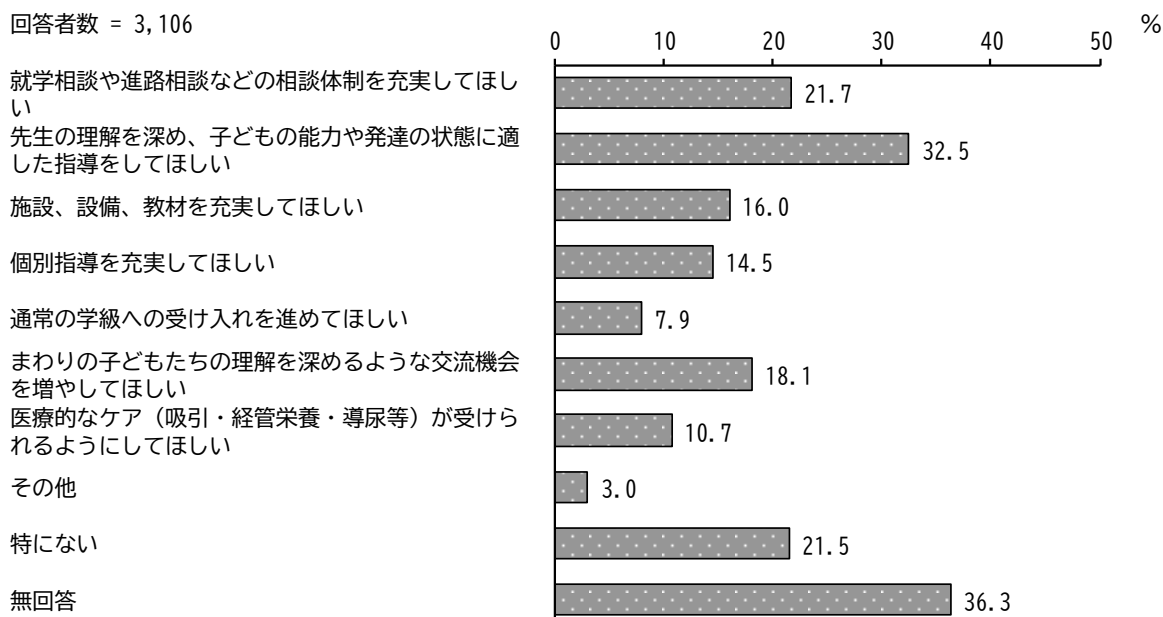
問 31-1 下記の事業を行っていることを知っていますか。(いくつでも○)

「児童発達支援事業」の割合が 61.0%と最も高く、次いで「相談支援事業」の割合が 58.3%、「放課後等デイサービス事業」の割合が 47.2%となっています。



問 32 幼稚園・保育所・学校に望むことは、どのようなことですか。(いくつでも○)

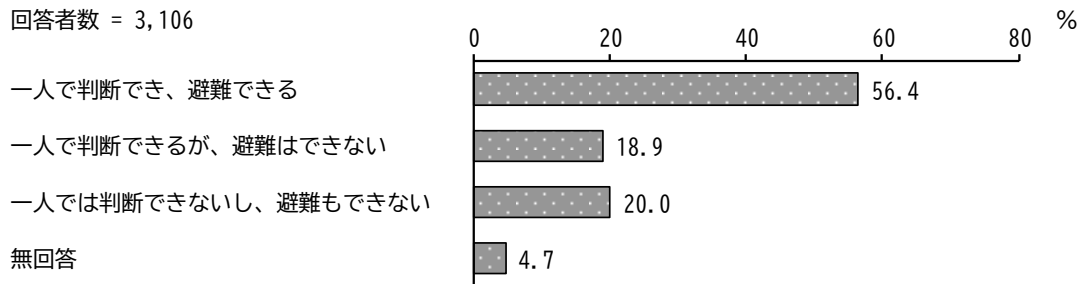
「先生の理解を深め、子どもの能力や発達の状態に適した指導をしてほしい」の割合が 32.5%と最も高く、次いで「就学相談や進路相談などの相談体制を充実してほしい」の割合が 21.7%、「特にない」の割合が 21.5%となっています。



9 災害時の避難等について

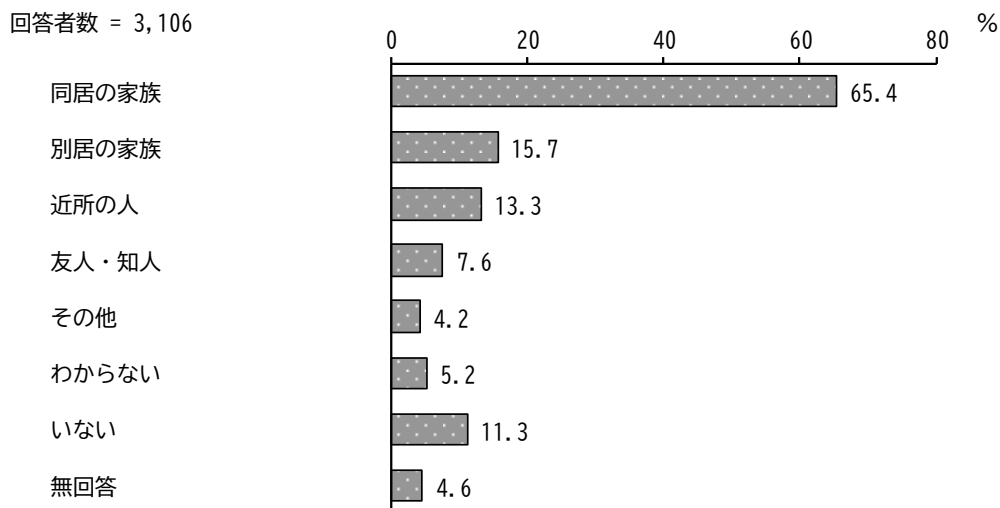
問 33 あなたは、火事や地震等の災害が起こったときに一人で避難できますか。(1つに○)

「一人で判断でき、避難できる」の割合が 56.4%と最も高く、次いで「一人では判断できないし、避難もできない」の割合が 20.0%、「一人で判断できるが、避難はできない」の割合が 18.9%となっています。



問 34 災害や火災などの緊急時に避難する際に、手助けを頼める人はいますか。(いくつでも○)

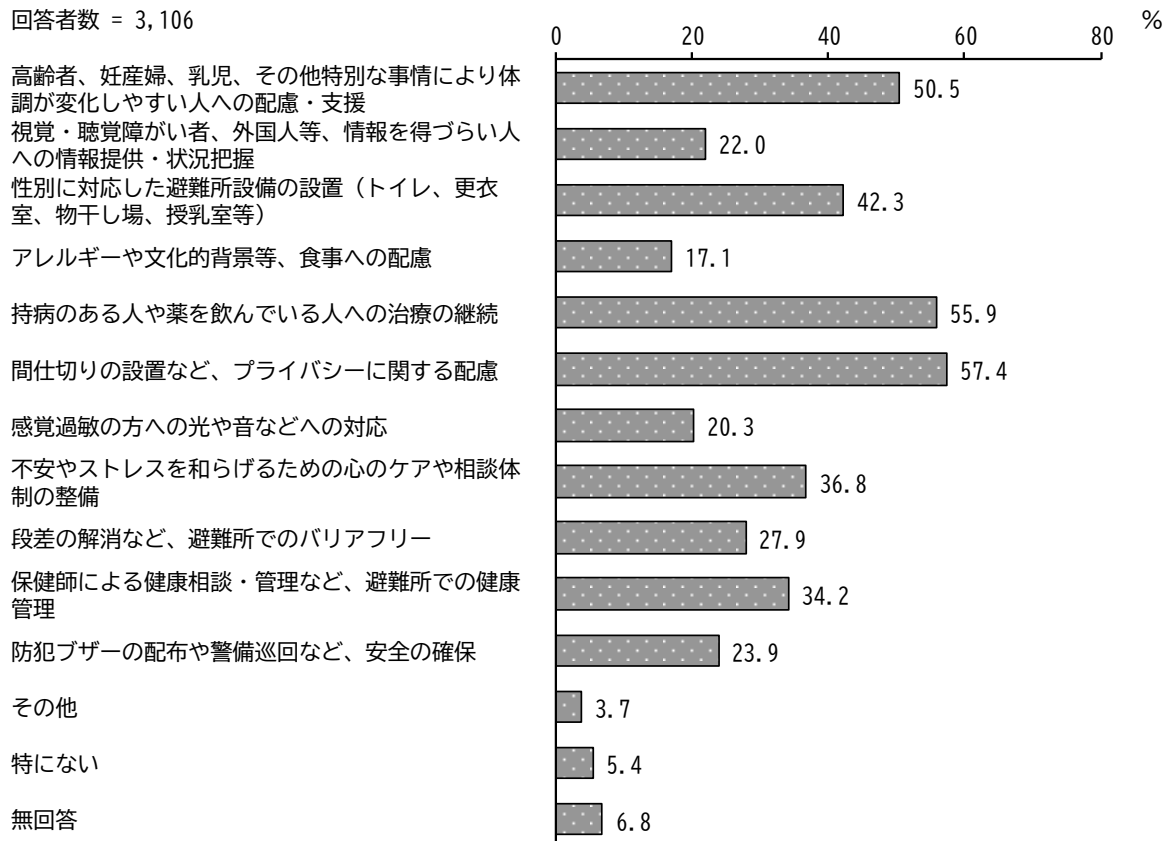
「同居の家族」の割合が 65.4%と最も高く、次いで「別居の家族」の割合が 15.7%、「近所の人」の割合が 13.3%となっています。



問 35 災害が起きたときに、あなたやあなたの家族が、避難所で配慮してほしいことはありますか。(いくつでも○)

「間仕切りの設置など、プライバシーに関する配慮」の割合が 57.4%と最も高く、次いで「持病のある人や薬を飲んでいる人への治療の継続」の割合が 55.9%、「高齢者、妊産婦、乳児、その他特別な事情により体調が変化しやすい人への配慮・支援」の割合が 50.5%となっています。

回答者数 = 3,106



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、精神障害者保健福祉手帳所持者で「不安やストレスを和らげるための心のケアや相談体制の整備」の割合が、身体障害者手帳所持者で「段差の解消など、避難所でのバリアフリー」の割合が、愛の手帳所持者で「間仕切りの設置など、プライバシーに関する配慮」「感覚過敏の方への光や音などへの対応」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	高齢者、妊産婦、乳児、その他特別な事情により体調が変化しやすい人への配慮・支援	視覚・聴覚障がい者、外国人等、情報を得づらい人への情報提供・状況把握	性別に対応した避難所設備の設置(トイレ、更衣室、物干し場、授乳室等)	アレルギーや文化的背景等、食事への配慮	持病のある人や薬を飲んでい人への治療の継続	間仕切りの設置など、プライバシーに関する配慮	感覚過敏の方への光や音などへの対応
全体	3106	50.5	22.0	42.3	17.1	55.9	57.4	20.3
身体障害者手帳所持者	1245	56.2	26.9	41.4	12.9	54.5	53.8	11.2
愛の手帳所持者	267	44.9	18.7	39.3	17.6	35.2	67.0	31.1
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	44.5	18.2	38.3	20.6	57.9	57.4	31.1
その他	835	44.1	18.2	44.4	21.8	60.2	61.8	31.0

区分	不安やストレスを和らげるための心のケアや相談体制の整備	段差の解消など、避難所でのバリアフリー	保健師による健康相談・管理など、避難所での健康管理	防犯ブザーの配布や警備巡回など、安全の確保	その他	特にない	無回答
全体	36.8	27.9	34.2	23.9	3.7	5.4	6.8
身体障害者手帳所持者	24.5	39.5	34.1	20.5	3.3	5.1	8.0
愛の手帳所持者	43.8	18.7	29.6	20.6	7.1	6.4	4.9
精神障害者保健福祉手帳所持者	59.8	14.8	32.1	26.8	2.4	4.3	7.7
その他	50.8	17.7	33.7	28.9	4.3	5.4	4.1

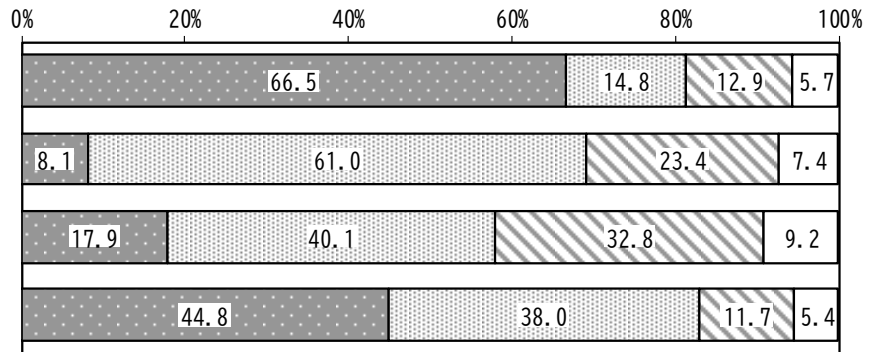
問 36 あなたの防災に対する日ごろからの取り組みや、災害などの緊急時のことについてお答えください。

『① 災害時の避難場所を知っていますか』で「はい」の割合が高くなっています。『② 避難行動要支援者名簿を知っていますか』で「いいえ」の割合が高くなっています。

■ はい ■ いいえ ■ わからない □ 無回答

回答者数 = 3,106

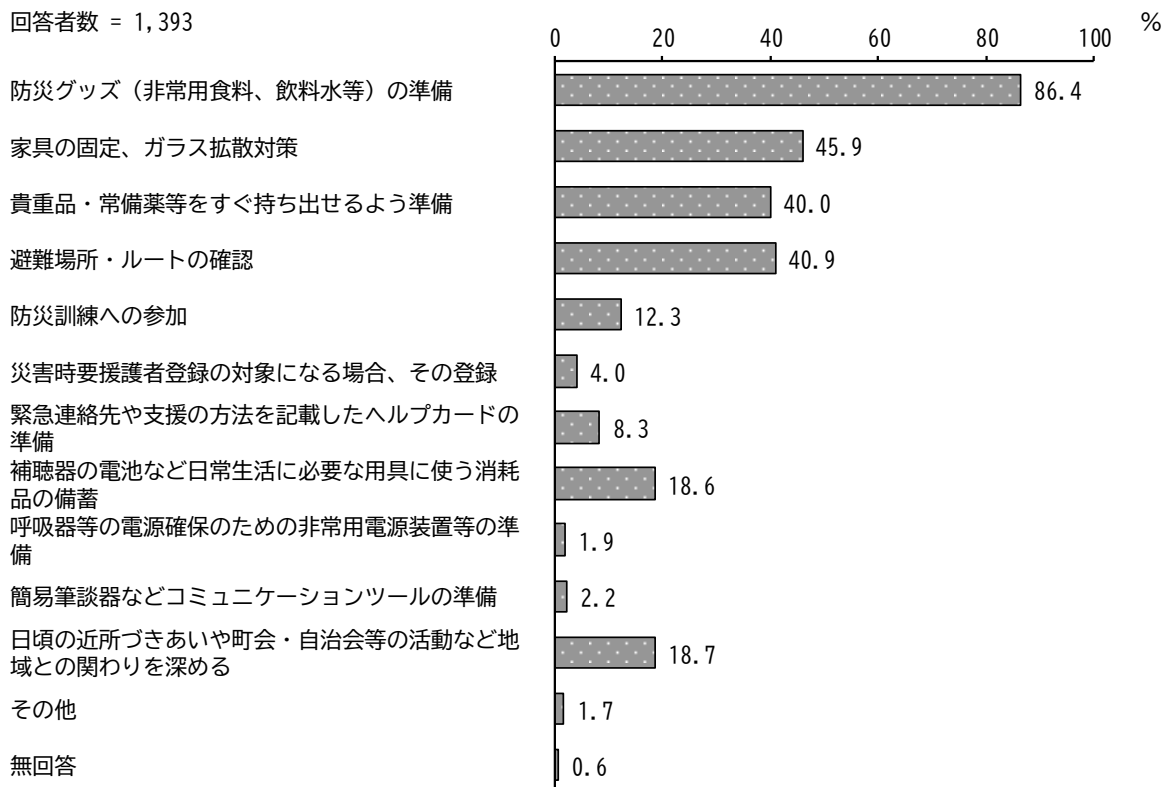
- ① 災害時の避難場所を知っていますか
- ② 避難行動要支援者名簿を知っていますか
- ③ 避難行動要支援者名簿に登録を希望しますか
- ④ 災害に備えて日頃から準備していますか



問 36-1 あなたが災害に備えて日頃からしているのはどんなことですか。(いくつでも○)

「防災グッズ（非常用食料、飲料水等）の準備」の割合が 86.4%と最も高く、次いで「家具の固定、ガラス拡散対策」の割合が 45.9%、「避難場所・ルートの確認」の割合が 40.9%となっています。

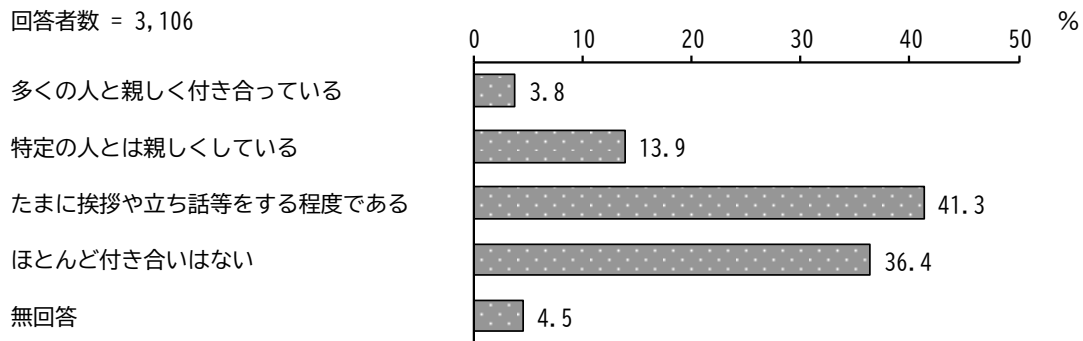
回答者数 = 1,393



10 地域社会について

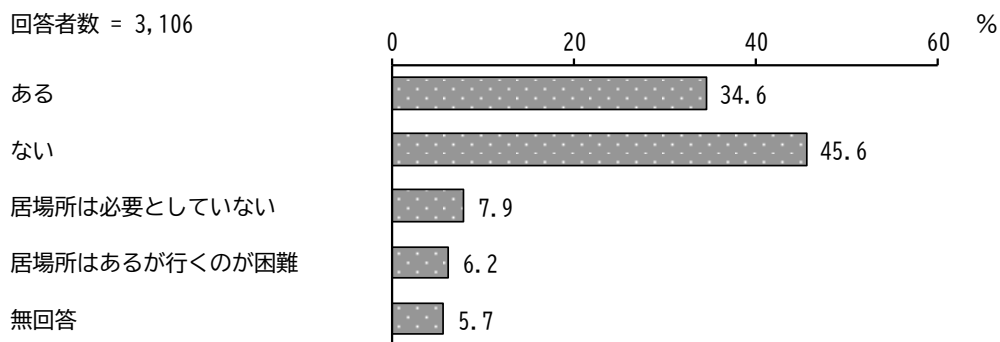
問 37 あなたは、隣近所の人とはどの程度お付き合いをしていますか。(1つに○)

「たまに挨拶や立ち話等をする程度である」の割合が41.3%と最も高く、次いで「ほとんど付き合いはない」の割合が36.4%、「特定の人とは親しくしている」の割合が13.9%となっています。



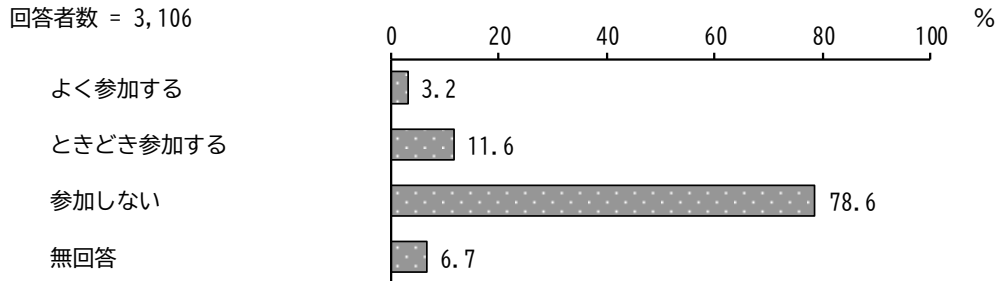
問 38 あなたにとって、自宅以外に気軽に行ける「居場所」はありますか。(1つに○)

「ない」の割合が45.6%と最も高く、次いで「ある」の割合が34.6%となっています。



問 39 あなたは、地域社会での活動（公民館・町会・自治会・子供会・ママさんグループやおやじの会・商店会などの行事等）に参加していますか。（1つに○）

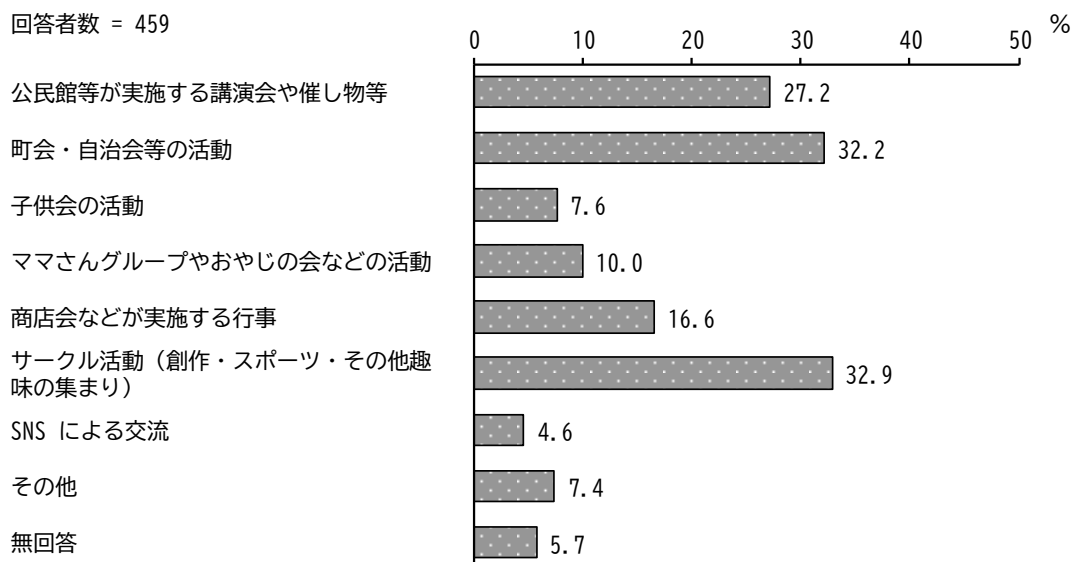
「参加しない」の割合が 78.6%と最も高く、次いで「ときどき参加する」の割合が 11.6%となっています。



問 39 で「よく参加する」、「ときどき参加する」を選んだ方にお聞きします。

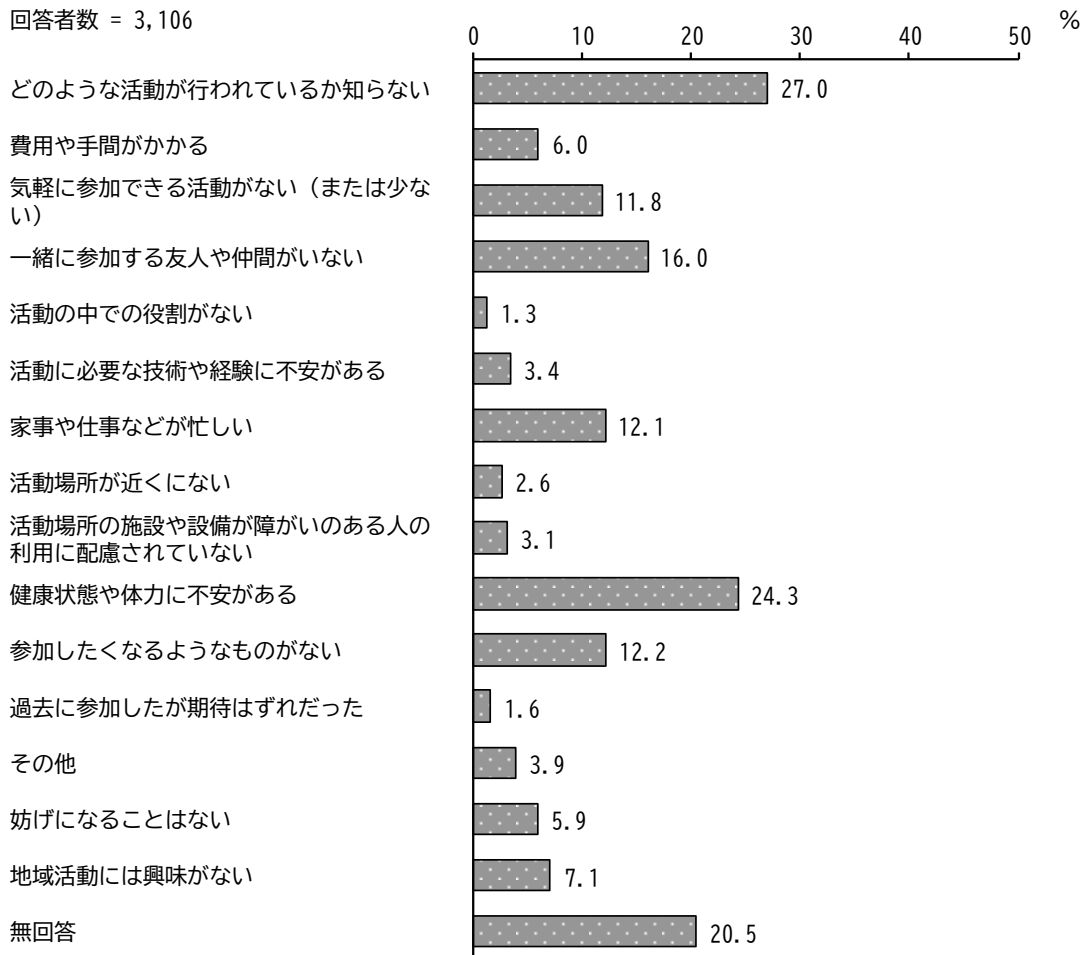
問 39-1 あなたは、どんな地域活動に参加していますか。（いくつでも○）

「サークル活動（創作・スポーツ・その他趣味の集まり）」の割合が 32.9%と最も高く、次いで「町会・自治会等の活動」の割合が 32.2%、「公民館等が実施する講演会や催し物等」の割合が 27.2%となっています。



問 39-2 あなたが地域活動に参加しようとした場合、その妨げとなることは何ですか。(3つまで○)

「どのような活動が行われているか知らない」の割合が27.0%と最も高く、次いで「健康状態や体力に不安がある」の割合が24.3%、「一緒に参加する友人や仲間がいない」の割合が16.0%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「気軽に参加できる活動がない（または少ない）」「参加したくなるようなものがない」の割合が、身体障害者手帳所持者で「健康状態や体力に不安がある」の割合が高くなっています。

単位：％

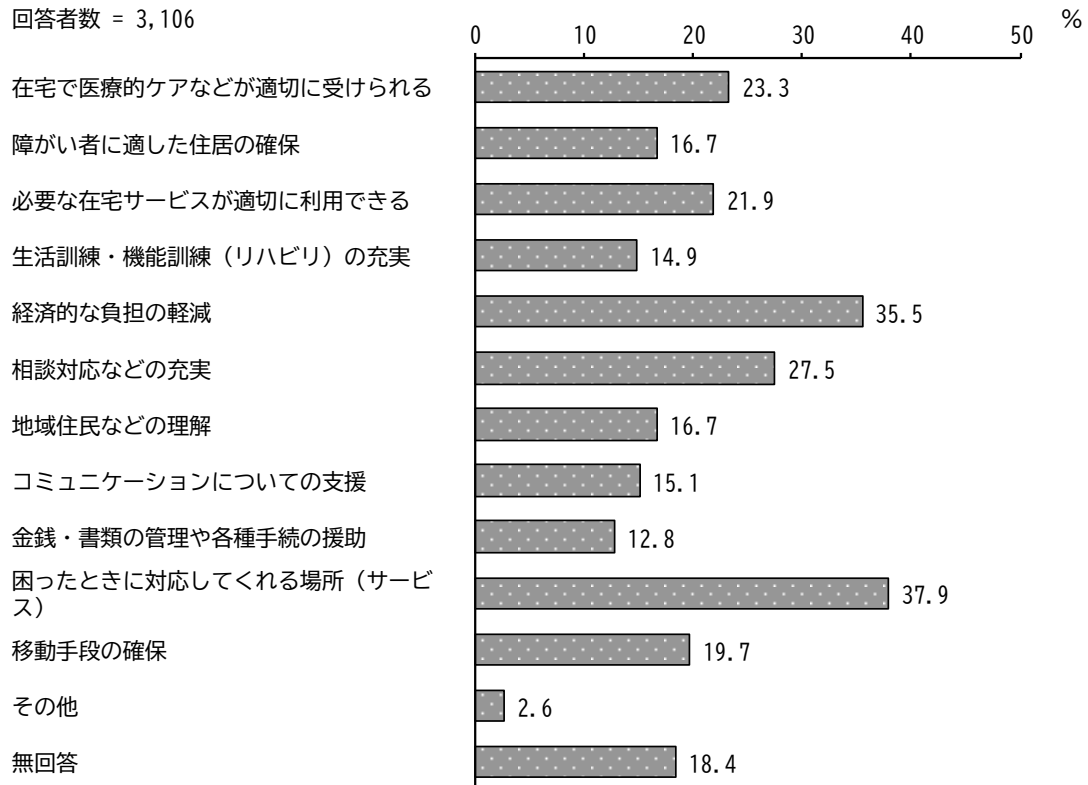
区分	回答者数(件)	どのような活動が行われているか知らない	費用や手間がかかる	気軽に参加できる活動がない(または少ない)	一緒に参加する友人や仲間がない	活動の中での役割がない	活動に必要な技術や経験に不安がある	家事や仕事などが忙しい	活動場所が近くにない
全体	3106	27.0	6.0	11.8	16.0	1.3	3.4	12.1	2.6
身体障害者手帳所持者	1245	22.3	2.7	9.9	11.3	1.4	2.4	8.8	2.7
愛の手帳所持者	267	27.0	4.1	21.0	19.5	2.2	7.1	6.7	5.2
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	30.6	9.1	9.6	19.6	1.9	4.8	12.4	2.4
その他	835	33.4	11.3	13.2	22.3	1.3	3.7	15.8	2.3

区分	活動場所の施設や設備が障がいのある人の利用に配慮されていない	健康状態や体力に不安がある	参加したくなるようなものがない	過去に参加したが期待はずれだった	その他	妨げになることはない	地域活動には興味がない	無回答
全体	3.1	24.3	12.2	1.6	3.9	5.9	7.1	20.5
身体障害者手帳所持者	3.1	29.6	11.0	1.7	3.9	6.6	6.1	22.9
愛の手帳所持者	9.0	7.1	18.4	3.0	6.0	3.7	8.2	19.5
精神障害者保健福祉手帳所持者	1.0	23.4	17.2	2.9	4.8	4.3	10.0	18.7
その他	2.5	22.5	12.9	1.1	4.1	4.6	7.8	16.6

問 40 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。(いくつかでも○)

「困ったときに対応してくれる場所（サービス）」の割合が 37.9%と最も高く、次いで「経済的な負担の軽減」の割合が 35.5%、「相談対応などの充実」の割合が 27.5%となっています。

回答者数 = 3,106



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「地域住民などの理解」「コミュニケーションについての支援」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「経済的な負担の軽減」の割合が高くなっています。

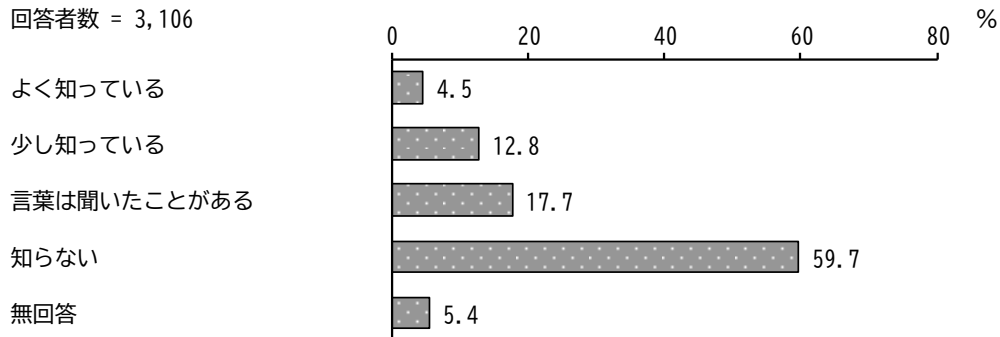
単位：％

区分	回答者数(件)	在宅で医療的ケアなどが適切に受けられる	障がい者に適した住居の確保	必要な在宅サービスが適切に利用できる	生活訓練・機能訓練(リハビリ)の充実	経済的な負担の軽減	相談対応などの充実
全 体	3106	23.3	16.7	21.9	14.9	35.5	27.5
身体障害者手帳所持者	1245	26.4	13.8	22.2	15.1	26.0	21.1
愛の手帳所持者	267	19.1	27.7	27.3	17.2	31.1	34.8
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	14.8	24.4	17.7	11.0	53.6	40.7
その他	835	21.8	20.8	21.8	16.0	50.4	33.9

区分	地域住民などの理解	コミュニケーションについての支援	金銭・書類の管理や各種手続の援助	困ったときに対応してくれる場所(サービス)	移動手段の確保	その他	無回答
全 体	16.7	15.1	12.8	37.9	19.7	2.6	18.4
身体障害者手帳所持者	10.0	8.7	6.0	32.7	21.8	2.1	22.4
愛の手帳所持者	39.7	30.7	27.0	50.6	22.8	3.7	13.1
精神障害者保健福祉手帳所持者	23.4	25.4	24.9	44.0	13.4	1.9	11.0
その他	22.9	21.3	17.2	42.6	18.1	3.6	12.1

問 41 平成 28（2016）年 4 月 1 日に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が施行されたことを知っていますか。（1 つに○）

「知らない」の割合が 59.7%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」の割合が 17.7%、「少し知っている」の割合が 12.8%となっています。



【障がい種別】

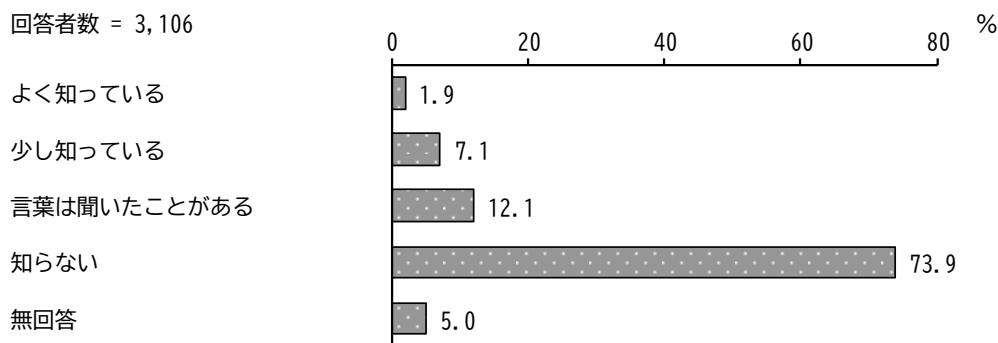
障がい種別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	よく 知っている	少し 知っている	言葉は 聞いたこと がある	知らない	無 回答
全 体	3106	4.5	12.8	17.7	59.7	5.4
身体障害者手帳所持者	1245	4.3	13.3	18.3	58.0	6.1
愛の手帳所持者	267	8.6	13.5	18.0	55.1	4.9
精神障害者保健福祉手帳 所持者	209	5.3	15.8	20.6	55.5	2.9
その他	835	4.4	12.5	16.9	63.0	3.2

問 42 平成 30 (2018) 年 10 月 1 日に「障害のある人もない人も共に学び共に生きる社会を目指す小金井市条例 (小金井市障害者差別解消条例)」が施行されたことを知っていますか。(1つに○)

「知らない」の割合が 73.9%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」の割合が 12.1%となっています。



【障がい種別】

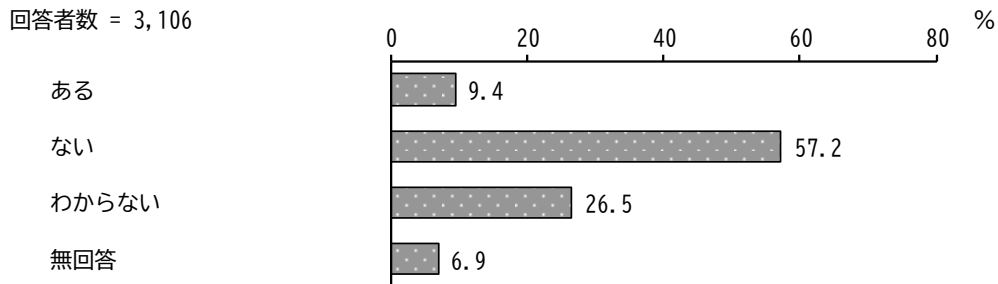
障がい種別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	よく知っている	少し知っている	言葉は聞いたことがある	知らない	無回答
全 体	3106	1.9	7.1	12.1	73.9	5.0
身体障害者手帳所持者	1245	1.8	8.6	14.0	70.8	4.8
愛の手帳所持者	267	4.9	12.4	14.2	63.7	4.9
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	1.9	6.7	13.4	72.7	5.3
その他	835	1.3	4.8	9.5	81.4	3.0

問 43 市内で生活している中で、「これは差別している」「差別された」と感じた経験がありますか。(1つに○)

「ない」の割合が57.2%と最も高く、次いで「わからない」の割合が26.5%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「わからない」の割合が、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者で「ない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	ある	ない	わからない	無回答
全 体	3106	9.4	57.2	26.5	6.9
身体障害者手帳所持者	1245	5.5	64.0	23.0	7.6
愛の手帳所持者	267	22.5	28.8	41.6	7.1
精神障害者保健福祉手帳 所持者	209	16.7	45.9	30.1	7.2
その他	835	13.5	52.6	29.8	4.1

問 43-1 どのような場面で、どのような差別を感じましたか。具体的にお書(か)きください。

1 まちなか・地域での偏見等 (86 件)

- ・ 見た目がおかしいと言うような表情でジロジロ見られた。(男性、60～64 歳)
- ・ 耳が聞こえないという一言だけで敬遠される。障害の重さは人により、どういう訓練をしたかによって、口の形を見て読み取れる人もいるのを知らない人が多すぎる。もっと勉強しろと思う。(女性、30～34 歳)
- ・ ヘルプマークをつけて横断歩道を渡っていたら暴言を吐かれた。(女性、35～39 歳)
- ・ お買い物に行った時、こんな所に車イスで来るなど言われ、それ以降お買い物にはいきません。(女性、80 歳以上)

2 交通機関での対応・バリアフリー (29 件)

- ・ 平らな道の整備、ココバスの増便。(男性、50～54 歳)
- ・ バスで障害者手帳を見せたら嫌な顔、不きげんな扱いをされた。(女性、30～34 歳)
- ・ 障害者用トイレが汚ない。古い公共施設では段差がけっこうある。(女性、45～49 歳)
- ・ タクシーの運転手に手帳を見せたら、子供に話す言葉が使われた(女性、45～49 歳)

3 学校・保育 (37 件)

- ・ 保育園入所を断られる(男性、0～5 歳)
- ・ 小学校の行事で親の付きそいがないと参加できないと言われた。(男性、12～17 歳)

4 公共施設・公共機関での対応・支援制度 (66 件)

- ・ 病院などの受付や順番など、最近はネットで申し込んだりすることができるようになっているが、障害によっては難しい人もいる。地域の医療機関がなかなか障害者を受け入れて診療してもらえないこと。(男性、70～74 歳)
- ・ 育児支援を受ける際の無理解(市役所職員)(女性、40～44 歳)

5 仕事・就労 (12 件)

- ・ 職場で(障害者雇用なのに理解してもらえない上にうわさ話される)(女性、40～44 歳)
- ・ 仕事に応募したら障害者は雇えないと言われ採用されなかった。(女性、50～54 歳)

6 住まい・不動産 (6 件)

- ・ 身分証明で精神障害者手帳を見せると変な顔をされる。部屋を借りる時に精神障害は困ると言われた。(女性、50～54 歳)

7 その他（12件）

- ・ 大怪我をしたが加害者が認めず謝罪もなかった。（しらを切り続けられた）（男性、25～29歳）

問 43-2 今後配慮してほしい事項はどのような事ですか。具体的にお書きください。

1 公共交通機関・バリアフリー（23件）

- ・ 身障割引について、運転手の方の理解があると助かります。多くの運転手の方は丁寧な対応をしてくださいます。（女性、45～49歳）
- ・ 障害者用トイレをきれいに。段差をなくしてほしい。（女性、45～49歳）
- ・ ヘルプマークを使用していますが、電車等優先席に座っていても、スマホいじりや居眠りをしている、気付いてもらえないで、ずっと立ちっぱなしの時がある。（女性、75～79歳）

2 プライバシーへの配慮（7件）

- ・ 支援等は隣り近所に知られたくない。軽症の場合そうではないでしょうか。配慮の徹底は望まれるところです。（男性、60～64歳）

3 保育・教育（21件）

- ・ 小さい頃からの教育（差別や障害者理解）が必要だと思います。主に学校で。（女性、12～17歳）
- ・ 障害があっても、地域の小学校で地域の子とともに学べるように支援体制を整えてほしい。（女性、12～17歳）

4 市・公共機関・医療への要望（79件）

- ・ 誰でもトイレの設置をすすめてほしい（男性、40～44歳）
- ・ 理解していることを前提にして、話や物事を進めるのではなく、理解できているかどうかを確認しながら物事を進めて欲しい。（女性、12～17歳）
- ・ 障がい理由に断らないでほしい。難しい場合は市内の医療機関で連携して治療が可能な病院を紹介してほしいと思います。（女性、60～64歳）

5 障がいに対する理解（53件）

- ・ 特に発達障がいの場合、見た目や少し日常会話をしているだけでは全くわからないので、「できないこと」「負担なこと」を理解されない。本人自身もはっきり説明できない。ふつうに見えても、やる気がないのではなく「できない」ことを理解してサポートしていただけたらいい。（男性、25～29歳）
- ・ 一般の方の様に自然と接してほしい（男性、45～49歳）
- ・ 子どもやその家族の話傾聴して気持ちをまずは尊重してあげてほしい。状況的に受け入れや配慮が難しい場合は、嘘をつかず丁寧に説明してほしい。障がいの理解や周知が必要。（女性、6～11歳）

- ・ 障害者に対する理解を深めて貰う活動や啓発。障害者が身近に居ることを理解、許容して貰いたい。(女性、12～17歳)
- ・ 統合失調症など精神病についての深い理解。(女性、35～39歳)

6 就労について (4件)

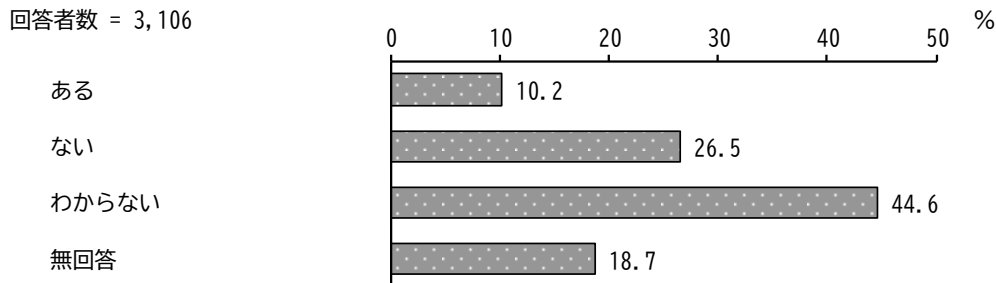
- ・ サポートする人と働けるように (男性、65～69歳)
- ・ 自分がやりたい仕事を障がいという理由でクビにするなどの偏見をやめてほしい。(女性、40～44歳)

7 その他 (41件)

- ・ 特別困っている訳でもないときには、構わないでほしいです。じろじろ見ないでほしいです。(男性、20～24歳)

問 44 市内で生活をしていて、障がいがある人に対して「配慮されているな」と感じたことはありますか。(1つに○)

「わからない」の割合が44.6%と最も高く、次いで「ない」の割合が26.5%、「ある」の割合が10.2%となっています。



問 44-1 どのような場面で配慮されていると感じましたか。具体的にお書(か)きください。

1 公共交通機関・バリアフリー (103 件)

- ・ バスで手帳を提示したらすぐに IC カードのかざすところを隠してくれる (割引料金になるため)。(男性、20~24 歳)
- ・ 道路上の点字ブロック、盲人用押しボタン式信号機、スロープ。(男性、30~34 歳)
- ・ 駅員さんの誘導、バス停への誘導。(男性、50~54 歳)
- ・ バスや電車でよく席をゆずってもらえる。(男性、75~79 歳)

2 まちなか・買い物・病院等 (71 件)

- ・ 行きつけのコーヒー屋さんで注文を指差しで聞いてくれる。奇声が出たり、家で飛んだり跳ねたりするが、近所から苦情も言われたことはない。美容院も歯医者さんもいろいろ配慮してくれる。(男性、20~24 歳)
- ・ インフラ等の設備 (駅・スーパーなど) (男性、50~54 歳)
- ・ 障がいの方向けのお手洗い (多機能トイレ) があること。(女性、25~29 歳)
- ・ 車椅子での入店、着席の便宜、店員さんの対応 (女性、75~79 歳)

3 支援制度・相談等 (49 件)

- ・ 補聴器での聞き取りにくい状況のため、窓口ではなく個室で相談に乗って頂いた。(男性、35~39 歳)

4 市役所・公共機関 (60 件)

- ・ 図書館、公民館、駅などにスロープがある (男性、55~59 歳)
- ・ マスクを外して、わかりやすい口の形の大きさと、きちんと対応してくれる。こちらが言わなくても筆談を相手からしようと行動を起こした時。(女性、30~34 歳)

5 その他（6件）

- ・ 選挙の候補者によっては演説に手話通訳がついているのを見たことがあり良い印象だった。
（男性、20～24歳）

問 45 「障害者権利条約」について知っていますか。(1つに○)

「知らない」の割合が 59.8%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」の割合が 18.6%となっています。

回答者数 = 3,106

よく知っている

2.6

少し知っている

8.5

言葉は聞いたことがある

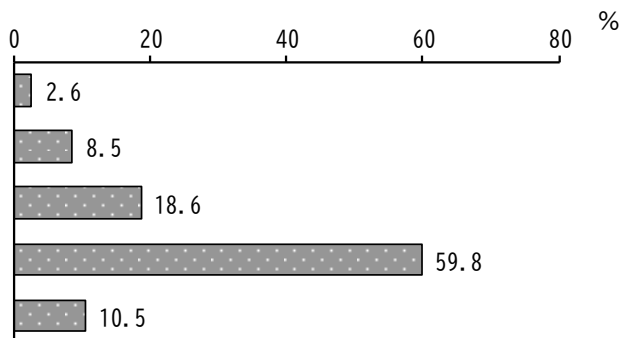
18.6

知らない

59.8

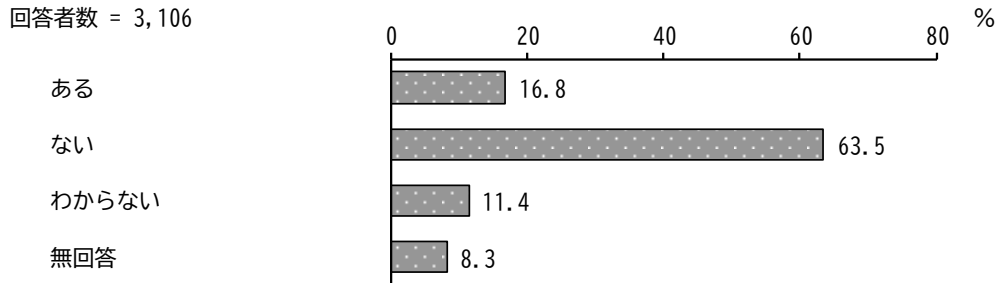
無回答

10.5



問 46 これまでに虐待（暴言・暴力・嫌がらせ・お金をとられた・無視されたなど）を受けたと感じたことがありますか。（1つに○）

「ない」の割合が63.5%と最も高く、次いで「ある」の割合が16.8%、「わからない」の割合が11.4%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、精神障害者保健福祉手帳所持者で「ある」の割合が、愛の手帳所持者で「わからない」の割合が、身体障害者手帳所持者で「ない」の割合が高くなっています。

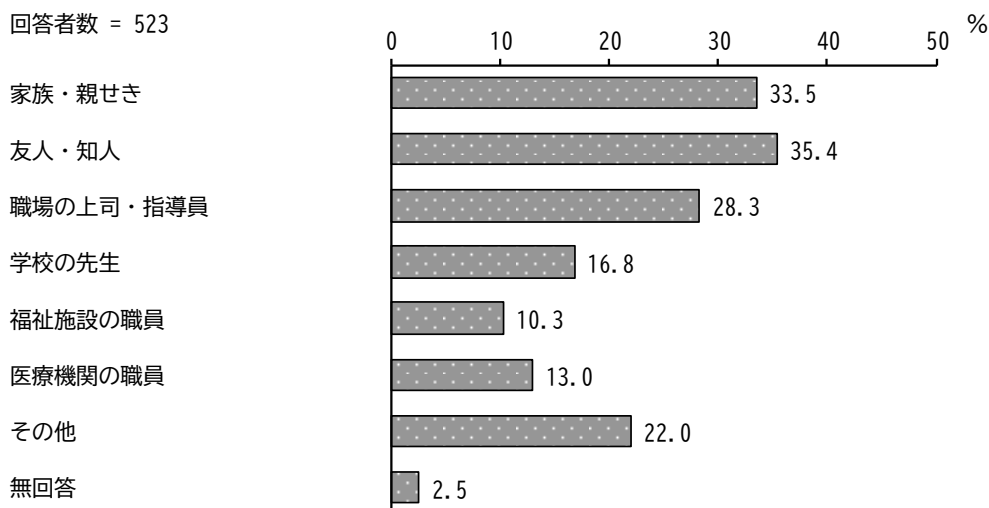
単位：%

区分	回答者数 (件)	ある	ない	わからない	無回答
全 体	3106	16.8	63.5	11.4	8.3
身体障害者手帳所持者	1245	7.1	75.7	7.2	9.9
愛の手帳所持者	267	17.2	48.7	26.6	7.5
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	42.6	37.3	12.9	7.2
その他	835	30.8	50.2	14.7	4.3

問 46 で「ある」を選択した方にお聞きします。

問 46-1 それは、だれにされましたか。(いくつでも○)

「友人・知人」の割合が 35.4%と最も高く、次いで「家族・親せき」の割合が 33.5%、「職場の上司・指導員」の割合が 28.3%となっています。



【障がい種別】

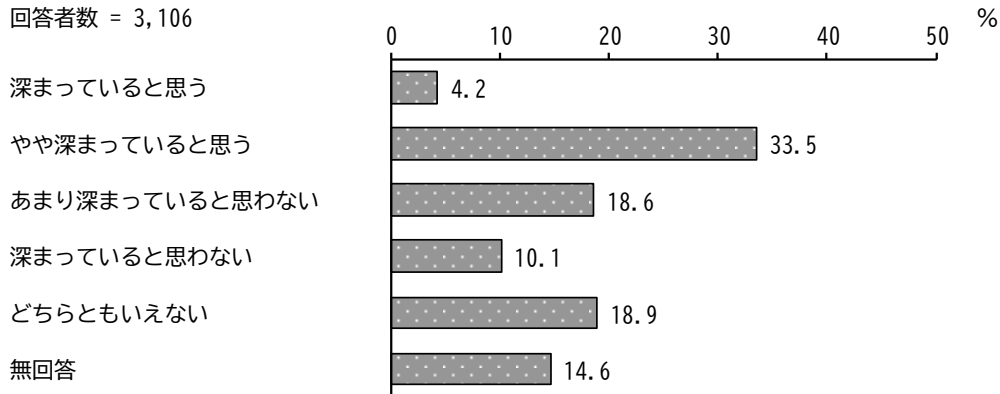
障がい種別にみると、他に比べ、身体障害者手帳所持者で「医療機関の職員」の割合が、愛の手帳所持者で「学校の先生」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「家族・親せき」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	家族・親せき	友人・知人	職場の上司・指導員	学校の先生	福祉施設の職員	医療機関の職員	その他	無回答
全体	523	33.5	35.4	28.3	16.8	10.3	13.0	22.0	2.5
身体障害者手帳所持者	89	18.0	22.5	22.5	6.7	10.1	22.5	36.0	3.4
愛の手帳所持者	46	30.4	37.0	13.0	26.1	10.9	13.0	19.6	—
精神障害者保健福祉手帳所持者	89	39.3	36.0	24.7	14.6	12.4	10.1	20.2	2.2
その他	257	36.2	41.2	33.9	19.8	9.7	12.5	20.2	1.9

問 47 あなたは障がいのある人の地域活動や就職などの社会参加について、一般の理解が深まってきていると思いますか。(1つに○)

「やや深まっていると思う」の割合が 33.5%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が 18.9%、「あまり深まっていると思わない」の割合が 18.6%となっています。



問 47-1 どのような場面で理解が深まっていないと感じますか。具体的にお書(か)きください。

1 障がいの理解全般 (189 件)

- ・ 精神障害者というだけで、もう、会話してもらえない。(男性、50～54 歳)
- ・ 自分から言わないと向こうは「筆談またはマスクを外してゆっくり話せばいいんだ」とならない&そういうことを自分で考えることもできない配慮が浅い人が多すぎる。情報提供が中途半端で終わり、あとはほったらかし。(女性、30～34 歳)
- ・ 特に、「発達障害は体力を消もうしやすい、脳が疲れやすい」ということに関して理解されていないような気がします。(電車内などでだれも席をゆずってくれない時など) (女性、45～49 歳)
- ・ ちょっと変わった行動をすると遠まきにされたりする。(女性、70～74 歳)

2 就労・働く場 (106 件)

- ・ 就職に関する情報、選択肢が少ないと感じます。(男性、12～17 歳)
- ・ 就職をする際、精神的に障害を持つ等の事を伝えると面接を失格されてきたため。(男性、30～34 歳)
- ・ 障害、難病と自分ではどうしようもないハンディを負って仕事をしている大変さに理解がなく、怒鳴られたり、机を叩かれたり、パワハラを受けた。(男性、60～64 歳)

3 まちなか・地域 (36 件)

- ・ 地域の人たちが障害者の居住をいやがるという事案が多い。市内クリニックの院長が障害者の通院を拒否する事案が多い。(男性、20～24 歳)
- ・ 車イス利用時、入店できない店が多い時がある。階段が多い店、障害者トイレがないとき。(男性、55～59 歳)
- ・ 困っていても見て見ぬふり。(女性、6～11 歳)
- ・ バス停、駅に腰掛けるところがない。外出を困難にしている。(女性、80 歳以上)

4 障がい福祉サービス支援 (27 件)

- ・ 放デイが少なく、市内での活動が出来ない。他市で放課後の過ごし方を考えている。障がい児を受け入れられる施設が増えるといい。学童は障がい児枠の受入れでどのような形でも通ってほしいと言ってくれるが、一緒に過ごす子どもたちの理解が得られず本人が通いたがらなくなってしまった。少人数という配慮が一番求めているものである。(男性、6～11 歳)

5 公共交通機関・バリアフリー (51 件)

- ・ スロープなどが少ない。(男性、30～34 歳)
- ・ 点字ブロックの上に自転車を止めている。音声で案内する信号が少ない。(男性、45～49 歳)
- ・ シルバーシートの前でヘルプマークをぶらさげていてもスマホを見ていて譲ってもらえない。(女性、55～59 歳)

6 保育・教育 (13 件)

- ・ 本人を見て判断するのではなく「ダウン症だから」と入園を拒否しているところ。(男性、0～5 歳)

7 買い物・飲食 (12 件)

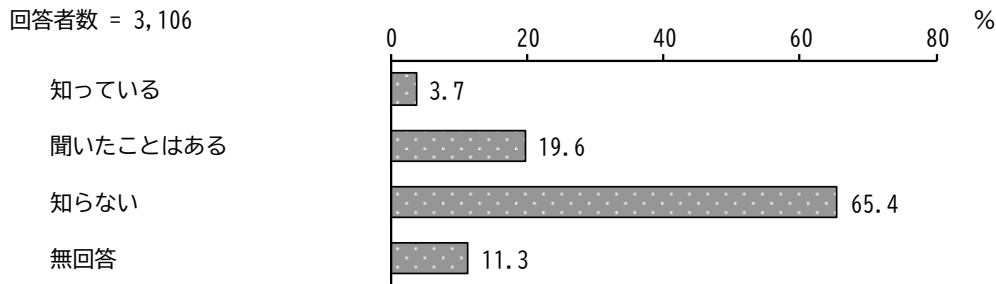
- ・ 食堂やカフェ、レストランで狭い席で車椅子では利用しづらい。(男性、80 歳以上)

8 その他 (103 件)

- ・ 地域活動に参加できない人への配慮がない。(女性、80 歳以上)

問 48 「小金井市地域自立支援協議会」を知っていますか。(1つに○)

「知らない」の割合が 65.4%と最も高く、次いで「聞いたことはある」の割合が 19.6%となっています。



問 48-1 協議会に対してどのようなことを期待しますか。ご自由にお書きください。

1 活動内容が知りたい (4 件)

- ・ 具体的にどんな活動をしているのか広報などしてほしいです。(女性、50～54 歳)

2 政策提言・相談支援に関する事 (80 件)

- ・ 各分野の方々が困りごとを持ち寄って、それを解決するための方法を皆で知恵を出し合い、障がい者が少しでも生活しやすくしてほしい。(男性、20～24 歳)
- ・ さまざまな課題のあらい出しと、どの様な考え方で、どのように取り組むのか、見える化してほしい。(女性、60～64 歳)
- ・ 形だけの協議会ではなく、中身のある話し合いをしてほしい。現場で関わっている方の話を十分聞いて生かして欲しい。(女性、65～69 歳)

3 その他 (37 件)

- ・ 当事者参加をより充実。(女性、65～69 歳)

問 49 小金井市で障がいのある人も、ない人もみんな一緒に暮らしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。自由にお書きください。

1 障がいの理解・偏見をなくすこと (396 件)

- ・ 思いやりをもって人と接する、相手の立場になって物事を考えて行動すると良いと思う。(男性、50～54 歳)
- ・ 助け合う、分かり合う。(女性、6～11 歳)
- ・ 障がいはその人の個性の一部だととらえ、必要な支援を受けながら自由に生活していける社会が構築されること。(女性、55～59 歳)

- ・ お互いの理解が大切だと思う。声を上げないとわからないから、コミュニケーションが大切。
(女性、60～64歳)
- ・ 障がい者についてもっと理解を深め、すべての人が偏見を持たないようになること。
(女性、70～74歳)
- ・ 各自を尊重。差別しない。(女性、80歳以上)

2 支援体制の充実 (120件)

- ・ 希望する誰もが(日中も夜間も)地域で暮らせるような施設の充実がより一層必要だと思います(生活介護、グループホーム、入所施設)(男性、20～24歳)
- ・ 相互理解と、公的機関の支援サービス拡充。(女性、55～59歳)

3 地域や保育・教育の場での交流の充実 (152件)

- ・ 幼少期に障がいがある人と生活すること。(保育園、幼稚園、学校、学童 etc) or 友だちになること。(女性、45～49歳)
- ・ 幼いころからの教育。色々な人が生活しているという理解する教育。(女性、70～74歳)

4 まちづくり・バリアフリー (61件)

- ・ 公共施設、道路など段差がなくユニバーサルデザインに配慮したものと良い。
(女性、60～64歳)
- ・ 歩道にベンチを置いて、休み休み、外出ができるようにしたらいいと思います。障がいのある人とない人の交流の場にもなると思います。(女性、60～64歳)

5 就労・家計 (29件)

- ・ 自立に向けた就労の機会とサポート、周囲の理解が必要と考えます。(男性、12～17歳)

6 難しい・簡単ではない (45件)

- ・ 色々な考え方が、あるので、とても同じ方向に向いて、まとめる事は、むずかしいと思う。
(女性、70～74歳)
- ・ 一般の人の心のバリアフリー化。関心のある人とない人との差が大きいように思う。
(女性、80歳以上)

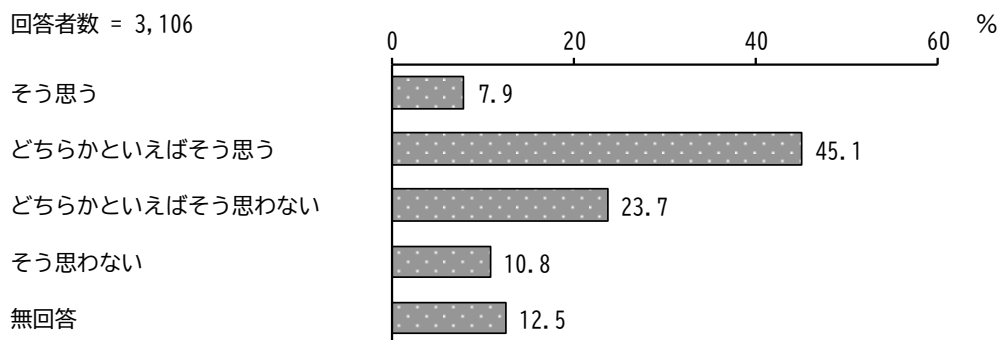
7 その他 (71件)

- ・ 支援は必要なものかもしれませんが、本人が希望しない限りあえて自然に接することではないでしょうか。(男性、55～59歳)

11 今後の暮らし方や障がい福祉施策全般について

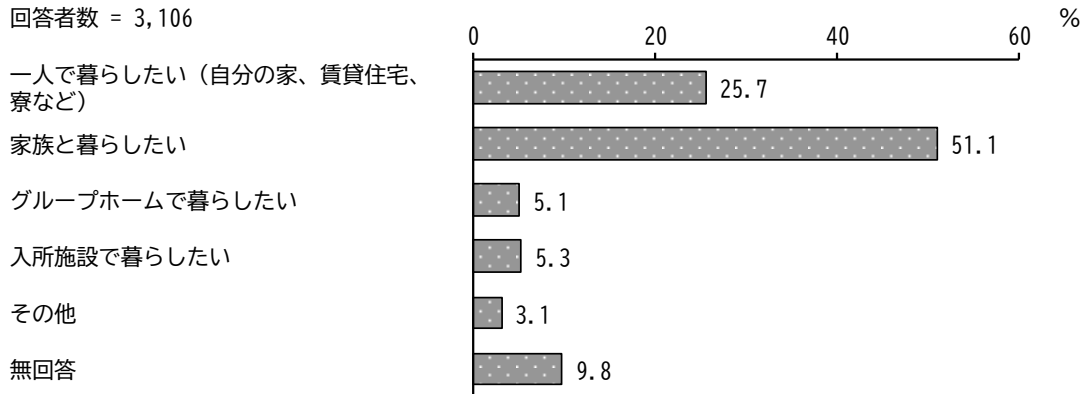
問 50 小金井市では、「誰もがいきいきと暮らすことのできるまち」の実現をめざしています。あなたは、小金井市は「誰もがいきいきと暮らすことのできるまち」だと思えますか。(1つに○)

「どちらかといえばそう思う」の割合が45.1%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」の割合が23.7%、「そう思わない」の割合が10.8%となっています。



問 51 あなたは将来、どのように暮らしたいですか。(最もあてはまるものに1つだけ○)

「家族と暮らしたい」の割合が51.1%と最も高く、次いで「一人で暮らしたい(自分の家、賃貸住宅、寮など)」の割合が25.7%となっています。



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、精神障害者保健福祉手帳所持者で「一人で暮らしたい(自分の家、賃貸住宅、寮など)」の割合が、身体障害者手帳所持者で「家族と暮らしたい」の割合が、愛の手帳所持者で「グループホームで暮らしたい」の割合が高くなっています。

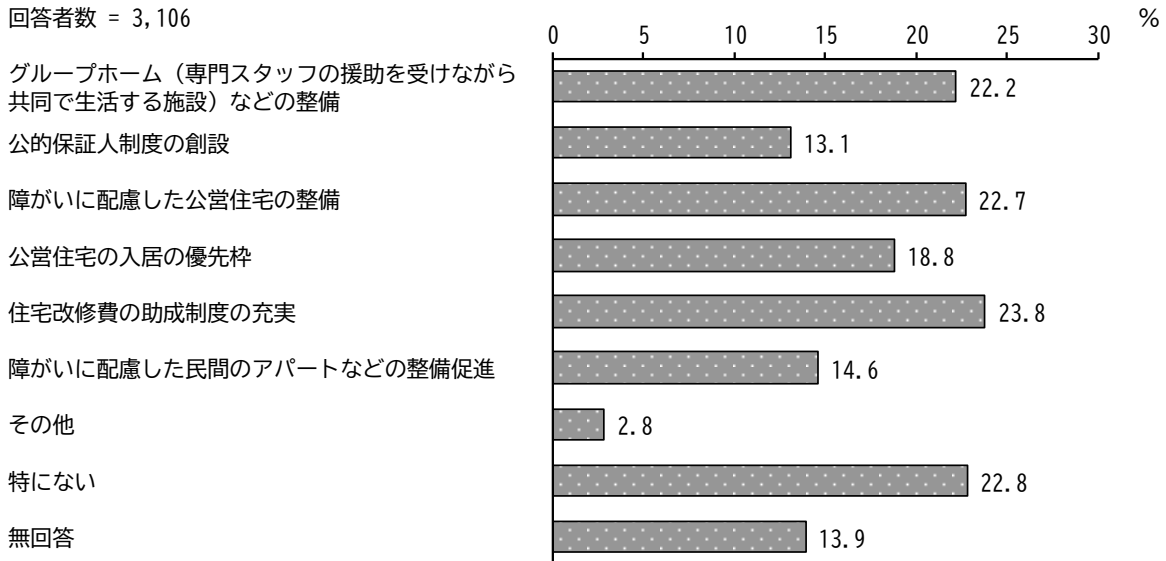
単位：%

区分	回答者数(件)	一人で暮らしたい (自分の家、賃貸住宅、寮など)	家族と暮らしたい	グループホームで暮らしたい	入所施設で暮らしたい	その他	無回答
全体	3106	25.7	51.1	5.1	5.3	3.1	9.8
身体障害者手帳所持者	1245	21.3	56.1	1.8	7.6	2.2	11.0
愛の手帳所持者	267	10.9	36.3	31.1	6.0	6.4	9.4
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	39.7	41.1	2.4	3.3	4.3	9.1
その他	835	35.3	46.1	4.7	3.4	3.4	7.2

問 52 市の住宅対策として、今後特に望むことは何ですか。(3つまで○)

「住宅改修費の助成制度の充実」の割合が 23.8%と最も高く、次いで「特にない」の割合が 22.8%、「障がいに配慮した公営住宅の整備」の割合が 22.7%となっています。

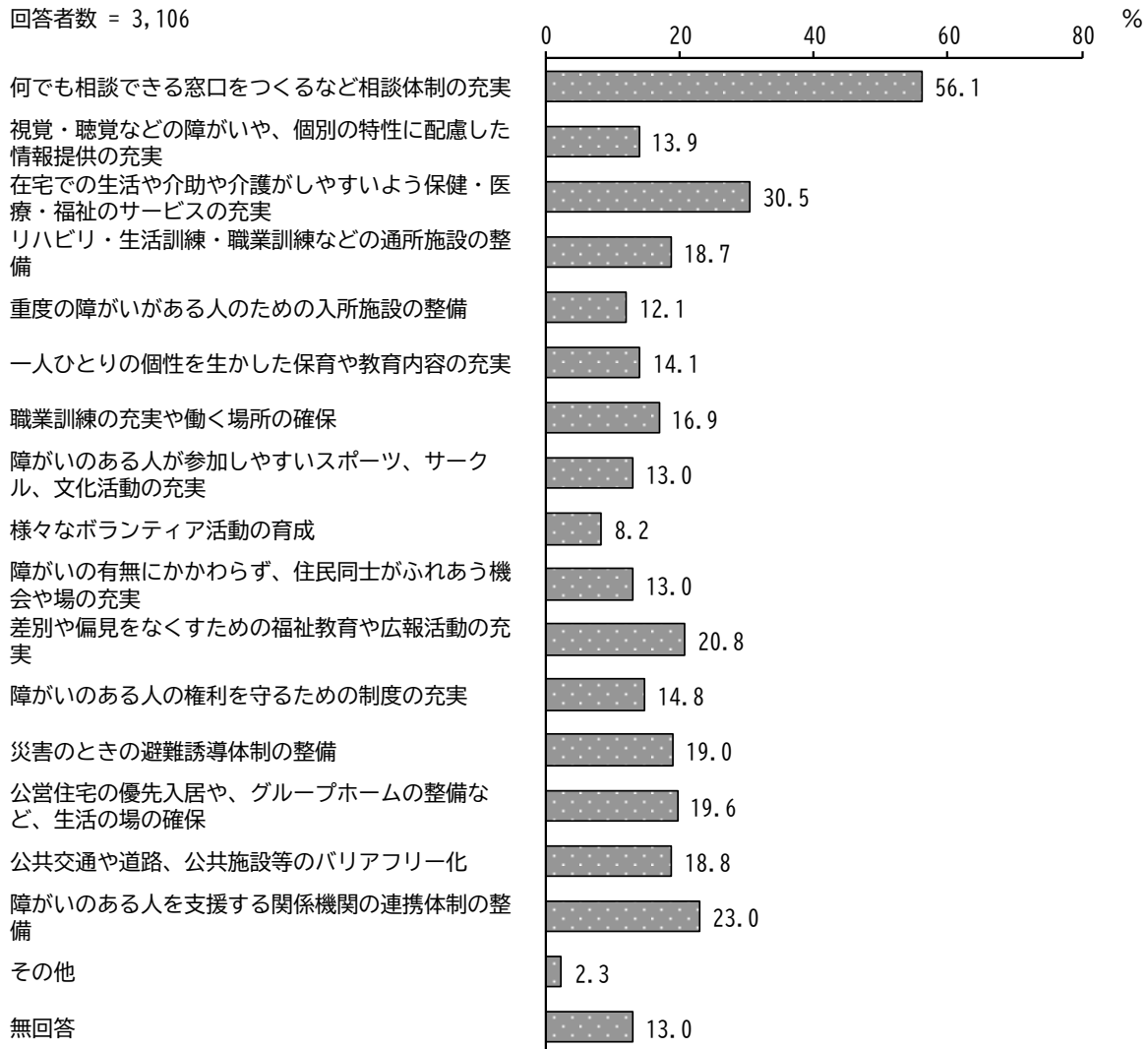
回答者数 = 3,106



問 53 障がいのある人にとって暮らしよいまちづくりのためには、どのようなことが必要だと考えますか。(5つまで○)

「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」の割合が 56.1%と最も高く、次いで「在宅での生活や介助や介護がしやすいよう保健・医療・福祉のサービスの充実」の割合が 30.5%、「障がいのある人を支援する関係機関の連携体制の整備」の割合が 23.0%となっています。

回答者数 = 3,106



【障がい種別】

障がい種別にみると、他に比べ、愛の手帳所持者で「公営住宅の優先入居や、グループホームの整備など、生活の場の確保」「障がいのある人を支援する関係機関の連携体制の整備」「重度の障がいがある人のための入所施設の整備」の割合が、精神障害者保健福祉手帳所持者で「差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動の充実」「障がいのある人の権利を守るための制度の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実	視覚・聴覚などの障がいや、個別の特性に配慮した情報提供の充実	在宅での生活や介助や介護がしやすいよう保健・医療・福祉のサービスの充実	リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備	重度の障がいがある人のための入所施設の整備	一人ひとりの個性を生かした保育や教育内容の充実	職業訓練の充実や働く場所の確保	障がいのある人が参加しやすいスポーツ、サークル、文化活動の充実	様々なボランティア活動の育成
全体	3106	56.1	13.9	30.5	18.7	12.1	14.1	16.9	13.0	8.2
身体障害者手帳所持者	1245	53.0	17.2	36.1	19.3	13.3	6.7	9.2	13.1	7.6
愛の手帳所持者	267	50.6	9.0	22.8	16.1	23.6	17.2	23.6	22.5	10.1
精神障害者保健福祉手帳所持者	209	58.4	11.5	18.2	12.4	5.7	13.9	24.9	12.0	4.8
その他	835	61.8	12.1	23.8	18.7	9.3	23.1	25.1	12.8	7.7

区分	障がいの有無にかかわらず、住民同士がふれあう機会や場の充実	差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動の充実	障がいのある人の権利を守るための制度の充実	災害のときの避難誘導體制の整備	公営住宅の優先入居や、グループホームの整備など、生活の場の確保	公共交通や道路、公共施設等のバリアフリー化	障がいのある人を支援する関係機関の連携体制の整備	その他	無回答
全体	13.0	20.8	14.8	19.0	19.6	18.8	23.0	2.3	13.0
身体障害者手帳所持者	15.3	14.5	11.8	23.5	16.1	23.9	19.9	1.9	14.7
愛の手帳所持者	9.7	24.3	19.5	15.7	35.6	6.4	36.3	3.4	9.4
精神障害者保健福祉手帳所持者	11.5	29.7	25.4	10.5	22.5	8.6	33.5	2.9	15.8
その他	12.5	26.7	18.2	15.1	20.8	12.6	24.1	3.1	9.8

ご意見、ご提案などがありましたら、ご自由にお書きください。

1 まち・住まい (61 件)

- ・ 多目的トイレが増えるとうれしいです。身体が大きくなっても一人でトイレで用を足すことが出来ません。外出時には必ずトイレで困ります。多目的トイレを利用する人は、一般のトイレを利用出来る人に比べて、使用時間はとても長いです。順番を待ってもなかなか空きません。そのため、多目的トイレが必要だと思います。(男性、20～24 歳)
- ・ 車イスで行ける食堂、居酒屋、映画館、コンサート等をわかるように告げてほしい。(男性、80 歳以上)
- ・ 将来的に住みなれた地域で生活できるよう、住居のサービスを増やして欲しい。(女性、6～11 歳)
- ・ 私は現在 94 歳です。日常生活を保てるように毎日歩くように心がけています。食事は夕食のみ家族 5 人の献立をしています。食事のメニューの 5 人分の買い物、調理、献立も。兄、バスで出かけることが多いのですが、ベンチがないので不便。買い物を済ませてバスが来るのに時間がかかります。ずっと立っているのが辛い時もあります。(女性、80 歳以上)

2 アンケート (108 件)

- ・ このようなアンケート調査を行っていただき感謝しております。しかし、なぜこの忙しい時期に。障がい者家族の長期休暇中は本当に大変なのです。(男性、20～24 歳)
- ・ 障害のある人に聞き取るには質問が多すぎる。説明しても難しいことが多く、理解できない。(女性、55～59 歳)
- ・ 幅広いアンケート調査で良かった。内容も良い。しかし、項目に思いを込めて答えるには、時間かかり疲れた。調査を年に 1 度やられたら困る。(女性、80 歳以上)
- ・ 施設入所している重度の障がいがある者の調査としては回答が困難なものがありました。(女性、80 歳以上)

3 障がい福祉サービスや施設・制度 (99 件)

- ・ 学校を卒業した重度の障がい者が通える生活介護の施設が小金井市はとても不足しています。他市に頼ることなく本人が住み慣れた地域で、近所の方などに見守られ地域の事業所に通う、そんな当たり前のことができる市であってほしいと思います。よろしく願いいたします。(男性、20～24 歳)
- ・ 息子も移動支援を利用したいが、契約してもらえない事業所がなく、常に両親である私たちが付き合っている。体力の限界も感じてきているので、一人でいくつもの事業所と契約し利用している方もいるので、見直しをし、平等に利用できるようにしてほしい。社会人も利用できる放課後デイみたいなものがほしい。他市に比べ、グループホーム、作業所がとても少ないと思う。空き家対策を解消にもなるので、市内の空き家などをグループホームへなど、対策してほしい。両親が多少負担しても。質の良いサービスをうけれるグループホームであれば、入所させたいと思う方は多いのではないかと思います。(男性、20～24 歳)
- ・ 私は普段働いていますが障害があります。体調が悪い時は家事や身のまわりのことが何も出来なくなりますが、そのサポートを受けることが出来ません。ホームヘルプのサービスを、もう少し気軽に利用できるようになると助かります。(女性、40～44 歳)

4 地域社会・差別・理解 (61件)

- ・ 本人が子どもなので親が記入しています。国連から日本はインクルーシブ教育が進んでいない国として指摘を受けましたが、今後も進めて行く気がないようです。インクルーシブ教育はどちらかと言うと、障がいのない子ども（普通学級に通っている子ども）のためにされるべきであると思っています。私自身大人になった時に障がいがあるとされている方が、何で困っているのか分からず、手を差し伸べたくてもできなくて、いい大人になってしまったからです。個性的な友達がいたらよかったと思うことは、何度もありました。その後40年経ってもインクルーシブ教育は進んでいませんよね。しかし障がいを持っている子どもを持つ親となり、小金井でも全くインクルーシブ教育になる気配もなく、普通学級しかない学校に知的遅れのある子どもを入学させるのは、とても難しいことを実感しています。肩身が狭いですね。どんな子どもも同じ教室で学べるようにならないければ、障がいを個性として受け入れる社会の実現は難しく、差別をなくすことはできないと思います。家族になり実感することは障がいではなく個性だということです。接する機会がなければ理解することは不可能です。(男性、0～5歳)
- ・ 重度の障がい児を育てているため、児発にお世話になるまでは外に出歩けない日々を送っていました。障がい児（医療的ケア児）を連れていける児童館のような場があればリフレッシュも出来たのではと思います。まわりに理解のある人も少なく、医療の知識もあまりない状態で子と向き合うのはともしんどかったです。市に相談しても解決方法は教えてくれても辛いことを共有することは出来ません。同じ気持ちをわかり合える横のつながりをつかめる場をつくることも大切だと思います。(男性、0～5歳)
- ・ 自分の思いを良く伝えられない人もいます。思う様に口がしゃべれない人もいます。そう云う人にも良く話を聞いてくれる人がいれば良いと思います。(男性、55～59歳)
- ・ 統合失調症というやはり周囲の人にとってこわいという思いを持たれてしまう。大きな事件があるとまたかと思えてしまう。辛いです。やはりこの障がいを理解してもらうのは本当に難しい。(女性、40～44歳)

5 相談・情報・手続き (78件)

- ・ 市役所の窓口を平日の日中以外にも開けてほしい。自立支援以外ではやっているところもある。手続きなどを郵送やインターネットなどで、時間・場所を問わずにできるようにしてほしい(男性、35～39歳)
- ・ 個々の障害に対応した設備、ケア、コミュニケーション等を充実してほしい。日常的に啓発活動を行ってほしい。講演会、サークル活動に参加したいが情報保障が少ないのが残念。(女性、75～79歳)
- ・ 制度がとても細かくかつ複雑なので、総合窓口のようなものを設置して、何でも相談できるようにしてほしい。近隣の自治体では、そのような部署を設置しているところがあるので是非検討してほしい。本人や家族など専門知識を持っていない場合、何が何だかわからない。ていねいにわかりやすく何事も説明してほしい。また、アンケート内容が施設入所者を想定してないように感じる設問だったので、特に高齢者は施設入所者も一定数いると思うので、それを想定した設問があってもよかったのではと思う。高齢になればなるほど、医療と介護の境目が不明確だと思うので、柔軟な制度を望みむ。(女性、80歳以上)

6 日常生活・家族（42件）

- ・ 障害状況が固定的であっても、ライフステージがかわっていくことで、できていたことが高齢にともないできなくなり、生活への影響は早めに大きくなっていく不安がある。又、サポートしてくれる家族の状況の変化から受ける影響も大きい。障害とライフステージと家族状況についてバラバラに対応判断するのではなく、個々の状況を総合的にサポートする考え方になってほしい。（女性、55～59歳）
- ・ 現在一人暮らしです。介護の支援を時々頂き家族からの応援をもらって、なんとか不自由しないですごしています。この先、どのようになりますか、自分で動けなくなったら施設入所を考えています。（女性、80歳以上）

7 市政全般（29件）

- ・ いろいろと活動されていると思いますが、それがあまり市民に浸透していないようです。更なる活動を頑張ってください。（男性、50～54歳）

8 経済（39件）

- ・ 物価高で経済的に苦しい。定期的に通院も必須のため交通費の援助があれば助かる。現在も生涯年金や自立支援制度を利用させていただいているのに申し訳ないが、昨今の物価高は想定範囲外で困っている。（女性、45～49歳）

9 障がい・病気のこと（13件）

- ・ いろいろとお世話になっています。私は高熱が続いた病気が原因で、途中で難聴になりました。自分の障がいを自分で受け入れるだけのことで、難聴は外見ではわからないので長い時間かかりました。勤めの帰りに手話を習っておけば先々良からうと若い頃から手話を覚えましたが、これも相手が手話を知らないくは通じませんし、覚えてもなかなか100%活用できません。今コロナの蔓延で皆マスクをして生活していますが、口の形が見えなくてマスクがなかった頃の半分も言葉がわからず困っています。聞こえないといえば皆さんは大きな声を出してくださいますが、我々が思う聞こえないということは音が聞こえないことより、言葉を読み取れないことです。だから大声よりゆっくり、はっきりとしゃべってほしいと思っています。（女性、80歳以上）

10 保育・教育（33件）

- ・ いろいろな障がい者がいるということを、子どもの頃から教育し、障がい者に対して偏見を持たせないようにする（男性、70～74歳）
- ・ 背の低い人もいれば高い人もるように障がいの無い人もいれば障がいをもった人がいることが普通のことなんだということを教育にもっととり入れていただきたい。障がいのある人は特別でかわいそうだということではなく障がいのある人がいることは普通のことだけど障がいのある人はその普通の生活ができないんだということ。そうすればおのずと支援の理解も深まるのではないか。（女性、40～44歳）

11 災害（8件）

- ・ 自分がその立場になってみなければ、障がい者のことは理解できないと思う。その他の病気等に関しても言えることだが、装具つけて歩けても、地震時に土割れでも起きたら避難所まで行けないし、行ったとしても障がい者や老人は避難所では面倒な人とか、手のかかる人ぐらいにしか思われなと思う。（女性、65～69歳）

12 仕事・就労（17件）

- ・ 障がい者が働きやすい社会になってほしいです。（男性、45～49歳）
- ・ 働きたい（パート）のですが、フルタイムで働くことができません。ハローワークに行ってもフルタイムばかりで仕事が見つかりません。週3から4日、3から5時間勤務などの仕事をしたいです。仕事をしていると少しでも社会参加できるような気がして自分に自信が持てます。（女性、45～49歳）

13 その他（22件）

- ・ 「特になし」など

Ⅲ－２ 関係団体

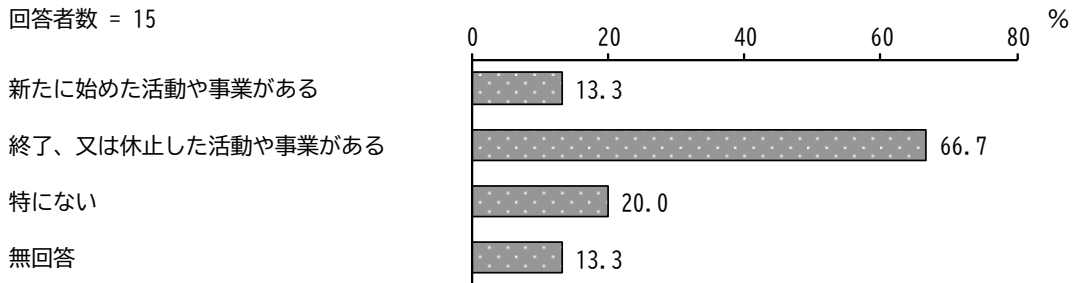
１ 団体活動の状況について

問１ 貴団体の活動の概要を簡潔にご記入ください。

- ・ 市立図書館からの依頼による対面朗読及び録音図書作成や、市報等公的広報資料の音声版作成等を中心とした活動により、視覚障がい者や高齢者に音声を通じて情報や文化を提供している。また、公募による一般参加可能な音訳講習会を毎年継続して開催する事により、会員の音訳技術の向上を図るとともに、音訳ボランティア活動を周知しながら新規会員の入会を持続している。
- ・ 小金井市を中心に、ダウン症児・者の家族会、本人達のための活動、家族やきょうだいへの情報提供など。
- ・ 点字を通して視覚障がい者の方に新聞の記事等を打ち、お届けする。支援学校図書館、市内図書館の本の点訳、お届け、市内の視覚障がい者の会の方との親睦会 etc. 市内小学校での点字体験指導。
- ・ 手話通訳者として日々通訳活動に従事する。聴覚障がい者団体の活動に協力すると共に、一般市民の理解を深めてもらう為に学校関係の出張講座も行う。スキルアップの研修をやる。
- ・ 市内の老人ホームにて読み聞かせの朗読。
- ・ 視覚障がい者及び本人及び賛同者が会員の交流及び互助のもと、お互いの知識向上、社会参加を目的に、毎月の徒歩訓練を中心に会員同士で地域及び東京都全体の団体として、会員の福祉向上、資質のアップを目指し日々活動しております。
- ・ 要介護者、障がい者など、移動困難な方の外出を乗用車や福祉車両で送迎支援。
- ・ 肢体不自由児をもつ親の会「のびよう会」の行事の企画運営などしていましたが、「のびよう会」会員の高齢化が進み、お花見、クリスマス会などの行事を少しずつ縮小し現在は行っていません。ぽぽんたとしては会員から希望のあったクリスマスカードを手作りして、シーズンに届けています。
- ・ 定例会では同じ悩みを持つ家族同士が気がねなく話すことで、お互いに支え合う場をめざしています。また情報交換をすることも活発に行っています。勉強会や懇親会、精神障がい者のための見学なども行っています。精神障がい者が住みやすい社会の実現に取り組んでいます。
- ・ 2012年7月、高次機能障がい者小金井友の会、いちごえ会創立。理念は地域で障がいとともに、地域の人々とともに、働き、生きる。目的は高次機能障がい者が働く場と暮らす家をつくらう。記念講演“高次機能障がい者の理解と支援～人間らしく生きる権利の回復～を実施し、また、会報を発行。講演会、事者主交流会。茶話会（介護者の情報交換）、相談会。上田敏先生と家族による医療生活相談カフェ、学習会、役員会。他団体との交流（中央大学緑川ゼミ）、TKK 他。
- ・ 聴覚障がいに関する理解を深める手話の啓発。聴覚障がい者団体を支援し活動を支える。
- ・ 身体障がい者の福祉の推進と会員及び家族の親睦を図る。障がい者の安心・安全・快適な暮らしのまちづくり（バリアフリー、ユニバーサルデザインの普及）や福祉推進活動。心身の健康維持、リハビリの為に事業や福祉文化講座の実施。行政、社協並びに上部団体、都身連、日身連等の福祉講座などの行事に参加し、交流、情報を共有し、理解を深め資質の向上に努め、活動に役立たせている。
- ・ 会員との親睦と聴覚障がい者並びに難聴者の生活擁護及び厚生福祉推進を図ることを目的とする。
- ・ 小金井市福祉団体に所属し、公益財団法人東京総合支援機構東京都聴覚障害者連盟に籍をおく。
- ・ 総会、対都・対市の対話集会、研修会での要望を市、都に提出。
- ・ バスハイク、クリスマス会、夏のプール活動等の余暇活動。
- ・ 他団体との交流、協力、広報誌発行。

問2 貴団体において、この3年間（概ね令和2（2020）年以降）、新たに始めた活動や事業はありますか。一方、終了又は休止している活動や事業はありましたか。（いくつでも○）

「終了、又は休止した活動や事業がある」の割合が66.7%と最も高く、次いで「特にない」の割合が20.0%、「新たに始めた活動や事業がある」の割合が13.3%となっています。



問2-1 それぞれの概要や理由について簡潔にご記入ください。

新しく始めた活動や事業

活動・事業の概要	理由
発達性ディスレクシア（読み書き障がい）の中学生に対し、都立高校入学試験に同行し、試験問題（国語、数学、英語）の読み上げによる支援を行った。	小金井市社会福祉協議会から支援協力の打診を受けた。これまで経験のない活動だったため、会員有志による試行とし、担当教師や保護者と連携の上で実施した。
会員相互の連絡、会の行事、他の関連団体等のイベント等の情報をメールにて、会員に一斉送信しています。	デジタル化の社会の動きに対応するため、メールの発信、受信からはじめた。徐々にスキルアップを目指しているが、現実には難しい。会員情報をCD録音により季刊を発送していたが、機器が老朽化し機器の操作ができるスタッフがいなくなり休止中（コロナが原因の1つ）
リアルでなくオンラインに切りかえ、交流会、茶和会	コロナにより医療相談をオンラインで実施した。
月1回宮地楽器ホールのNスペースで活動を行う。（通常は障がい者センター）	－
情報保障の確保（市役所手話通訳）	手話通訳の要請
小金井特別支援学校 PTA 会員との交流	学齢の知り合い、会員を増やしたいため

終了又は休止した活動や事業

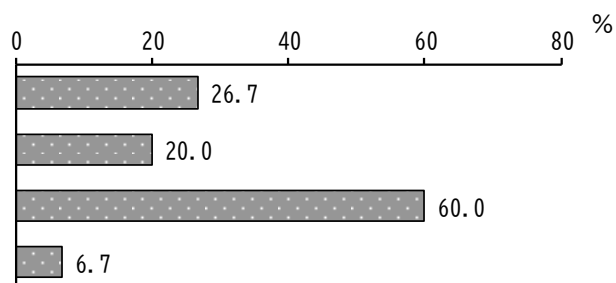
活動・事業の概要	理由
特別養護老人ホーム（2か所）への慰問活動（詩の朗読、紙芝居、歌唱等）を休止している。	コロナウイルス感染防止対策と施設の移転・改築のため。
市民対象の「福祉講座」	その時のニーズに合わせ講師を選定、手話通訳を付け一般市民に理解を深めてもらう活動であったが、コロナの為にこの3年間は中止している。
現在休止	コロナ禍の為
会の動向を CD に収納して会員に発送していたが、現在休止中	－
お花見、クリスマス会→企画、運営	「のびよう会」が行事を終了したため。
顧問のリハビリ専門医による医療相談（縮小）	コロナによりオンライン化したため、直接触れることができず実施が困難となっている。
サークル員や見学者が参加しやすいよう利便性の良い会場を使う試み。	－
リハビリ 研修旅行	新型コロナウイルス症の感染予防のため休止。会の行事は健康第一で安心安全の確保。コロナは感染しない感染させないから状況に応じて休止としていた
企画（講演会や新年会、親睦、忘年会）、手話言語イベント	コロナのため
クリスマス会、バスハイク	コロナ施策の対策のため、クリスマス会は、プレゼント配布にしました。

問3 貴団体において今後3年程度の間で新たに取り組みたい活動や事業、一方、終了又は休止を検討している活動や事業はありますか。（いくつでも○）

「特にない」の割合が60.0%と最も高くなっていますが、「新たに始めたい活動や事業がある」の割合が26.7%、「終了、又は休止予定・せざるを得ない活動や事業がある」の割合が20.0%となっています。

回答者数 = 15

新たに始めたい活動や事業がある
 終了、又は休止予定・せざるを得ない活動や事業がある
 特にない
 無回答



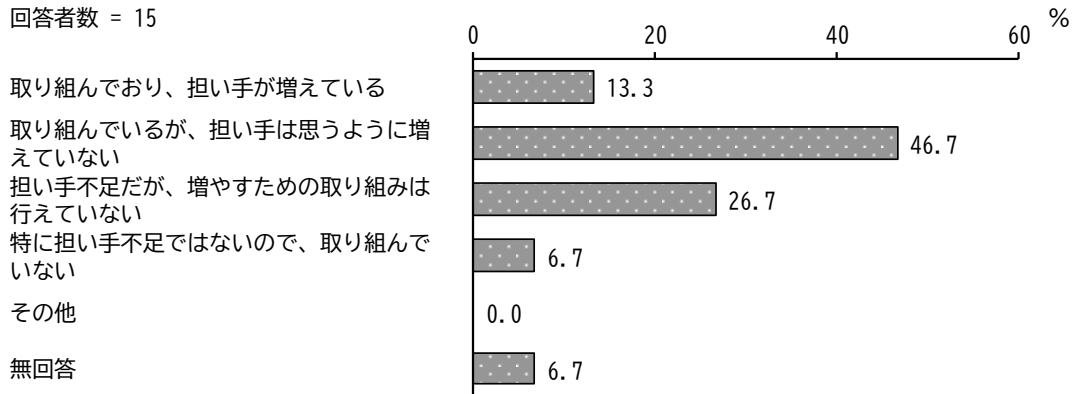
3-1 それぞれの概要や理由、また、活動予定のものについては、必要な支援等があれば簡潔に記入ください。

活動・事業の概要	理由	必要な支援等
点字を読んでくださる方を増やしたい（点字絵本 etc）	小さなお子さんに絵本を読ませたい。	広報等でもっと広めてほしい
小・中学生に向けて手話を理解習得する活動	2025年東京にて、デフリンピックが開催されるので、それまでに手話の普及を図りたい。	市内小中学校向けにPRする機会、方法を支援していただきたい。
会員のスマホ技術の取得	時代の流れ、社会の変化に対応したい。	スマホ、PC等の講習を受けるには都心もしくは遠距離を行かねば視力障害者に教える先生がいない。小金井市内で場所、人材を市の方で準備していただくと助かります。
親睦、手話言語の理解と普及	情報保障体制、受ける権利の保障	手話通訳養成・派遣、行事等の情報取得に関する支援、聴覚・平衡機能障がいに関する支援。
ふれあいコンサート	障がい者はコンサートに行くことが難しいです。小金井でコンサートを行いたいです。	早めの場所の確保
新規会員の、特に60歳未満の人々の入会活動	会員の減少、入会者が激減に対し、会の普及を図りたい。	－
役員の子世代交代を図り一部実施した。	役員同士の高齢化が進んでおり、若い会員が増えない限り不安がある。	－
次期役員（事務局）の若返りを実行する。来年3月を目処に引継ぎをしている。しかし、本部事務局が会長宅（89才）にあり、財政難で新しい本部事務局を設置できない。会長亡きあと、その対応に苦しんでいる。	－	－
参加者やイベントが減っていることへの対策	コロナ禍の影響。メンバーの高齢化。	－
若い会員を増やす取組	障害者週間時に団体紹介ポスターの掲示し、会の概要のチラシを配布した。また、問合せの返答時や福祉講座開催時には各公民館各館や市内掲示板への講座内容掲示に取り組んできたが、加入者は数名で現会員は高齢化している。障害状態の悪化等対応出来ない。若い会員が増えないと会の運営は難しくなっている。	－

問4 貴団体では担い手を増やすための取り組みを行っていますか。(1つに○)

「取り組んでいるが、担い手は思うように増えていない」の割合が46.7%と最も高く、次いで「担い手不足だが、増やすための取り組みは行えていない」の割合が26.7%、「取り組んでおり、担い手が増えている」の割合が13.3%となっています。

回答者数 = 15



問4-1 取り組み内容や、取り組めていない理由又は取り組んでいるができていない理由を簡潔にご記入ください。

全部で7件のご回答をいただきました。以下に掲載します。

取り組んでおり、担い手が増えている：2件

- ・ 問1で記した一般参加可能な音訳講習会と図書館が隔年で開催する初級音訳講習会の参加者に対して、音訳ボランティア活動への理解を促し、入会を勧奨している。これにより、毎年3～4人の新入会者があり、担い手の確保に効果を上げている。
- ・ 通訳者養成に向け、会としても講習会などに協力している。会の中で技術、心構え等の学習会を開いている。

取り組んでいるが、担い手は思うようにできていない：3件

- ・ 会員の高齢化とコロナ。
- ・ 企業の定年延長といった社会の労働環境の変化で運営を担うボランティア候補の年代が少なくなった。
- ・ 対面での対応。

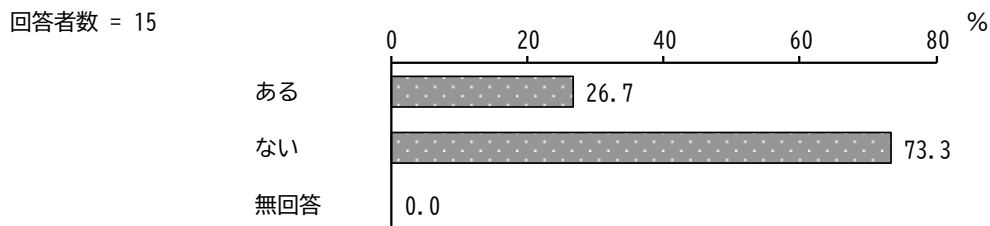
担い手不足だが、増やすための取り組みはできていない：2件

- ・ 家族会のようなグループに入会する人が少ない。
- ・ 先日の宮地ホールでのボランティア紹介の後、一件の電話もありませんでした。パンフレット、チラシを10枚程持っていかれた方はありました。

2 障がい者の権利擁護について

問5 平成28(2016)年4月1日に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」が施行され、平成30(2018)年10月1日に「障害のある人もない人も共に学び共に生きる社会を目指す小金井市条例(小金井市差別解消条例)」が施行されましたが、貴団体では会員やメンバー等から差別に関する相談を受けましたことがありますか。(1つに○)

「ある」の割合が26.7%、「ない」の割合が73.3%となっています。



(1) 悪いと思われた対応

○「聴覚・平衡機能障がい」「知的障がい」「高次脳機能障がい」に関する意見がありました。
悪いと思われた対応の主な内容は以下となります。

対応の内容	種別	分野
返信ない。	聴覚・平衡機能障がい	情報・通信
保育園探しの時に対応が納得できなかった	知的障がい	子育て
進級の際の学級の対応が不平等に感じた	知的障がい	学校・教育

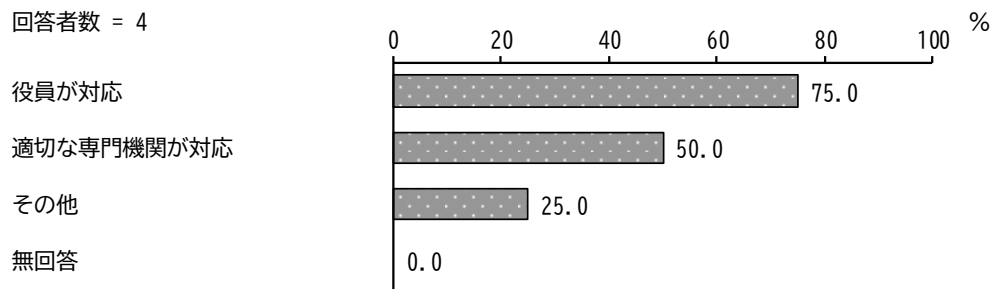
(2) 良いと思われた対応

良いと思われた対応の主な内容は以下となります。

対応の内容	種別	分野
就労(大手病院)障害者雇用で、自分の障害をパンフで説明、理解を求めた。(数年後)	高次脳機能障がい	労働・雇用
返信を必ずいただくようになった。	聴覚・平衡機能障がい	情報・通信

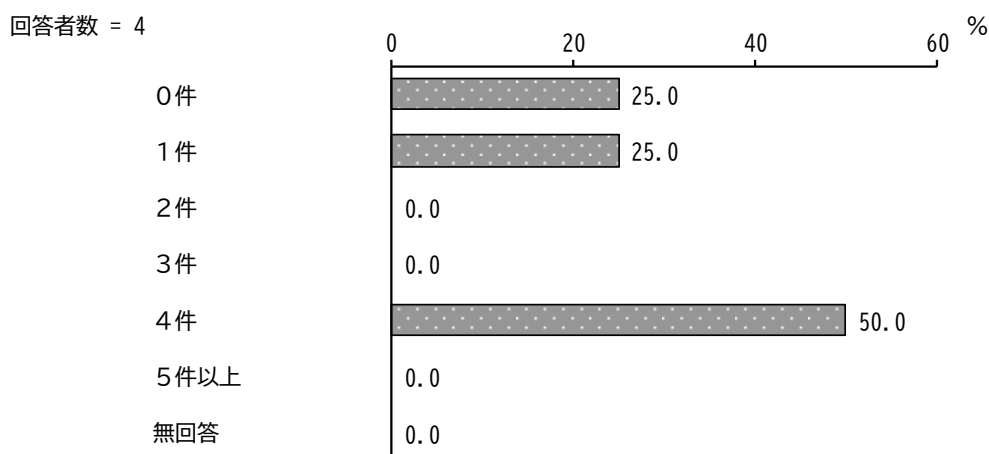
問5-1 差別に関する相談に関してどのように対応していますか。(いくつでも○)

「役員が対応」が3件、「適切な専門機関が対応」が2件となっています。



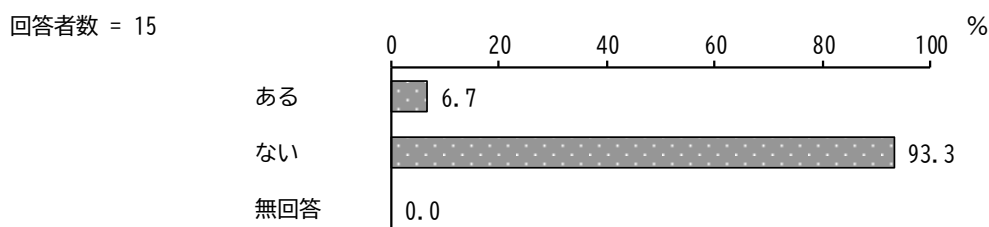
問5-2 この3年間（令和2（2020）年1月～令和4（2022）年12月）の差別に関する相談は何件（実件数）ありましたか。（数値で記入）

「4件」が2件で50.0%、「0件」、「1件」がそれぞれ1件で25.0%となっています。



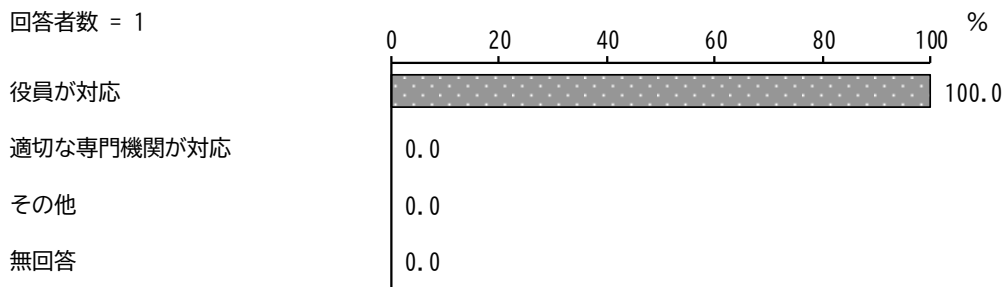
問6 貴団体では会員やメンバー等から虐待に関する相談を受けたことがありますか。（1つに○）

「ある」の割合が6.7%、「ない」の割合が93.3%となっています。



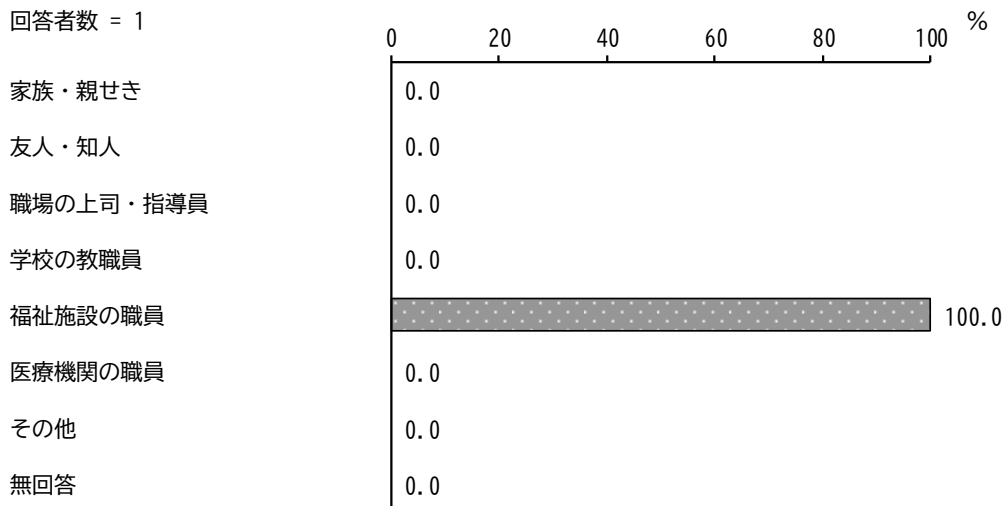
問6-1 虐待に関する相談に関してどのように対応していますか。(いくつでも○)

「役員が対応」が1件となっています。



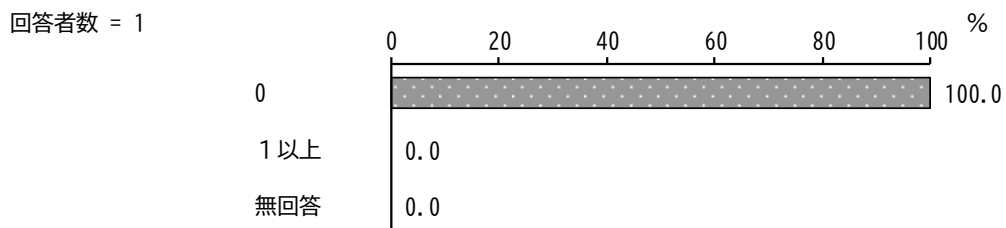
問6-2 相談は誰からの虐待でしたか。(いくつでも○)

「福祉施設の職員」が1件となっています。



問6-3 この3年間（令和2（2020）年1月～令和4（2022）年12月）の虐待に関する相談は何件（実件数）ありましたか。（数値で記入）

「0」が1件となっており、この3年間ではありませんでした。

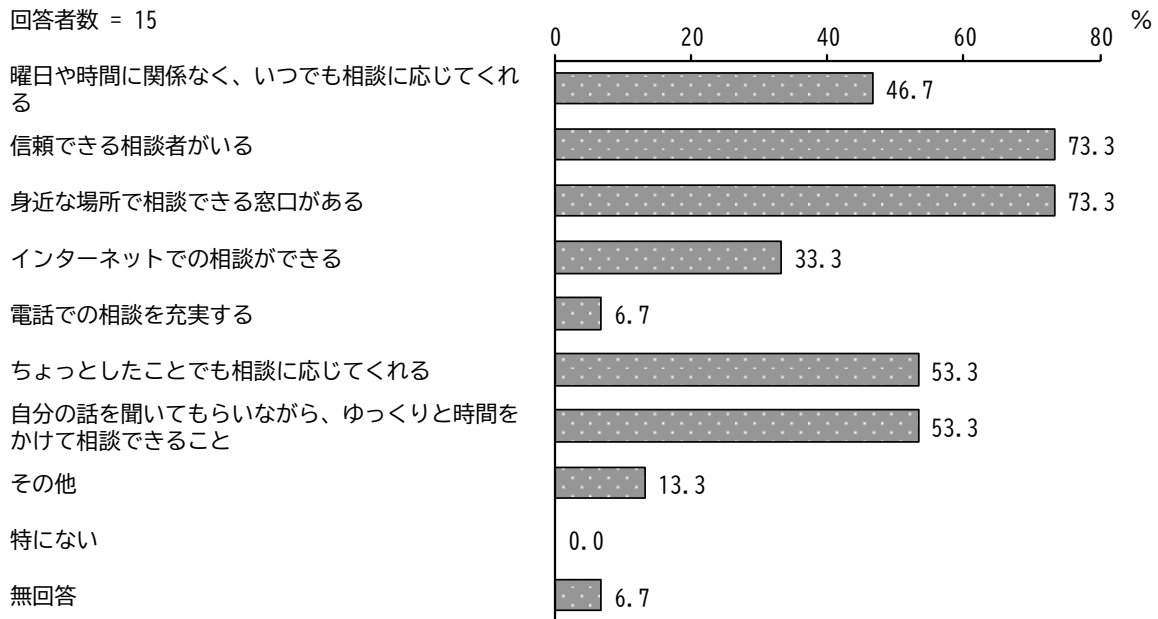


3 障がい者福祉施策について

問7 障がいのある方が相談しやすい体制をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも○)

「信頼できる相談者がいる」、「身近な場所で相談できる窓口がある」の割合が73.3%と最も高く、次いで「ちょっとしたことでも相談に応じてくれる」、「自分の話を聞いてもらいながら、ゆっくりと時間をかけて相談できること」の割合が53.3%となっています。

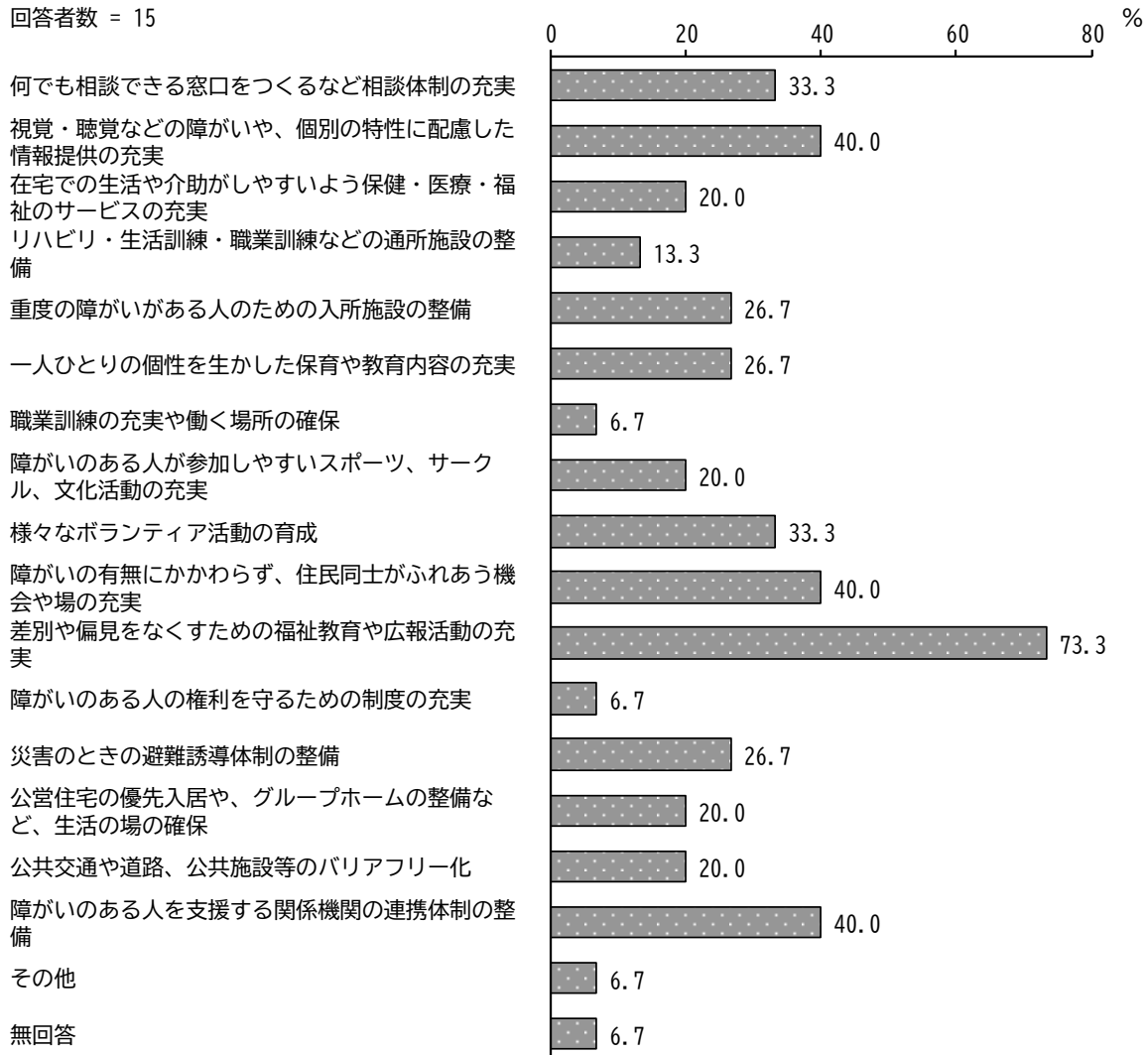
回答者数 = 15



問8 障がいのある人にとって暮らしよいまちづくりのためには、どのようなことが必要だと考えますか。(5つまで○)

「差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動の充実」の割合が73.3%と最も高く、次いで「視覚・聴覚などの障がいや、個別の特性に配慮した情報提供の充実」、「障がいの有無にかかわらず、住民同士がふれあう機会や場の充実」、「障がいのある人を支援する関係機関の連携体制の整備」の割合が40.0%となっています。

回答者数 = 15



問9 小金井市の障がい者を取り巻く環境や障がい者福祉の取り組みに関するご意見・ご提案がありましたらご記入ください。

全部で14件のご回答をいただきました。以下に掲載します。

- ・ 当会の活動は「小金井市視力障がい者の会」と共に歩んできた経緯があり、「障がい者の会」の会員、家族、知人友人を通じて、当会のサービスを知るケースが多い。そのため、「障がい者の会」とつながりのない視覚障がい者（特に若者）の中には、当会の活動、音訳サービスの情報が十分に行きわたっていないと思われる。青年層の視覚障がい者は、パソコン、スマホなどの機器によって、必要な情報を得ているかもしれないが、当会の情報提供サービスも合わせて活用してもらえれば、より充実すると考える。これから増加する後期高齢者にも、音訳サービスが有効になると思う。市の福祉の取組として障がい者、高齢者に対するボランティアグループの周知、広報を、これまで以上に拡充していただきたい。
- ・ 障がいのある子ども、成人へのサービス全般において不足していることが多々ある。子どもの放課後等デイサービスでの相談や、成人の通所事業所、グループホームなどでの生活援助や緊急の受け入れ体制など。日常生活に直接かかわることが足りないと感じる。
- ・ バリアフリー、障がい者家族へのケア。
- ・ 東京都が「手話言語条例」を施行しました。市に於いても、市独自の言語条例制定に向けて活動していますが、遅々として進んでいません。「手話」はきこえない人にとっては言語であり、大切なものです。差別云々ではなく基本として必要な手段であります。いろいろな障がいに合わせて福祉計画をまとめていくのは多々困難があると思いますが一般的に見て役所関係の人々は聴覚障がいに対する理解が「まだまだ」だと思います。技術の進歩により通訳も新たな手段が広まっています。しかし人間として、生のリアリティーあふれるコミュニケーションのやりとりは不可欠だと思います。聴覚障がいについて学習を深め、理解し、より良い日々の仕事や福祉計画を策定してほしいと思います。
- ・ 一般的に高齢になると、特にIT関連の操作の習得が難しくなります。特に視力障がい者はなお一層困難を感じています。視力障がい者のパソコン教室は都心にあり、通学に不便です。また、現在の同行援護では通学は認めてもらっていません。是非とも、小金井市内での教室の開設、もしくは同行援護での通学も時間数の増加で対応願いたい。例えば日本点字図書館（高田馬場に所在）でパソコンに特化して通学を申し込みましたが、小金井市の方で許可が下りず断念した経緯があります。その際日本点字図書館で面接の上、1年間（週2～3回）の通学を許可された経緯があります。
- ・ 精神障がい者が地域で安心して生活するためには総合的な支援体制が必要です。そのためには「にも包括」の充実及び現在厚生労働省が勧めている重層的支援体制整備事業の実現に向け積極的に取り組む必要があります。
- ・ 精神障がい者は収入源が限られているため生活基盤が脆弱です。また福祉サービスは他の障がい者と比べて格差があり、生活面や医療面を切りつめ健康を害することもあります。東京都が実施を決めるまでの間の「経過措置として、精神障がい者に対して小金井独自の福祉手当を支給して下さい。
- ・ 福祉就労の工賃があまりに低く、働く意欲を削いでいます。工賃を引き上げてください。
- ・ 家族会の高齢化がすすむ一方、障がい者を持つ家族が少なからず家族会に入っていません。家族会はその方たちに連絡を取ることが難しく、さらなる市の紹介が必要ですのでよろしく願いいたします。
- ・ 見えない障害への理解（市役所、市民への啓蒙）。情報を確保しやすい社会、通訳養成を市も考えてほしい。聴覚障害団体が手話言語条例をつくり、それを市が支援、誰ひとり取り残されない社会をつくること。障害者週間だけでなく、障害者も誰でも参加し、共に歩み寄る行事を作る。

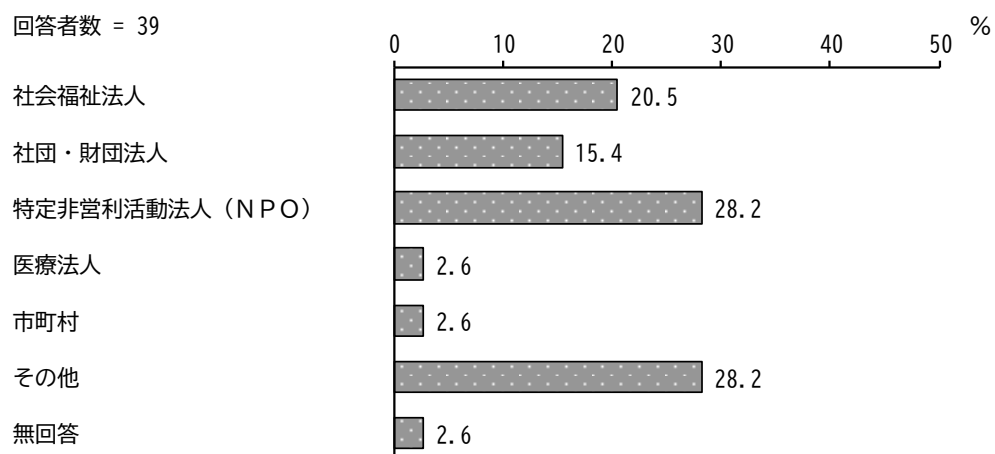
- 社協、地域福祉フェシリテーター養成講座に参加卒業生が市内でボランティア活動していることを知りました。行政では出来ない血の流れた交流がありました。小さなボランティア活動を評価し、連合体をつくって毛細血管的社会資源に育成して下さい。高次機能障害者は中途障害、外から見えにくい障害ですが、発症前の能力、スキルは残っています。高次機能障害に特化した働く場で残っている能力を活かして働くことは出来ます。調理人、音楽家、デザイナーなど。高次機能障害者への理解を求めます。市内の福祉事業所、団体等の連合体を結成。市が外部へ発注する仕事をその連合体でシンアン働く機会の拡大、作業所、団体を育成して下さい。出来ると思います。「障害のある人もない人も共に学び生きる社会を目指す小金井市条例」を見えるように具体化しませんか。本気で運用しましょう。行政だけでなく市民もいっしょに。
- 何かを決める時は必ず当事者に入ってもらおうか、当事者の声を聞くようにしてほしい。役所の担当者が変わるとゼロクリアになってしまうことがあるのできちんと引きつぎしてほしい。
- まちで障害者の外出姿を見る事がとても少ない（コロナの影響だけではないと思うが）バリアフリーの問題か？・地域に障害者や高令者が集う休む場所がない（本町1丁目）。障害者や高令者は外出時に身体的負担があり困難を伴うため外出を控えがちである。買い物、行事等の参加、（社会等が）散歩等身体への援助、支え付き添いタクシー乗降時の援助少の支えで外出が可能になる。研修旅行時、バス（大型、中型、リフト付）の駐車場がない。非常に不便で困っている。活動場所が障害者センター、まちの北の為不便な人もいる。中央に一箇所あると助かるのだがいずれかに実現してほしい。
- 障害者を支援する事業所の不足が進んでいます。特に生活介護、グループホームは深刻な状況です。場所が確保できない、土地の購入費用が高い、賃料が高い、障害者の保護者が多額の費用を負担する等々、困難が山積のところ、一つ一つ前に進む都力を、市には期待しています。

Ⅲ－3 事業所

1 事業所について

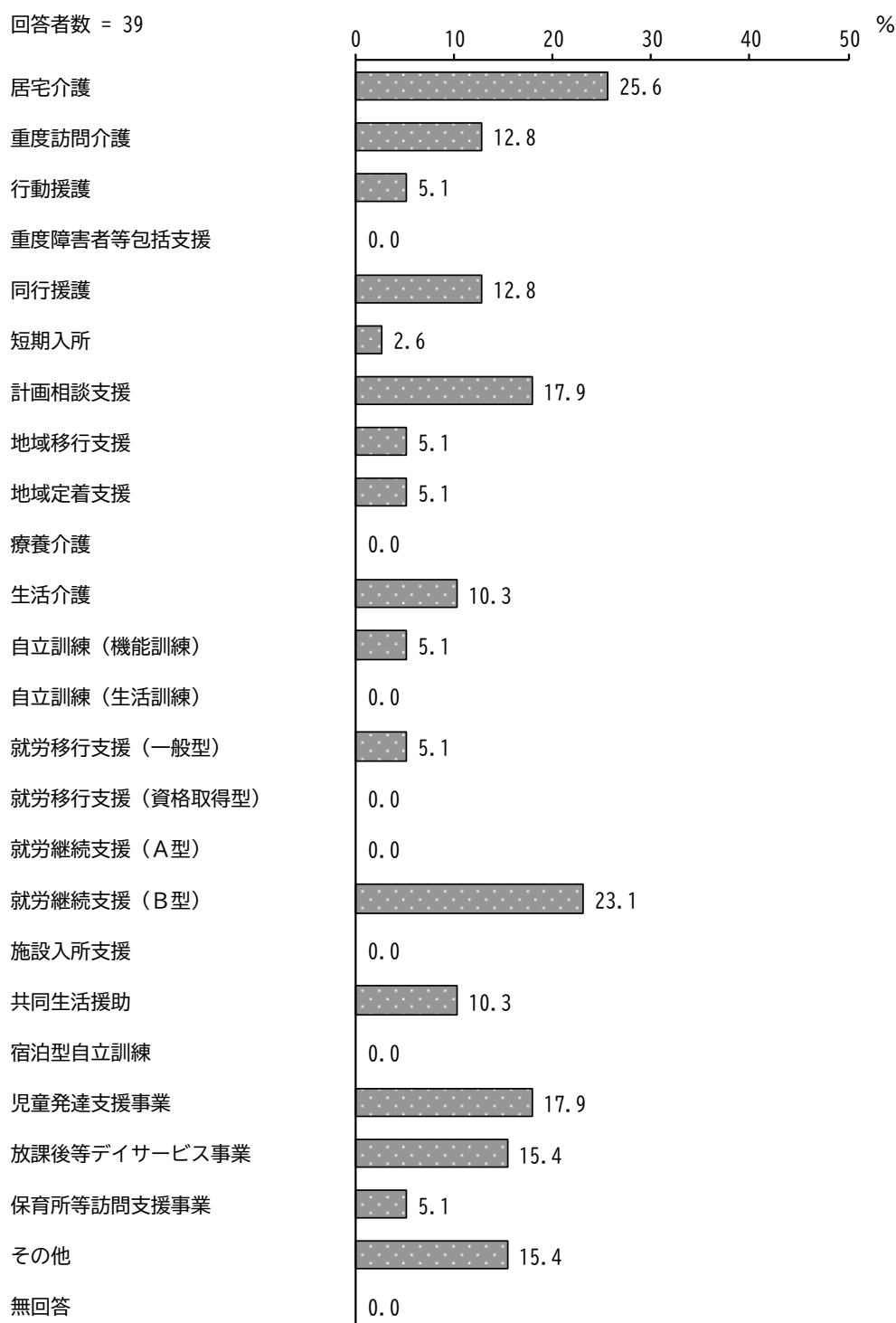
問1 貴事業所の運営主体は次のどれですか。(1つに○)

「特定非営利活動法人（NPO）」の割合が 28.2%と最も高く、次いで「社会福祉法人」の割合が 20.5%、「社団・財団法人」の割合が 15.4%となっています。



問2 貴事業所で実施している障がい福祉サービスは次のどれですか。(いくつでも○)

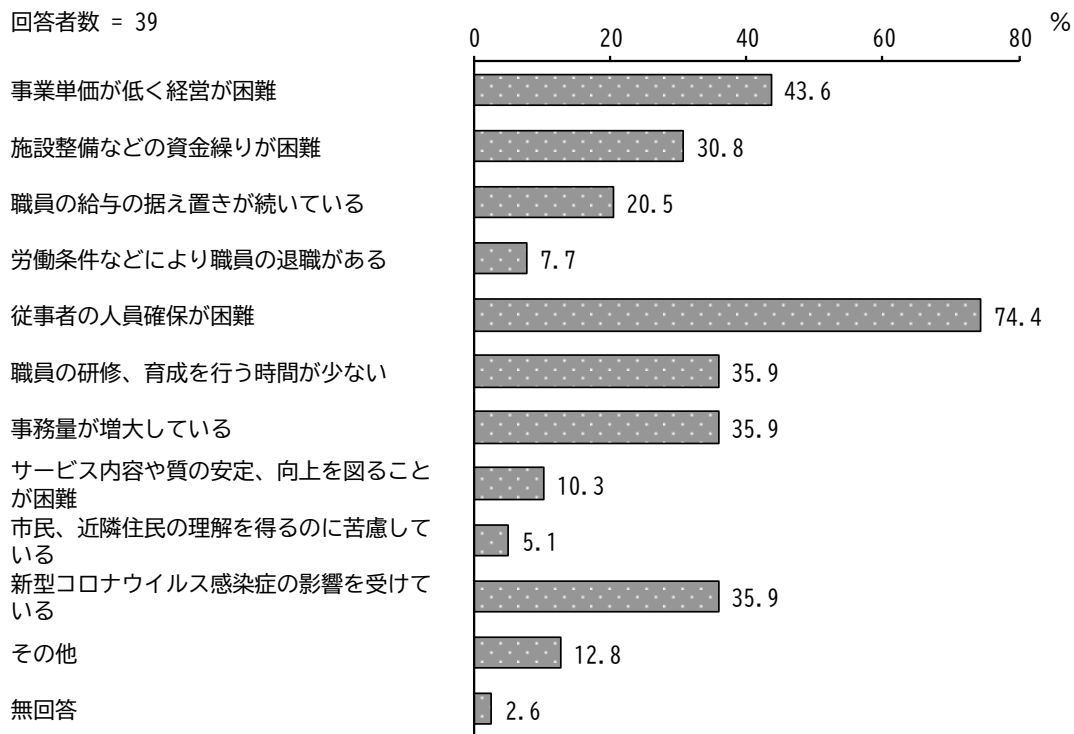
「居宅介護」の割合が 25.6%と最も高く、次いで「就労継続支援（B型）」の割合が 23.1%、「計画相談支援」、「児童発達支援事業」の割合が 17.9%となっています。



2 運営やサービス提供について

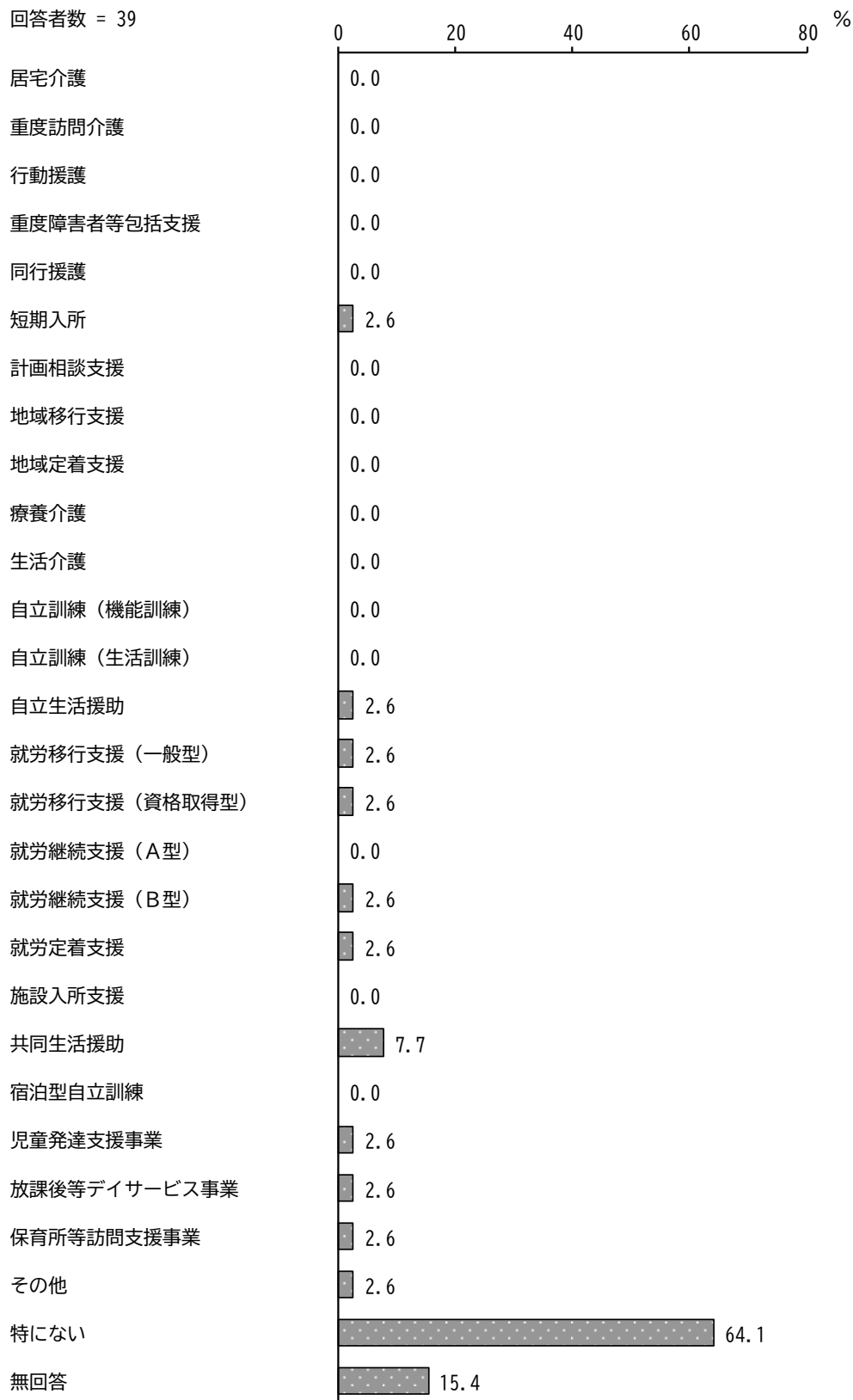
問3 貴施設・事業所の経営状況はどのような状況ですか。(いくつでも○)

「従事者の人員確保が困難」の割合が74.4%と最も高く、次いで「事業単価が低く経営が困難」の割合が43.6%、「職員の研修、育成を行う時間が少ない」、「事務量が増大している」の割合が35.9%となっています。



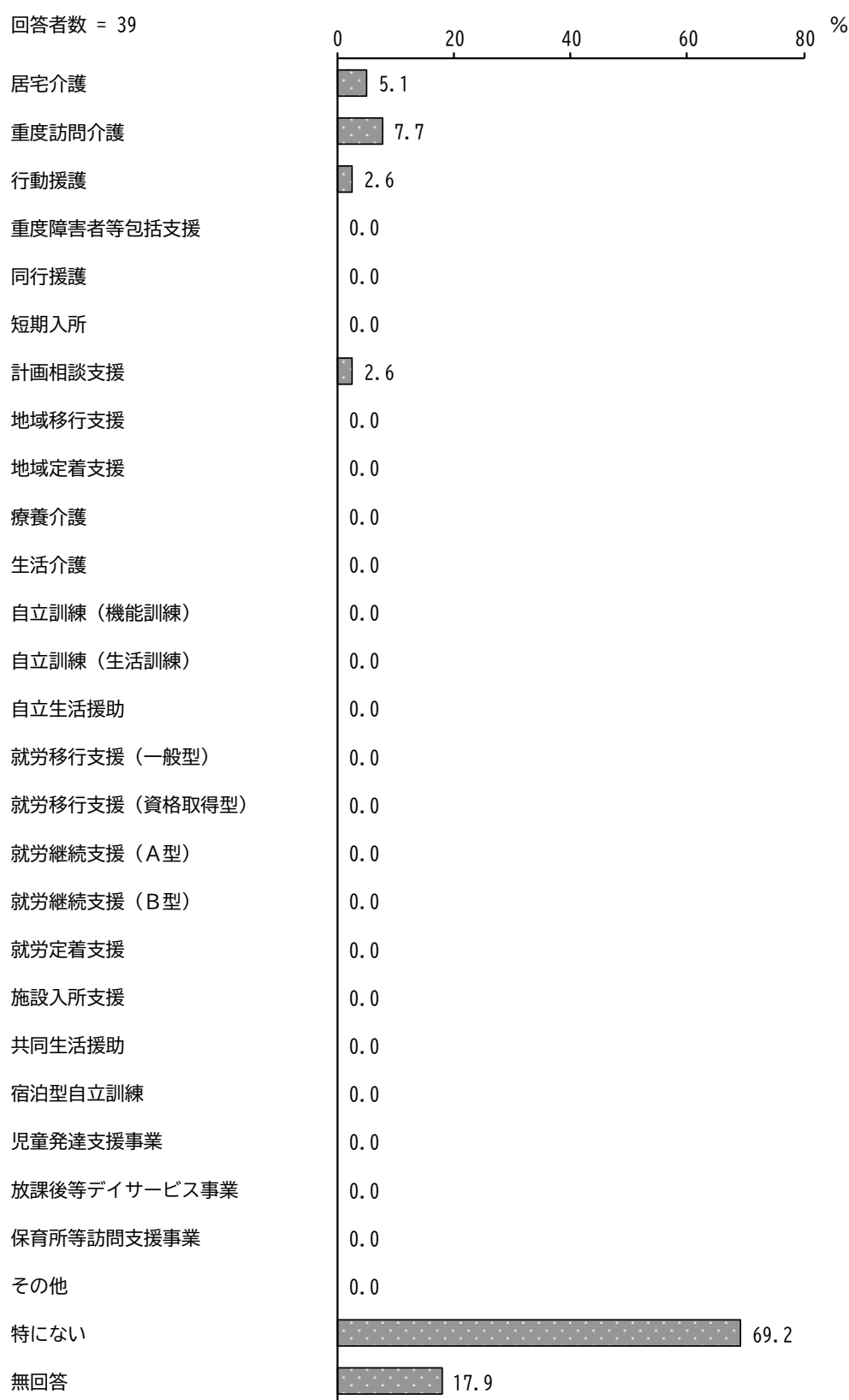
問4 貴事業所において、今後3年程度の間で新たな事業を検討している障害福祉サービスはありますか。(いくつでも○)

「特にない」の割合が64.1%と最も高くなっています。



問5 貴事業所において、今後3年程度の間で休止を検討している障害福祉サービスはありますか。(いくつでも○)

「特にない」の割合が69.2%と最も高くなっています。



問5-1 また、休止を検討している理由を簡潔にご記入ください。

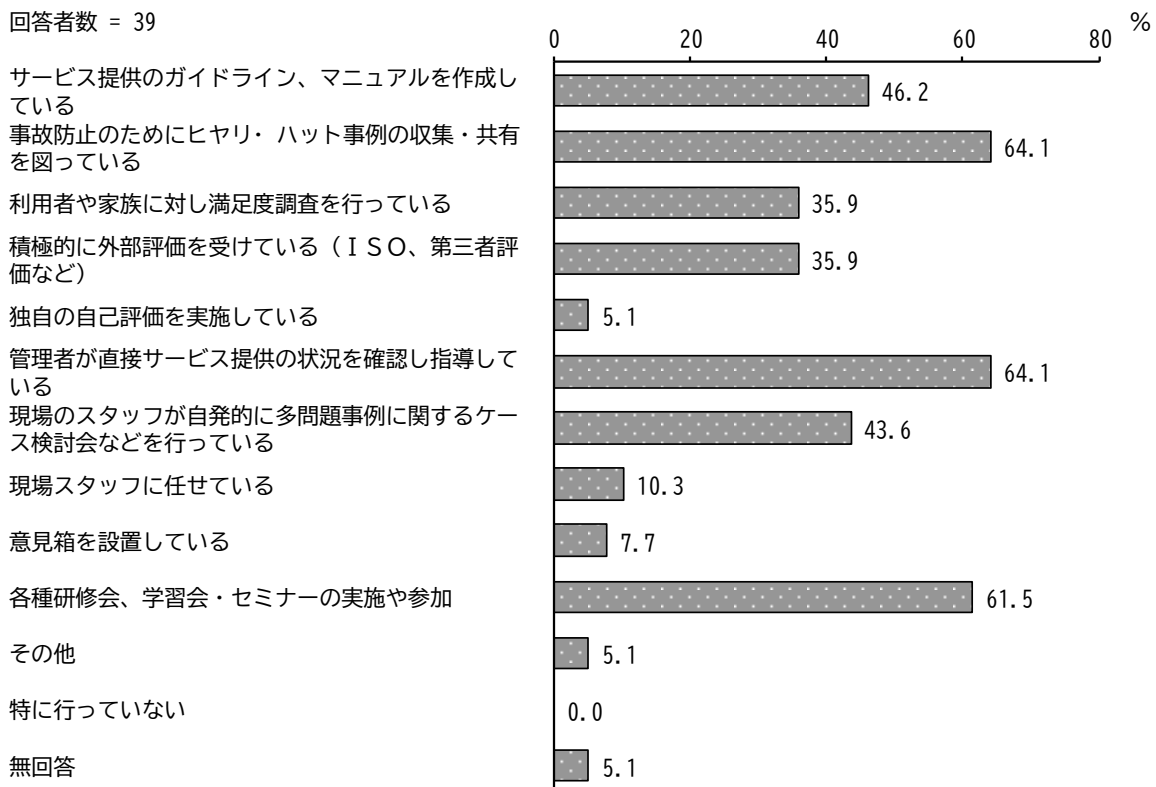
全部で4件のご回答をいただきました。以下に掲載します。

- ・ 職員の高齢化と不足
- ・ 重度訪問介護に対応できる訪問介護員が居ない
- ・ 利用者が極端に少ないのに事務作業量は変わらないため人件費をいびつにしている
- ・ ヘルパーの高齢化と新しい人材不足の為

問6 貴事業所ではサービスの質の向上のために、どのような取り組みを行っていますか。(いくつでも○)

「事故防止のためにヒヤリ・ハット事例の収集・共有を図っている」、「管理者が直接サービス提供の状況を確認し指導している」の割合が64.1%と最も高く、次いで「各種研修会、学習会・セミナーの実施や参加」の割合が61.5%となっています。

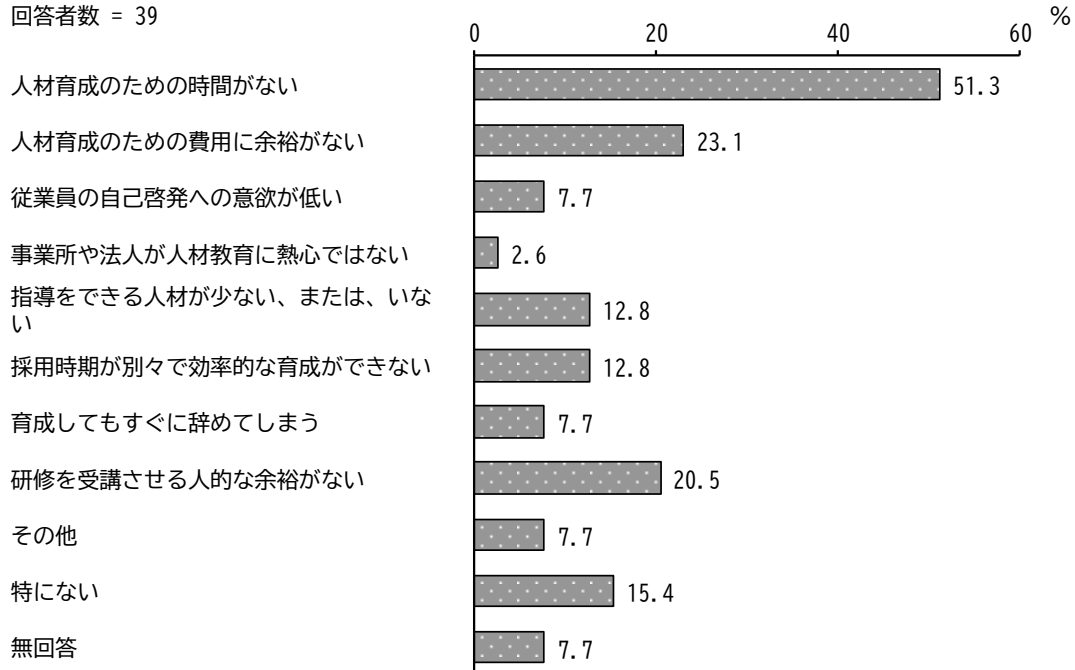
回答者数 = 39



問7 スタッフの研修・教育等に関して困っていることは何ですか。(いくつでも○)

「人材育成のための時間がない」の割合が51.3%と最も高く、次いで「人材育成のための費用に余裕がない」の割合が23.1%、「研修を受講させる人的な余裕がない」の割合が20.5%となっています。

回答者数 = 39

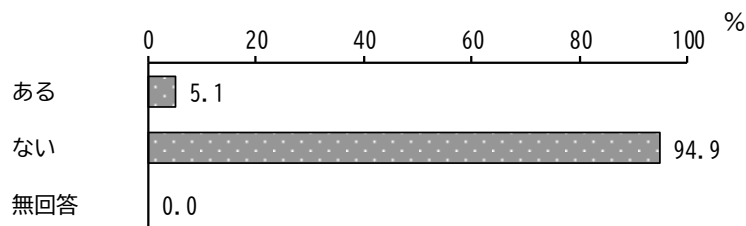


3 権利擁護・相談支援について

問8 平成28(2016)年4月1日に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」が施行され、平成30(2018)年10月1日に「障害のある人もない人も共に学び共に生きる社会を目指す小金井市条例(小金井市差別解消条例)」が施行されましたが、貴事業所では利用者等から差別に関する相談を受けたことがありますか。

「ある」の割合が5.1%、「ない」の割合が94.9%となっています。

回答者数 = 39



(1) 悪いと思われた対応

悪いと思われた対応の内容は以下となります。

対応の内容	種別	分野
保育園の入園について：肢体不自由の子に対して4月までに歩けるように、話せるようになっていないと入園は出来ないと言われたとのこと。会うこともなく電話で断られる。上記の件を数園の園に言われた。	肢体不自由	子育て
直近3年間において悪いと思われた対応については、差し当たって思い当たる節もなく、記憶に彼方で消えてしまっているケースもあるかもしれません。ただし、3年以上も前であれば、明らかなる障がい者虐待と思われるケースが市内の事業所であったことは確かではあります。現在は連携していない事業者となるので現状は把握していません。	その他	福祉

(2) 良いと思われた対応

良いと思われた対応の内容は以下となります。

対応の内容	種別	分野
強迫神経症の30代女性が、住居入居等支援事業を活用してアパート契約へとたどり着いた。入居前に自費でハウスクリーニングに年会し不動産会社へ依頼していたが、本人の納得いく内容ではなかったこと、中々領収書が渡されなかったことに家族と本人が憤慨して、障がい者だと思って甘く見られた、本当はハウスクリーニングはしていないのではないかと強いクレームへと発展した。センターが取り持つ形で解約手続きを進めた結果、仲介手数料と鍵交換費用以外の敷金、礼金、保証会社費、初月の家賃、ハウスクリーニング費用の全額を返還することで和解となっている。当該不動産会社とは普段から親密な連携関係を築いていたこともあって、クレーム対応にも柔軟に対応していただけたことで事なきを得ている。	精神障がい	金融・不動産(住宅)
卒所生からの報告ですが、小学校入学に医療的ケアが必要だが小金井市が訪問看護の手配をしてくれ普通学級に行けることになったと喜ばれていた。	その他	学校・教育

問8で「ある」と回答した方に伺います。

問8-1 差別に関する相談に関してどのように対応していますか。(いくつでも○)

回答があった2件とも「スタッフが対応」となっています。

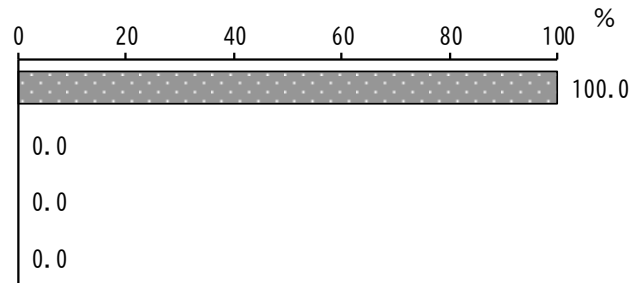
回答者数 = 2

スタッフが対応

適切な専門機関が対応

その他

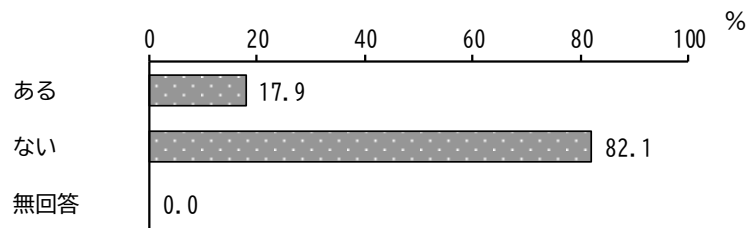
無回答



問9 貴事業所では利用者等から虐待に関する相談を受けたことがありますか。(1つに○)

「ある」の割合が17.9%、「ない」の割合が82.1%となっています。

回答者数 = 39

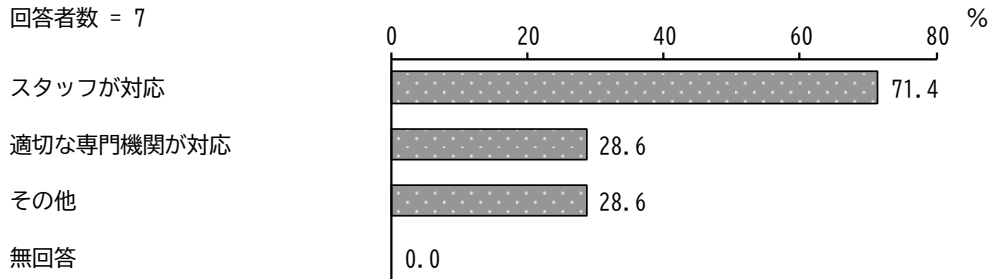


問9で「ある」と回答した方に伺います。

問9-1 虐待に関する相談に関してどのように対応していますか。(いくつでも○)

「スタッフが対応」が5件、「適切な専門機関が対応」が2件となっています。

回答者数 = 7

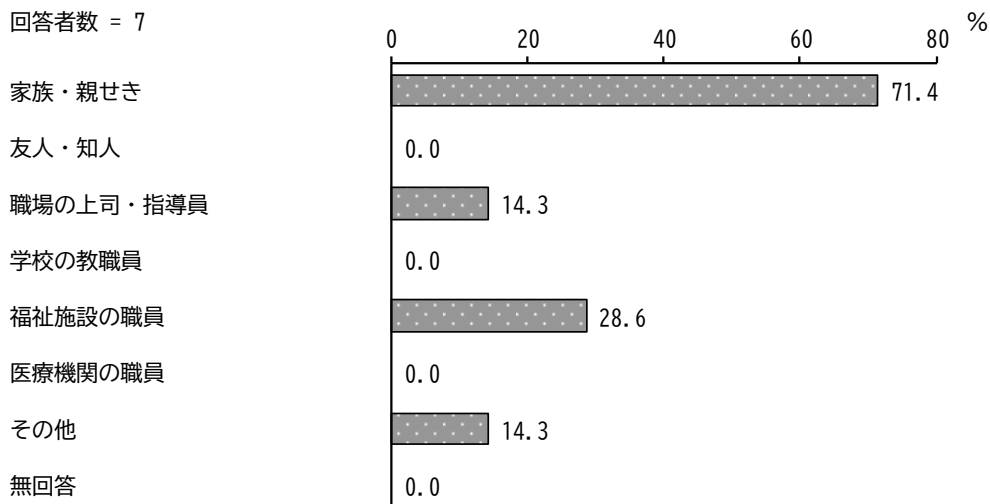


問9で「ある」と回答した方に伺います。

問9-2 相談は誰からの虐待でしたか。(いくつでも○)

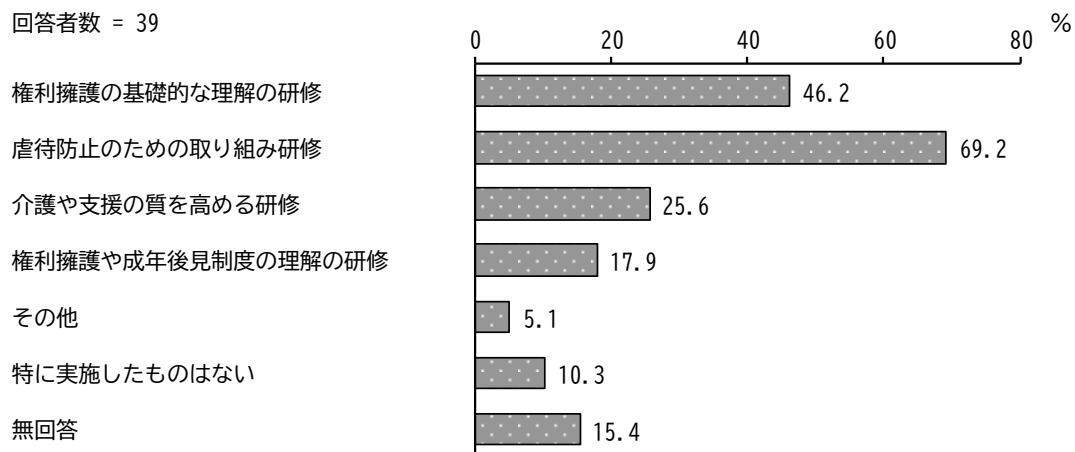
「家族・親せき」が5件となっています。「福祉施設の職員」が2件、「職場の上司・指導員」が1件となっています。

回答者数 = 7



問 10 職員に対する権利擁護支援に関する研修として、貴事業所でこれまでに実施したものがありますか。外部の研修の受講なども含めてください。(いくつでも○)

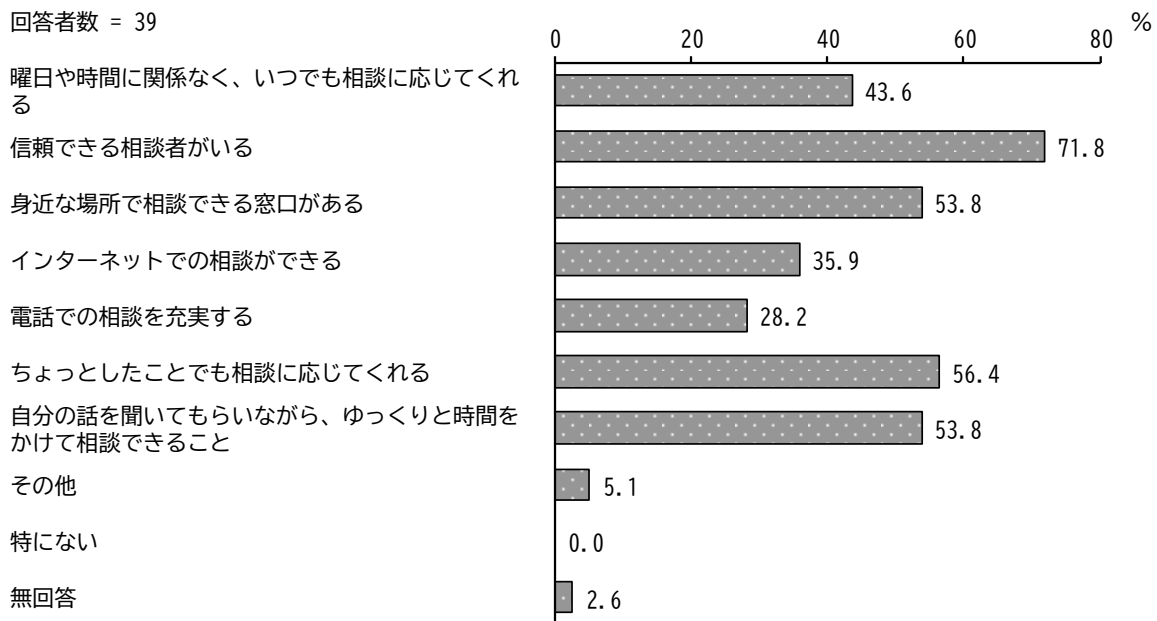
「虐待防止のための取り組み研修」の割合が 69.2%と最も高く、次いで「権利擁護の基礎的な理解の研修」の割合が 46.2%、「介護や支援の質を高める研修」の割合が 25.6%となっています。



4 障がい者福祉施策について

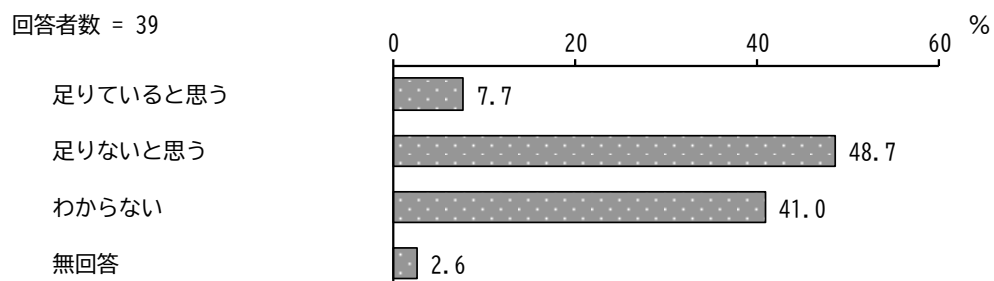
問 11 障がいのある方が相談しやすい体制をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも○)

「信頼できる相談者がいる」の割合が 71.8%と最も高く、次いで「ちょっとしたことでも相談に応じてくれる」の割合が 56.4%、「身近な場所で相談できる窓口がある」、「自分の話を聞いてもらいながら、ゆっくりと時間をかけて相談できること」の割合が 53.8%となっています。



問 12 小金井市で障がいのある人が生活するうえで、障害者総合支援法や児童福祉法によるサービスは足りていると思いますか。(1つに○)

「足りないと思う」の割合が 48.7%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 41.0%となっています。



問 12 で「足りないと思う」と回答した方に伺います。

問 12-1 具体的にどのサービスが不足しているか理由や背景等を含めてご記入ください。

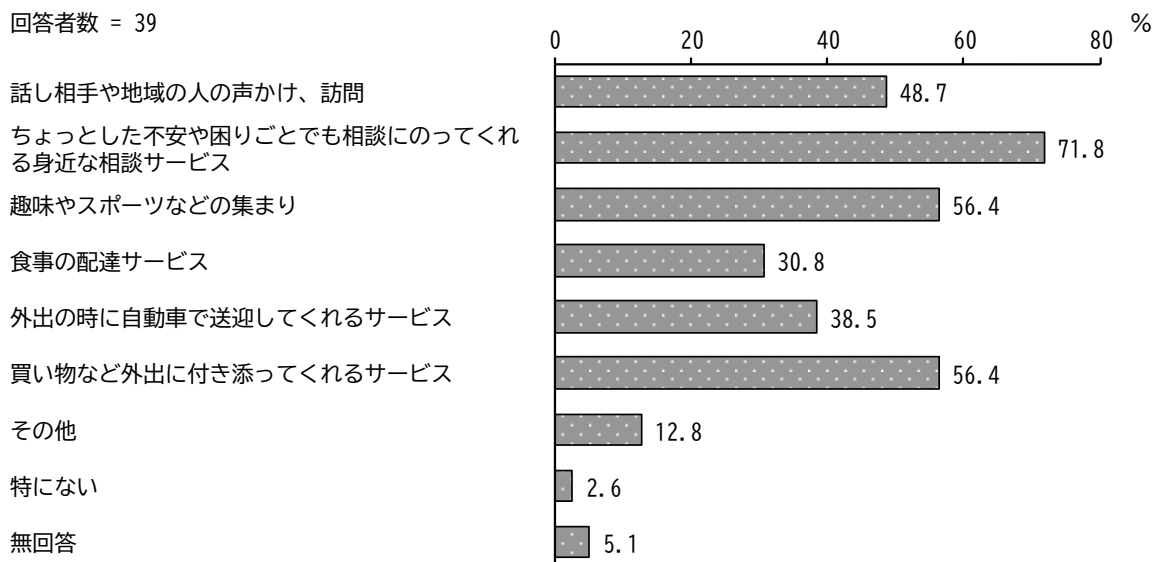
全部で 14 件のご回答をいただきました。以下に掲載します。

- ・ 通学・通園の移動支援を認めてほしい。兄弟共に障害のある子ども（就学前）の支援内容を増やしてほしい。ワンオペでは対応できない。
- ・ 児童発達支援なので保育園や幼稚園への相談が多く聞かれます。受け入れ拒否や受け入れても時間や日数が制限されることも多くあります。体制整備をしていただき、障がいがあっても受け入れられる間口の広い質の高い保育園や幼稚園が多くあるといいと思います。他の市では市も一緒に動いてくれていることが多いようです。
- ・ グループホーム（日中支援型）があるといい、それと送迎も可能な B 型支援作業所もあると市外の施設を検討する必要が少なくなると思う。
- ・ 生活介護、グループホーム、緊急一時保護
- ・ 放課後等デイサービス利用の問い合わせが多いため
- ・ 生活介護、身体障害、医療ケア対応の共同生活援助
- ・ フォーマルなサービスとインフォーマルなサービスの連携
- ・ 相談支援…どこも新規受け入れが難しいほど忙しいが報酬単価が安く赤字経営になりやすいため、参入者が少ない。グループホーム…重度精神障害の受け皿がない
- ・ 自立生活援助など、サービスを利用していない方への支援、24h 相談や緊急時対応、法内事業もプラスアルファのサービスが出来ない、評価されない
- ・ サービスを希望しても使えない現状はは小金井市に限らず他市でも同じようなことが言えると思います。事業所の人員不足、資金不足は否めないと思います。逆に行政のほうで提供しているのに、知らない場合も多いのではないかと感じます。
- ・ 訪問介護が不足していると感じた。自事業を含め、ヘルパー支援を希望している障害の方が何カ月も待たされているという話も聞いた。
- ・ 親亡き後等、本人が住む場所が不足している。
- ・ 障害児通所支援（児童発達支援、放課後等デイサービス）、定員数により受けられない方がたくさんいる。特に放課後デイは単価が低いわりに小学 1 年～高 3 年までと年数も長いいため、今の報酬制度では運営も困難だと思う。
- ・ 放課後等デイサービスのご要望が来た。保育所等訪問支援の要望がある。

問13 障がいのある人がその人らしく地域で生活するために、障害者総合支援法や児童福祉法によるサービス以外で特に必要と思われる支援はありますか。(いくつでも○)

「ちょっとした不安や困りごとでも相談にのってくれる身近な相談サービス」の割合が71.8%と最も高く、次いで「趣味やスポーツなどの集まり」、「買い物など外出に付き添ってくれるサービス」の割合が56.4%となっています。

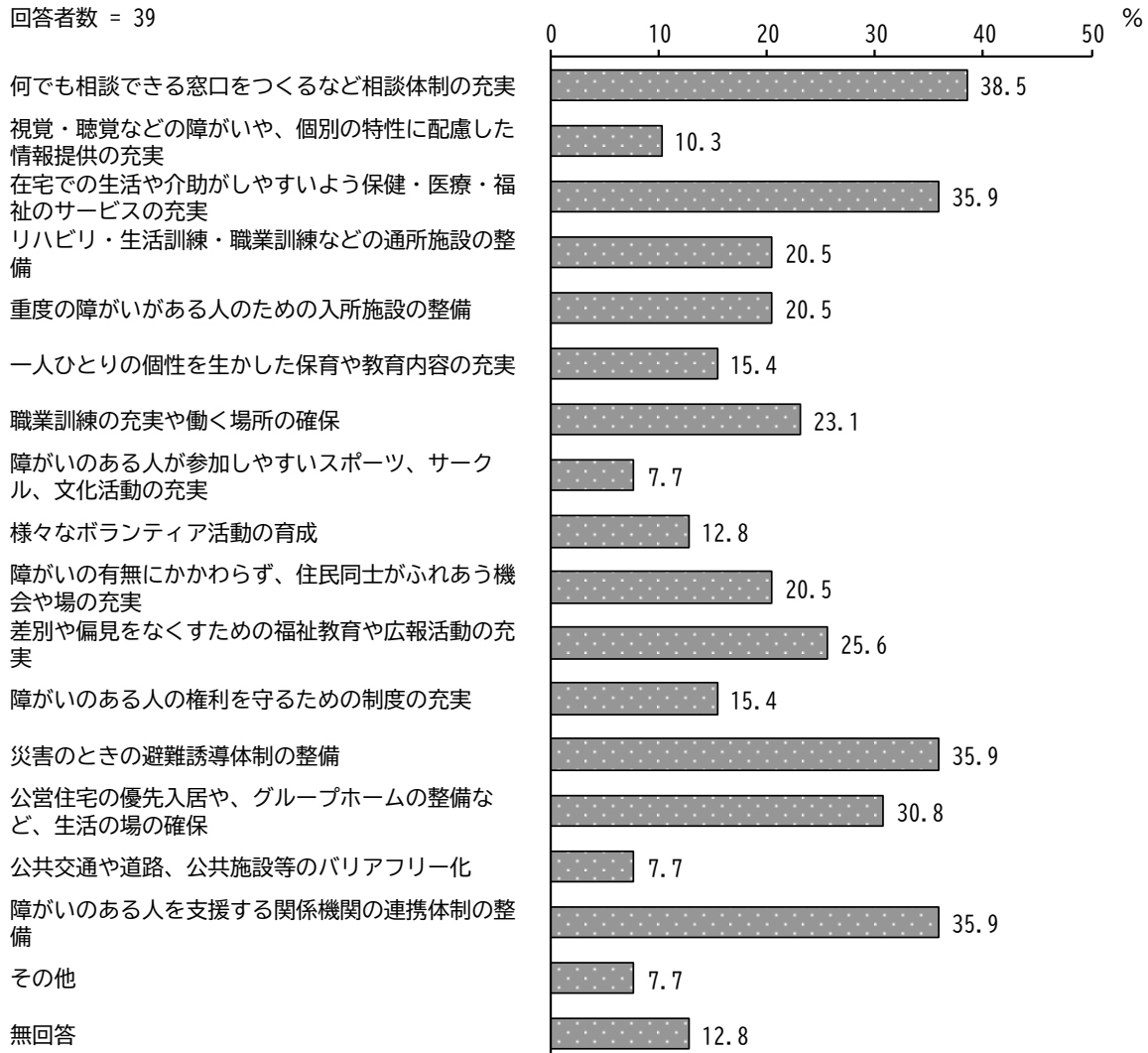
回答者数 = 39



問 14 障がいのある人にとって暮らしよいまちづくりのためには、どのようなことが必要だと考えますか。(5つまで○)

「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」の割合が 38.5%と最も高く、次いで「在宅での生活や介助がしやすいよう保健・医療・福祉のサービスの充実」、「災害のときの避難誘導體制の整備」、「障がいのある人を支援する関係機関の連携体制の整備」の割合が 35.9%となっています。

回答者数 = 39



問15 小金井の障がい者を取り巻く環境や障がい者福祉の取り組みに関するご意見・ご提案がありましたらご記入ください。

全部で13件のご回答をいただきました。以下に掲載します。

意識啓発：1件

- ・ 障がいのある人への理解を高められるような取り組みをお願いしたいです。

サービスの充実・関係機関の連携：8件

- ・ 障がい者の外出時の支援（ガイドヘルパーの充実、車での送迎など）
- ・ 自立支援協議会との連携が上手にできている感じを実感できません。又、基幹の計画相談センターが幅広く対応できている感じが無いのが残念です。
- ・ 小学校入学初日から支援ができる体制（例えば児童発達支援で入学1か月間に限り付き添いや直接支援ができるなど）については、保育所等訪問支援の利用希望が通るまでに様々な手順があり、受給者証の更新が児発→放デイはあっても児発→即保訪などにつながらず支援が途切れてしまう。環境の変化が一番大きいタイミングで支援が途切れない仕組み作りが求められていると思う。児発の関係機関連携などが月2回3ヶ月ほど使えると、お子さんもご家族も安心できると思います。
- ・ 本人の希望から何が必要なのかを考える支援者の会議。
- ・ 災害時の対応などを市と話がしたい。また事業等の説明も計画相談だけでなく他事業についてもお願いしたい。
- ・ 問14の⑩は、サービスを提供し、利用する方々、ご家族と接する機会が多い現場としては、大切だと感じています。あるサービスを使うことで生活が成立するケースもあれば、いくつものサービスを組み合わせる必要があるケース、当人や家族のプランニングだけではカバーしきれない状況など様々な中、関係機関も自分たちが携わるサービスからの視点が中心となりがちです。多角的にケースから学び実践していく力を関係者が身につけていけるようでありたいです。
- ・ 障がい者を抱える親の高齢化に伴い家庭環境も変化しているので、相談窓口迄来なくても誰かが家庭内の変化に気付き声かけしていかないといけないと思います。当事者だけでなく障がい者福祉事業所のボランティアの方、民生委員の方等からの定期的な聞き取りも大事だと思います。
- ・ 地域生活支援拠点等」「にも包括」など、今後待ったなしで必要とされてくる事業の方向性が見えづらく、精神障がいの特化した基幹相談支援センターの設置を検討していただくのはどうかと感じていました。

事業運営：3件

- ・ 移動支援の身体なしは長時間になるほど給付料金が低くなるので受ける事業所もなくなる。身体援助の有無や給付料金の見直しが必要だと思います。
- ・ サービスを担当する人達への報酬が少なすぎます。
- ・ 近年の深刻な人手不足は福祉業界にも影響を及ぼしているからなのか、ヘルパー事業所から新規の依頼を断られるケースが相次いでいる。継続的な支援を考えた時には一抹の不安をめぐわずにはられない。最近小金井市近隣市に事業所を構える所へ新規の依頼を積極的にするように心掛けてはいるものの、本町、中町あたりは空白エリアとなってしまうため、既存の事業所に頼らざるを得ない。

その他：1件

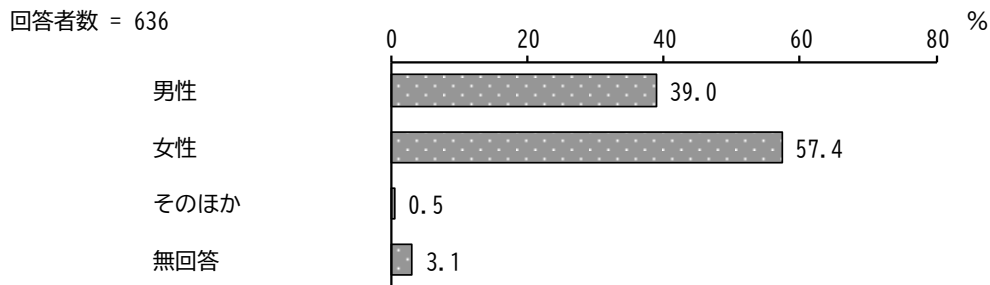
- ・ 「新市庁舎、福祉会館の完成により、活気のある市民交流の場が新たに生まれることを期待しています。引き続きよろしく願いいたします。

Ⅲ-4 一般市民

1 回答者属性

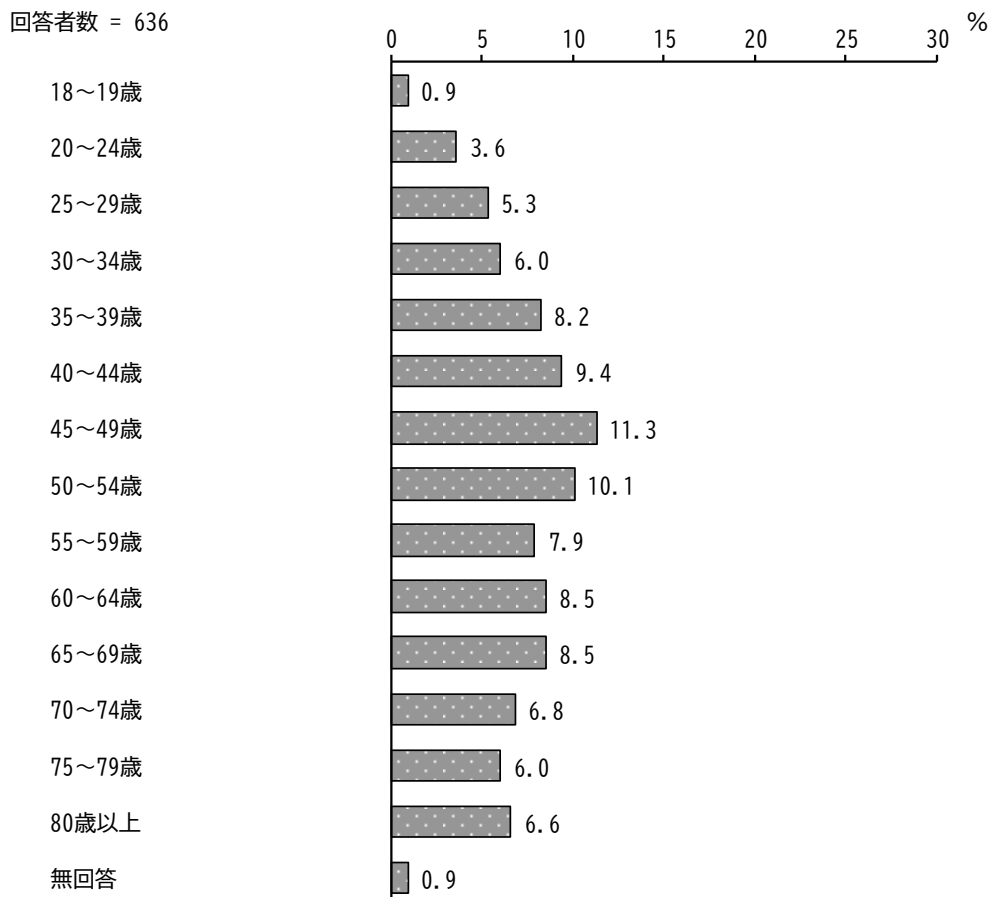
F1 あなたの性別はどちらですか。(1つに○)

「女性」の割合が57.4%、「男性」の割合が39.0%となっています。



F2 あなたの年齢（令和4（2022）年12月1日現在）は次のどれですか。(1つに○)

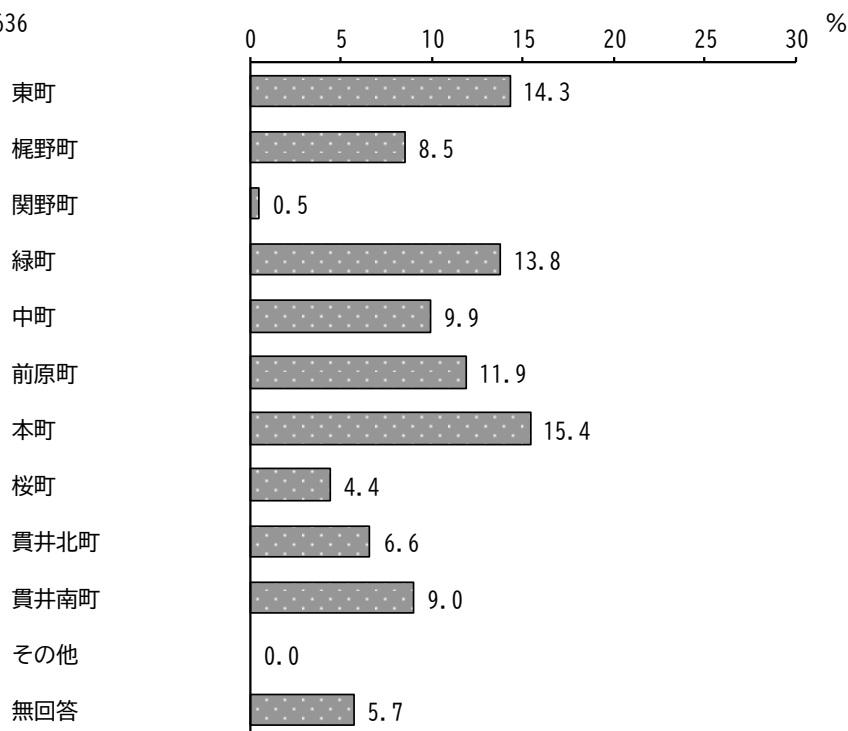
「45～49歳」の割合が11.3%と最も高く、次いで「50～54歳」の割合が10.1%となっています。



F3 あなたはどちらにお住まいですか。(1つに○) また、丁目を〔 〕内にご記入ください。

「本町」の割合が15.4%と最も高く、次いで「東町」の割合が14.3%、「緑町」の割合が13.8%となっています。

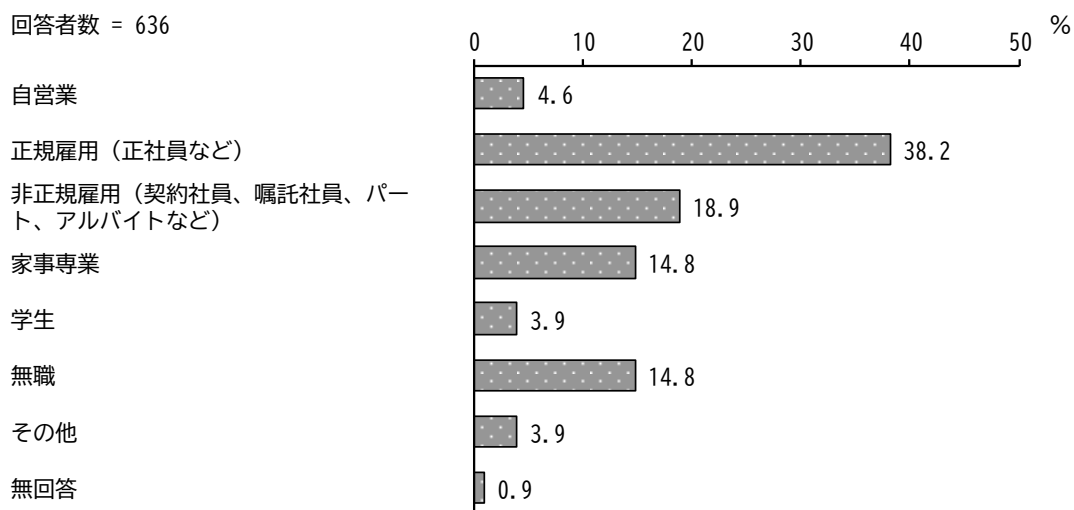
回答者数 = 636



F4 あなたの主な職業は何ですか。(1つに○)

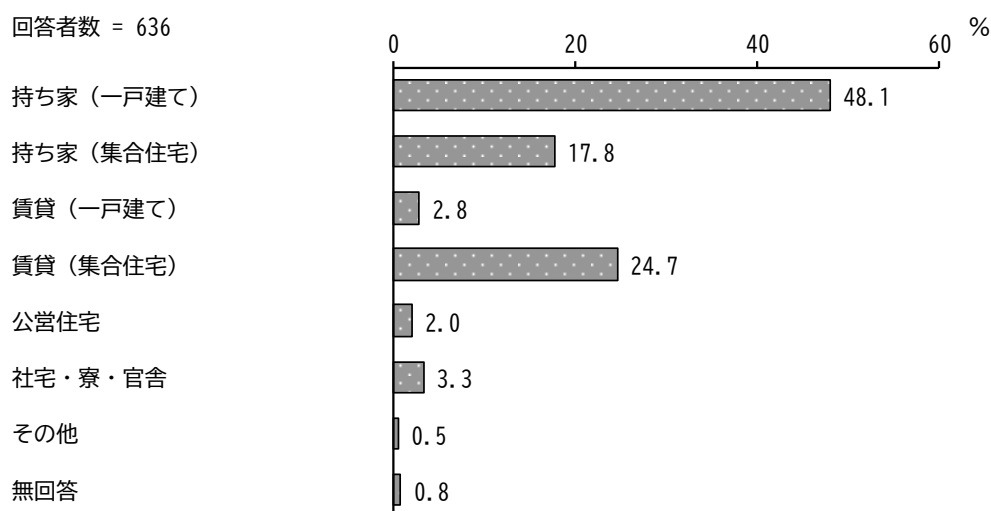
「正規雇用（正社員など）」の割合が38.2%と最も高く、次いで「非正規雇用（契約社員、嘱託社員、パート、アルバイトなど）」の割合が18.9%、「家事専業」、「無職」の割合が14.8%となっています。

回答者数 = 636



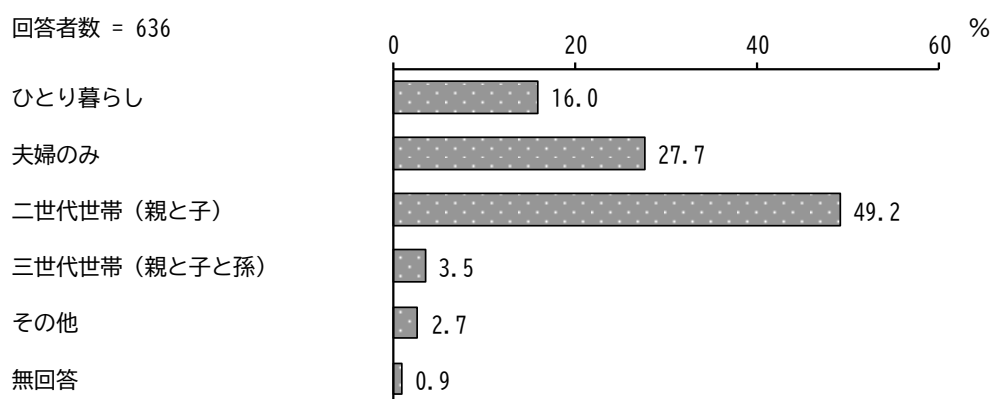
F 5 あなたの住居形態はどれにあたりますか。(1つに○)

「持ち家(一戸建て)」の割合が48.1%と最も高く、次いで「賃貸(集合住宅)」の割合が24.7%、「持ち家(集合住宅)」の割合が17.8%となっています。



F 6 あなたの家族構成はどのようになっていますか。(1つに○)

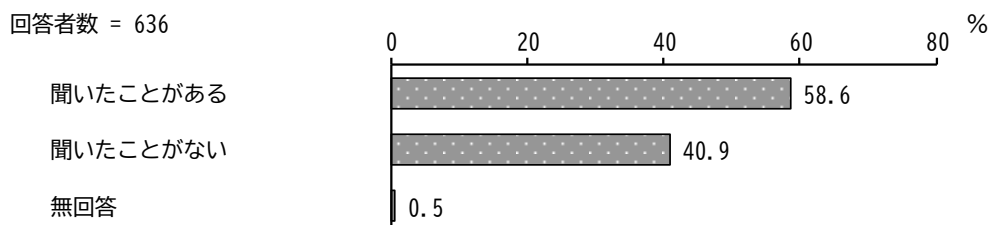
「二世世代世帯(親と子)」の割合が49.2%と最も高く、次いで「夫婦のみ」の割合が27.7%、「ひとり暮らし」の割合が16.0%となっています。



2 ノーマライゼーション等について

問1 あなたは、障がいのある人が社会の構成員として、地域の中で共に生活をおくれるようにすることを目指すという「ノーマライゼーション」または「共生社会」という言葉を聞いたことがありますか。(1つに○)

「聞いたことがある」の割合が 58.6%、「聞いたことがない」の割合が 40.9%となっています。



【福祉の関心度別】

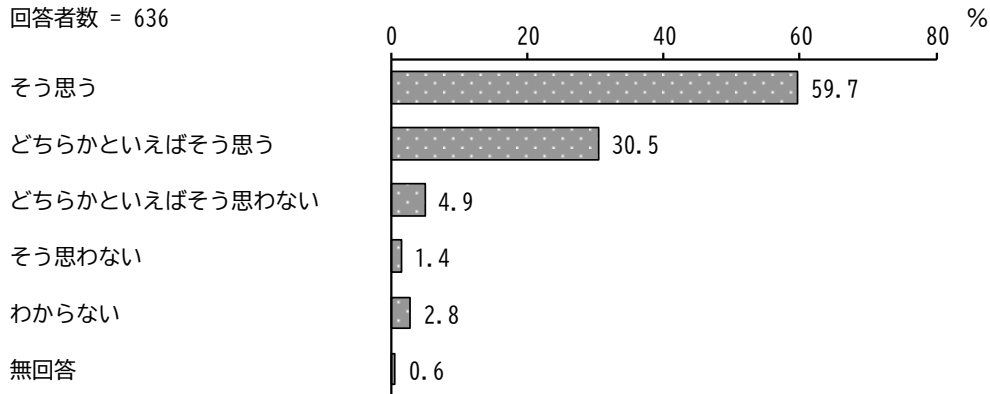
福祉の関心度別にみると、他に比べ、全く関心がない、あまり関心がないで「聞いたことがない」の割合が、非常に関心がある、ある程度関心があるで「聞いたことがある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	聞いたことがある	聞いたことがない	無回答
全体	636	58.6	40.9	0.5
非常に関心がある	63	76.2	23.8	—
ある程度関心がある	312	67.6	32.1	0.3
どちらともいえない	153	45.8	53.6	0.7
あまり関心がない	78	37.2	62.8	—
全く関心がない	10	20.0	80.0	—

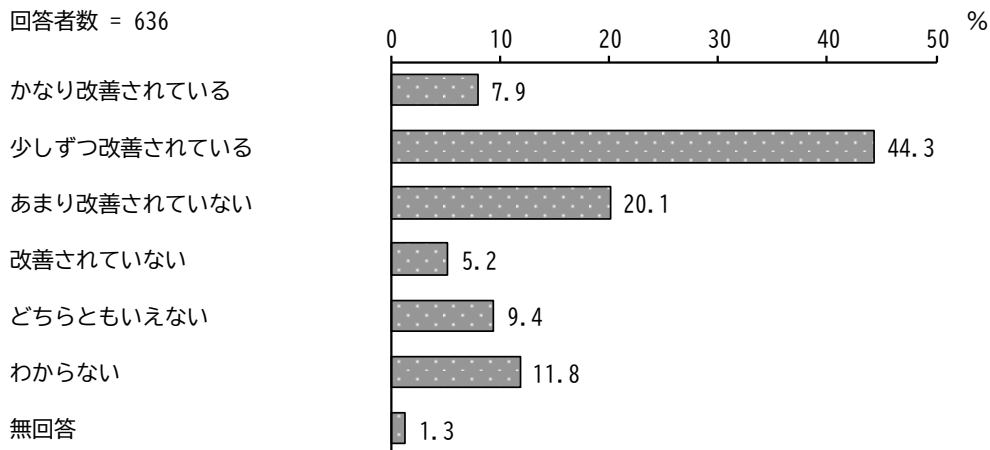
問2 あなたは、「障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前である」という考え方についてはどう思いますか。(1つに○)

「そう思う」の割合が59.7%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」の割合が30.5%となっています。



問3 あなたは、5年前と比べて障がいのある人に対する差別や偏見は改善されたと思いますか。(1つに○)

「少しずつ改善されている」の割合が44.3%と最も高く、次いで「あまり改善されていない」の割合が20.1%、「わからない」の割合が11.8%となっています。



問3-1 5年前と比べて障がいのある人に対する差別や偏見について、「改善されたと思う場面」と「改善されていないと思う場面」について、具体的にお書きください。

【改善されたと思う場面】(241件)

- ・ 電車ホームに落下防止のガードが設置されてきた。(男性、50～54歳)
- ・ 障がいに対する知識、認識ができる内容のニュースや番組が多くなり、理解が深まった方が多い。ヘルプマークの存在が認知されている。(男性、50～54歳)
- ・ 電車内、通行中の対応。(男性、55～59歳)
- ・ マスコミに取り上げられ、偏見が減った様に思える。(男性、65～69歳)
- ・ 障がいのある方が働ける場が増えた。もっと増えてもいいと思う(女性、40～44歳)
- ・ 誰でもトイレが増えたと思う(女性、45～49歳)
- ・ 車イスが通りやすくなったり手すり、バリアフリー等増えたかなと思う。(女性、70～74歳)

【改善されていないと思う場面】(202件)

- ・ 人々の認識においては大きな変化は感じない。(男性、50～54歳)
- ・ JRの駅など公共施設でも、階段しかない出口はまだ多く、車いすやお年寄りには不便を強いていると感じる。(男性、60～64歳)
- ・ 子どもが障がいのある方を見ると不思議に思うらしく、色々質問されます。小学校や中学校で、もう少し障がいのある方との交流があってもいいかと思う。(女性、40～44歳)
- ・ 働く環境が未だ整っていない。(女性、40～44歳)
- ・ 偏見はなかなかぬぐえないと思うが、TV等であたり前に取りあげていけば、普通になるのかなとも思う。(女性、55～59歳)
- ・ 段差のある所が多い。(女性、65～69歳)
- ・ 少しでも、相手のために、手助けしたいという気持ち。(自分は自分という個人主義のけいこうが強くなり、お互い少しづつ助けあうという気持ちが少なくなっていると思います。)(女性、70～74歳)

3 福祉に対する関心について

問4 あなたは、障がい者等に関する法制度や活動をご存じですか。(①から⑫についてそれぞれ1つに○)

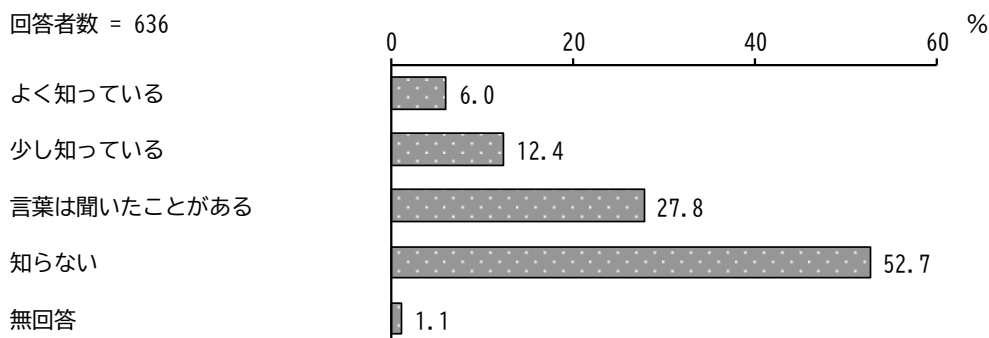
『⑦ ヘルプマーク』で「少し知っている」の割合が高くなっています。『⑧ 小金井市障害者差別解消条例』で「知らない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	よく知っている	少し知っている	言葉は聞いたことがある	知らない	無回答
① 障害者週間(毎年12月3日～9日)	636	6.0	12.4	27.8	52.7	1.1
② 障害者権利条約	636	5.2	11.8	23.6	57.9	1.6
③ 障害者差別解消法	636	5.3	11.3	20.3	61.6	1.4
④ 障害者虐待防止法	636	5.2	13.5	25.5	53.9	1.9
⑤ 成年後見制度	636	16.4	37.4	24.7	20.1	1.4
⑥ ヘルプカード	636	18.4	31.4	18.7	30.2	1.3
⑦ ヘルプマーク	636	26.7	38.4	14.9	18.1	1.9
⑧ 小金井市障害者差別解消条例	636	0.8	5.2	11.0	80.5	2.5
⑨ 小金井市児童発達支援センター	636	8.2	19.5	23.7	46.9	1.7
⑩ 小金井市地域自立支援協議会	636	3.5	15.1	23.9	55.7	1.9
⑪ 障害者福祉センター	636	9.9	28.6	36.2	23.7	1.6
⑫ 避難行動要支援者名簿	636	3.1	8.0	14.8	72.5	1.6

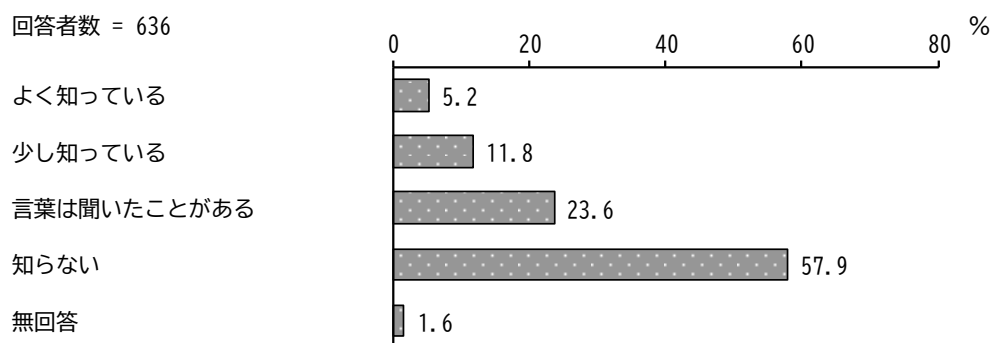
① 障害者週間(毎年12月3日～9日)

「知らない」の割合が52.7%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」の割合が27.8%、「少し知っている」の割合が12.4%となっています。



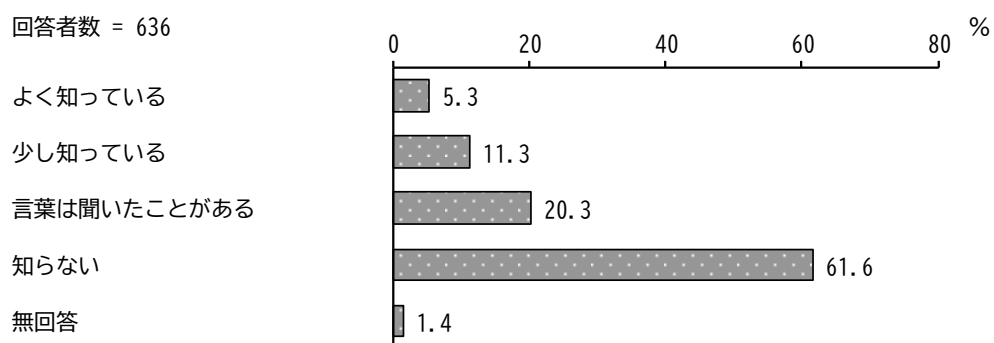
② 障害者権利条約

「知らない」の割合が 57.9%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」の割合が 23.6%、「少し知っている」の割合が 11.8%となっています。



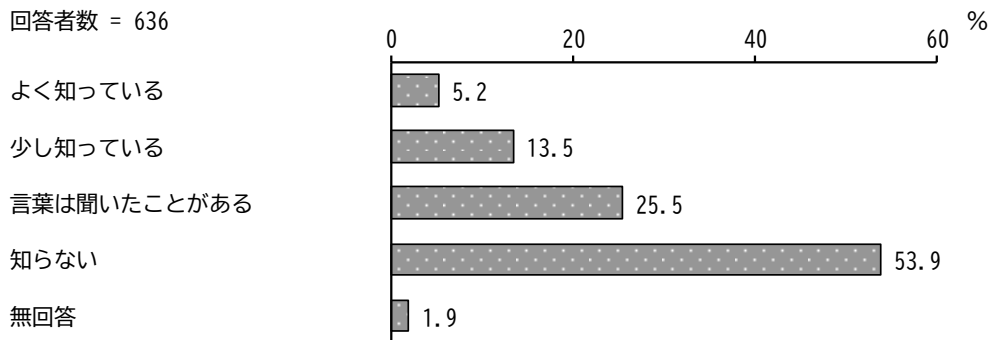
③ 障害者差別解消法（平成 28（2016）年 4 月施行）

「知らない」の割合が 61.6%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」の割合が 20.3%、「少し知っている」の割合が 11.3%となっています。



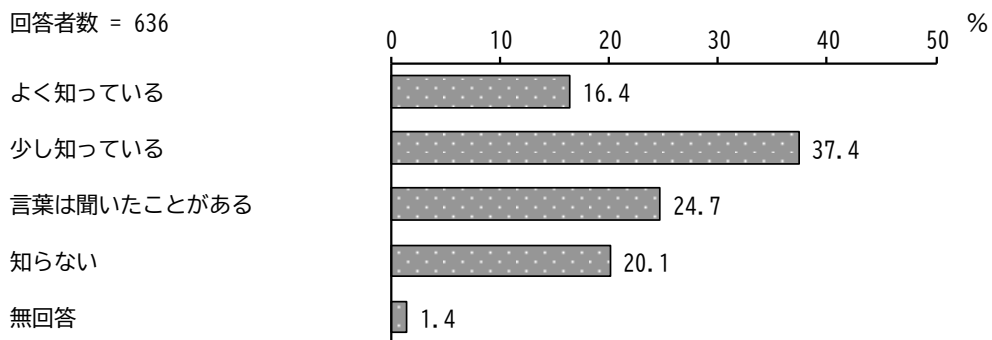
④ 障害者虐待防止法（平成 24（2012）年 10 月施行）

「知らない」の割合が 53.9%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」の割合が 25.5%、「少し知っている」の割合が 13.5%となっています。



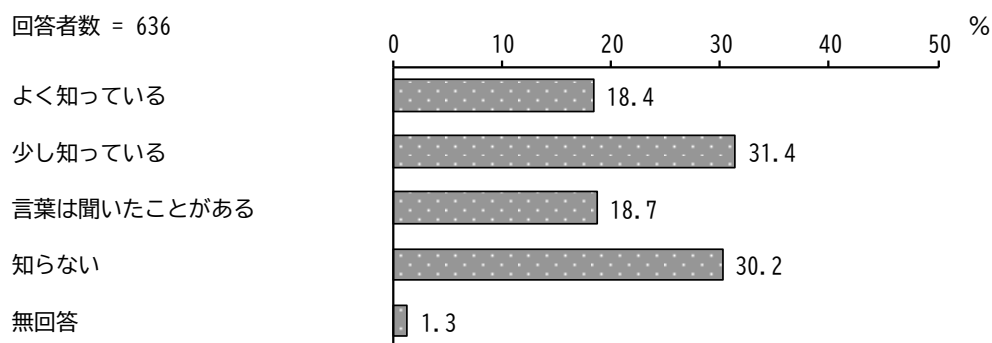
⑤ 成年後見制度

「少し知っている」の割合が 37.4%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」の割合が 24.7%、「知らない」の割合が 20.1%となっています。



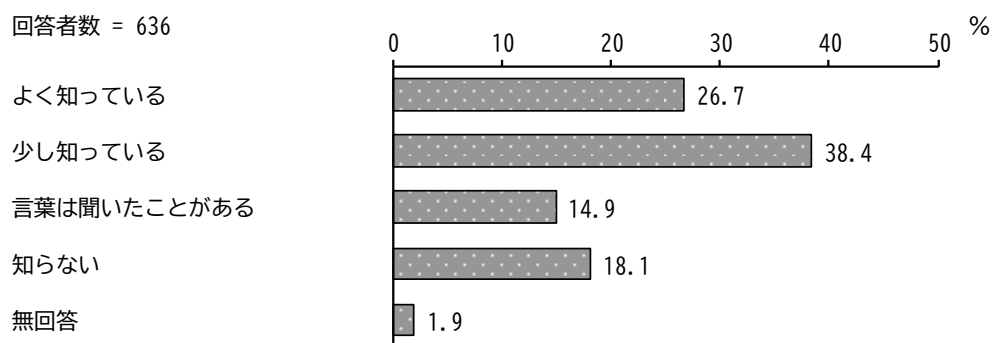
⑥ ヘルプカード

「少し知っている」の割合が31.4%と最も高く、次いで「知らない」の割合が30.2%、「言葉は聞いたことがある」の割合が18.7%となっています。



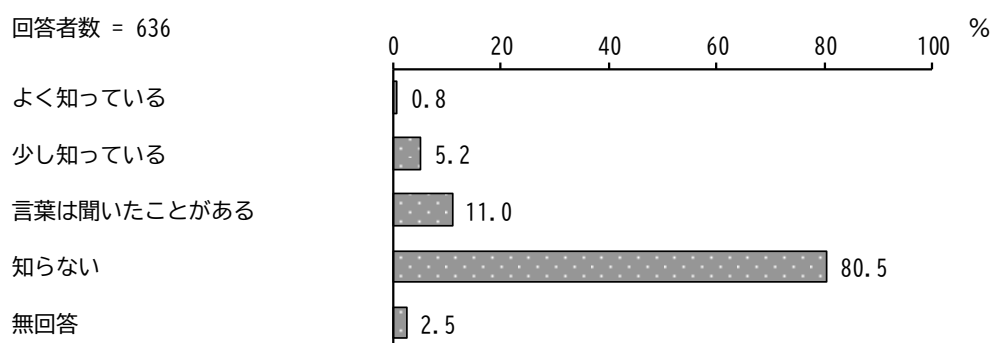
⑦ ヘルプマーク

「少し知っている」の割合が38.4%と最も高く、次いで「よく知っている」の割合が26.7%、「知らない」の割合が18.1%となっています。



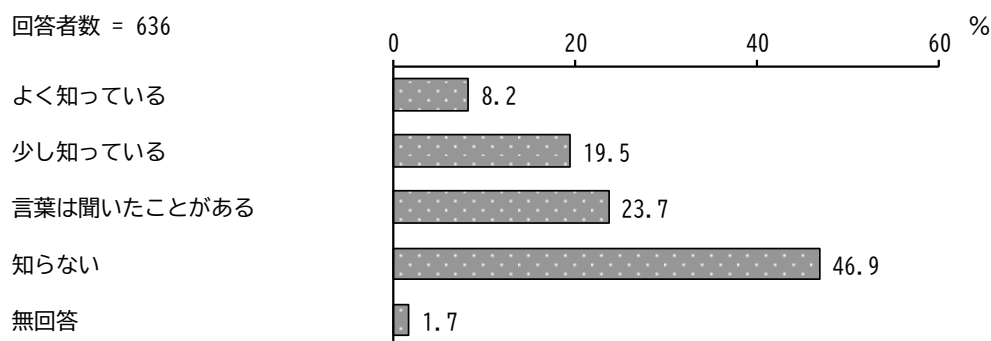
⑧ 小金井市障害者差別解消条例（平成 30（2018）年 10 月施行）

「知らない」の割合が 80.5%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」の割合が 11.0%となっています。



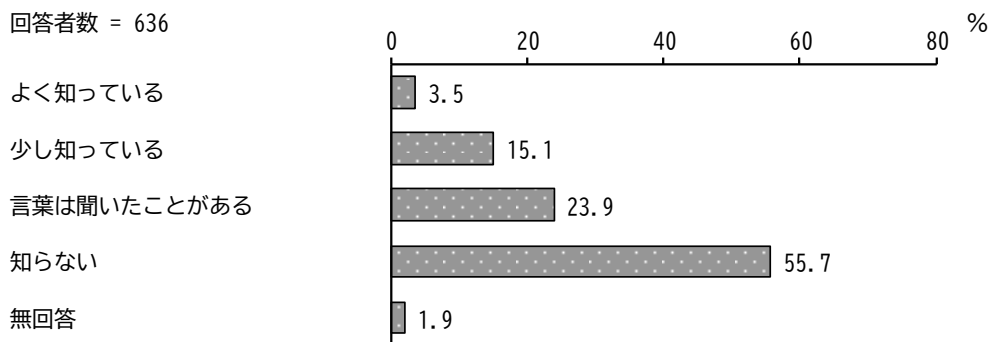
⑨ 小金井市児童発達支援センター

「知らない」の割合が 46.9%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」の割合が 23.7%、「少し知っている」の割合が 19.5%となっています。



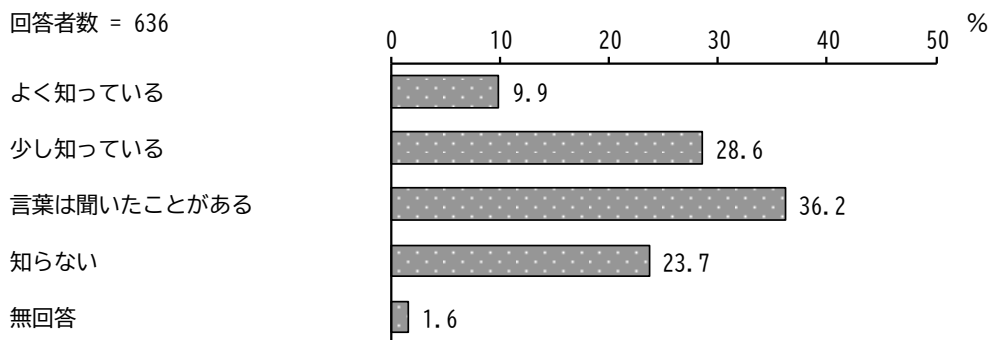
⑩ 小金井市地域自立支援協議会

「知らない」の割合が 55.7%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」の割合が 23.9%、「少し知っている」の割合が 15.1%となっています。



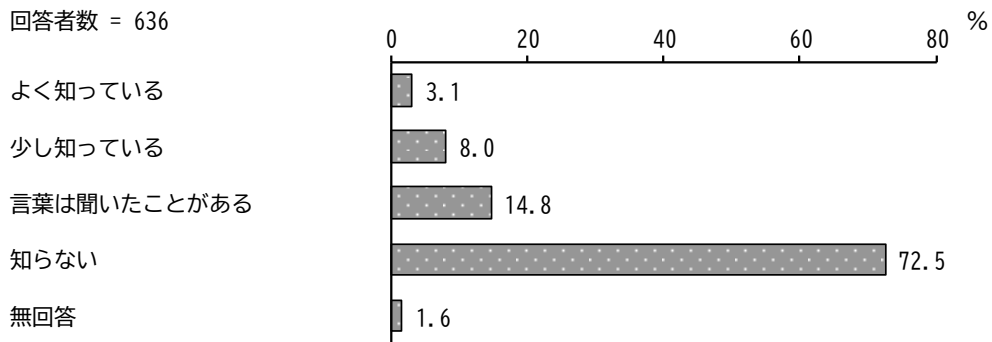
⑪ 障害者福祉センター

「言葉は聞いたことがある」の割合が 36.2%と最も高く、次いで「少し知っている」の割合が 28.6%、「知らない」の割合が 23.7%となっています。



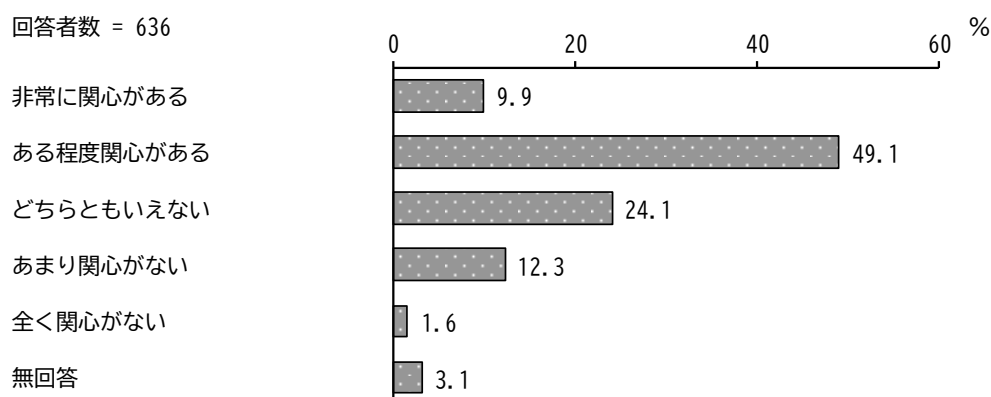
⑫ 避難行動要支援者名簿

「知らない」の割合が72.5%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」の割合が14.8%となっています。



問5 あなたは、障がいのある人の福祉について関心をお持ちですか。(1つに○)

「ある程度関心がある」の割合が49.1%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が24.1%、「あまり関心がない」の割合が12.3%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、65歳以上で「ある程度関心がある」の割合が高くなっています。

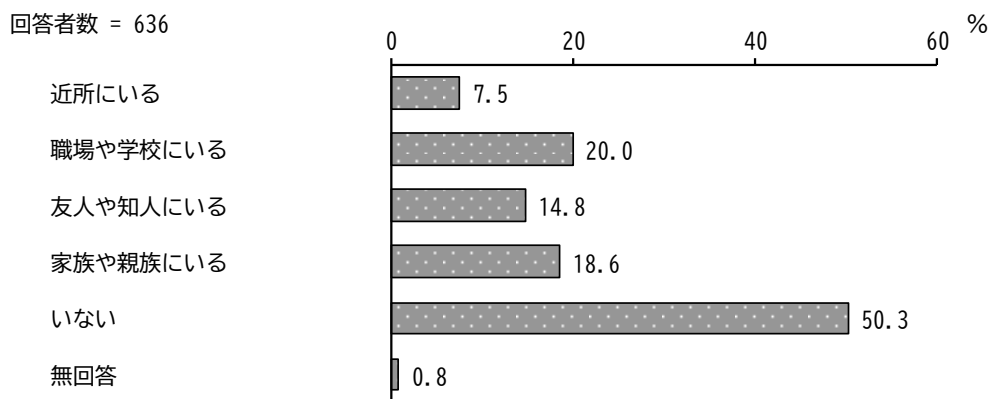
単位：%

区分	回答者数(件)	非常に興味がある	ある程度関心がある	どちらともいえない	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
全体	636	9.9	49.1	24.1	12.3	1.6	3.1
18～19歳	6	16.7	33.3	33.3	16.7	—	—
20～24歳	23	8.7	43.5	30.4	13.0	4.3	—
25～29歳	34	5.9	50.0	23.5	17.6	—	2.9
30～34歳	38	10.5	39.5	18.4	18.4	7.9	5.3
35～39歳	52	11.5	40.4	25.0	17.3	1.9	3.8
40～44歳	60	13.3	33.3	31.7	18.3	1.7	1.7
45～49歳	72	4.2	47.2	26.4	18.1	1.4	2.8
50～54歳	64	10.9	40.6	26.6	17.2	4.7	—
55～59歳	50	24.0	52.0	14.0	8.0	—	2.0
60～64歳	54	9.3	48.1	25.9	14.8	—	1.9
65～69歳	54	3.7	61.1	22.2	5.6	—	7.4
70～74歳	43	7.0	69.8	18.6	—	—	4.7
75～79歳	38	—	71.1	23.7	—	—	5.3
80歳以上	42	19.0	54.8	19.0	4.8	—	2.4

4 障がいのある人とのふれあいについて

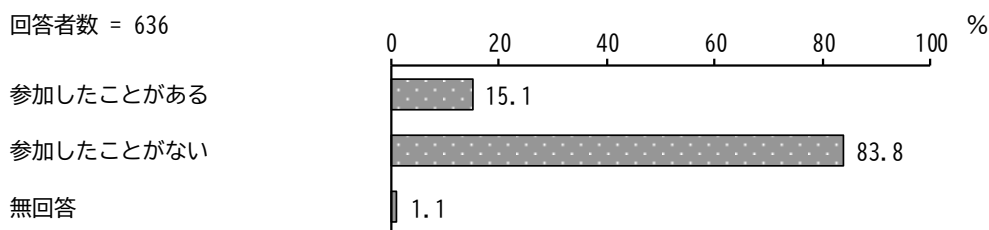
問6 あなたのまわりに、日常的に交流をしている障がいのある人はいますか。(いくつでも○)

「いない」の割合が50.3%と最も高く、次いで「職場や学校にいる」の割合が20.0%、「家族や親族にいる」の割合が18.6%となっています。



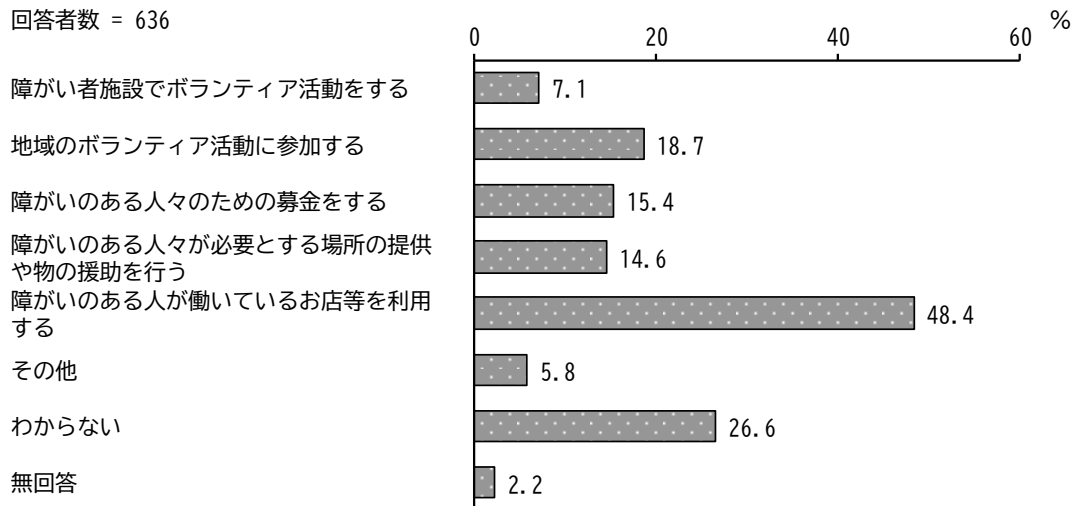
問7 障がいのある人、ない人相互の交流活動や催し、あるいはボランティア活動が地域で行われていますが、あなたは、そのような活動に参加したことがありますか。(1つに○)

「参加したことがある」の割合が15.1%、「参加したことがない」の割合が83.8%となっています。



問8 あなたは、今後、どのような交流活動や催し、あるいはボランティア活動に参加したいと思いますか。(いくつでも○)

「障がいのある人が働いているお店等を利用する」の割合が48.4%と最も高く、次いで「わからない」の割合が26.6%、「地域のボランティア活動に参加する」の割合が18.7%となっています。



【福祉の関心度別】

福祉の関心度別にみると、他に比べ、全く関心がない、あまり関心がないで「わからない」の割合が、非常に関心があるで「障がいのある人が働いているお店等を利用する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	障がい者施設でボランティア活動をする	地域のボランティア活動に参加する	障がいのある人々のための募金をする	障がいのある人々が必要とする場所の提供や物の援助を行う	障がいのある人が働いているお店等を利用する	その他	わからない	無回答
全体	636	7.1	18.7	15.4	14.6	48.4	5.8	26.6	2.2
非常に関心がある	63	23.8	36.5	14.3	20.6	66.7	12.7	7.9	—
ある程度関心がある	312	7.1	21.8	18.3	20.2	52.9	4.8	20.2	2.2
どちらともいえない	153	2.6	10.5	13.7	9.8	41.8	4.6	35.3	2.0
あまり関心がない	78	1.3	10.3	11.5	2.6	34.6	6.4	46.2	—
全く関心がない	10	10.0	—	—	—	10.0	20.0	60.0	—

問9 あなたは、障がい者等に対してどのようにお考えですか。(①から⑤についてそれぞれ1つに○)

『① 身体障がい』で「一定の理解をしていると思う」の割合が高くなっています。『⑤ 高次脳機能障害』で「あまり理解をしていないと思う」の割合が高くなっています。

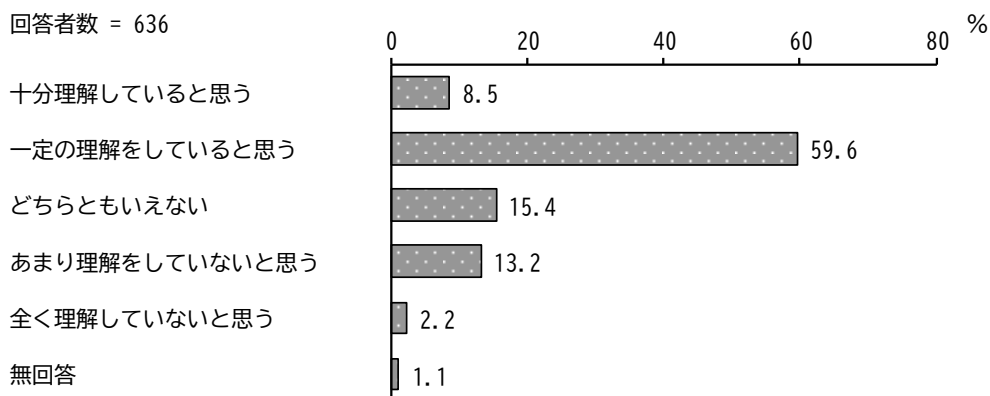
単位：％

区分	全体	十分理解していると思う	一定の理解をしていると思う	どちらともいえない	あまり理解をしていないと思う	全く理解をしていないと思う	無回答
① 身体障がい	636	8.5	59.6	15.4	13.2	2.2	1.1
② 知的障がい	636	6.1	51.6	18.7	19.7	3.0	0.9
③ 精神障がい	636	6.0	41.8	24.1	22.6	4.6	0.9
④ 発達障がい	636	8.0	49.1	19.7	19.3	2.7	1.3
⑤ 高次脳機能障がい	636	6.1	25.6	20.9	28.5	16.8	2.0

① 身体障がい

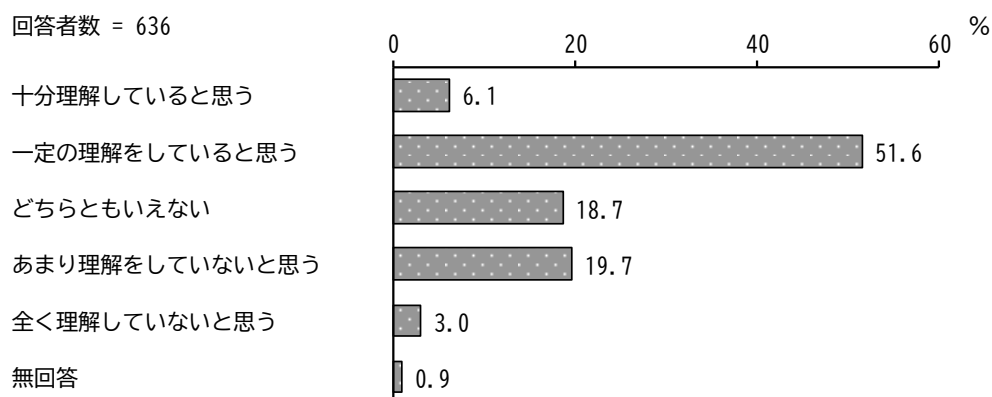
「一定の理解をしていると思う」の割合が 59.6%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が 15.4%、「あまり理解をしていないと思う」の割合が 13.2%となっています。

回答者数 = 636



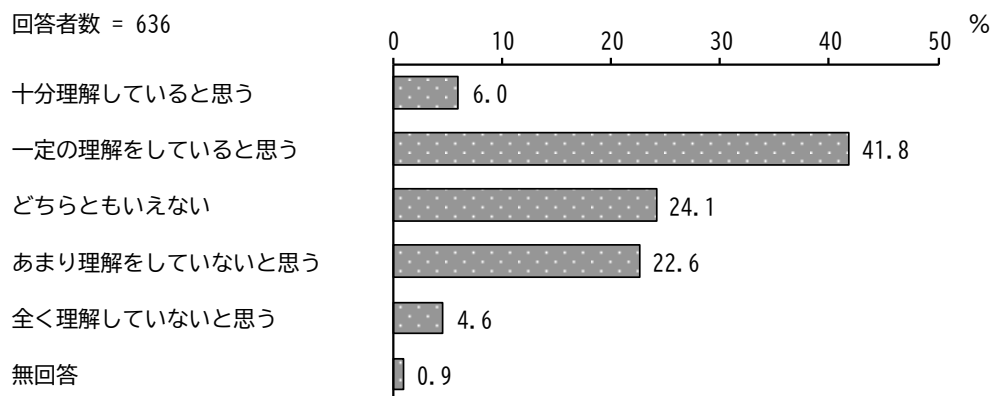
② 知的障がい

「一定の理解をしていると思う」の割合が51.6%と最も高く、次いで「あまり理解をしていないと思う」の割合が19.7%、「どちらともいえない」の割合が18.7%となっています。



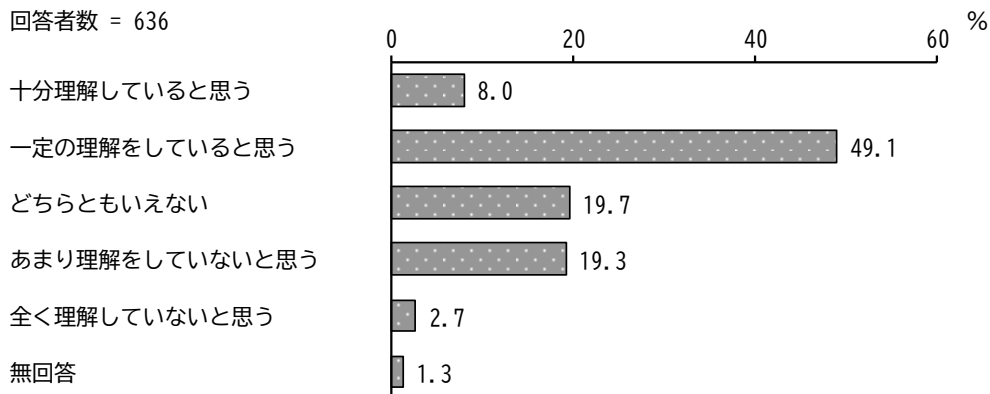
③ 精神障がい

「一定の理解をしていると思う」の割合が41.8%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が24.1%、「あまり理解をしていないと思う」の割合が22.6%となっています。



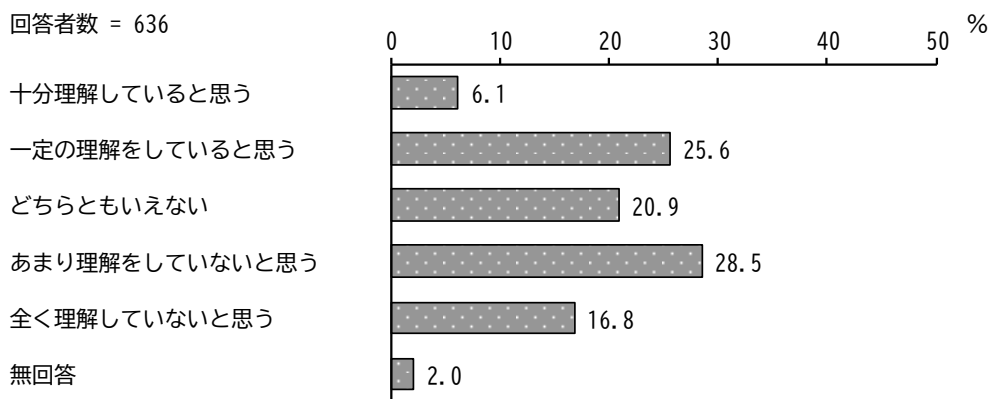
④ 発達障がい

「一定の理解をしていると思う」の割合が 49.1%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が 19.7%、「あまり理解をしていないと思う」の割合が 19.3%となっています。



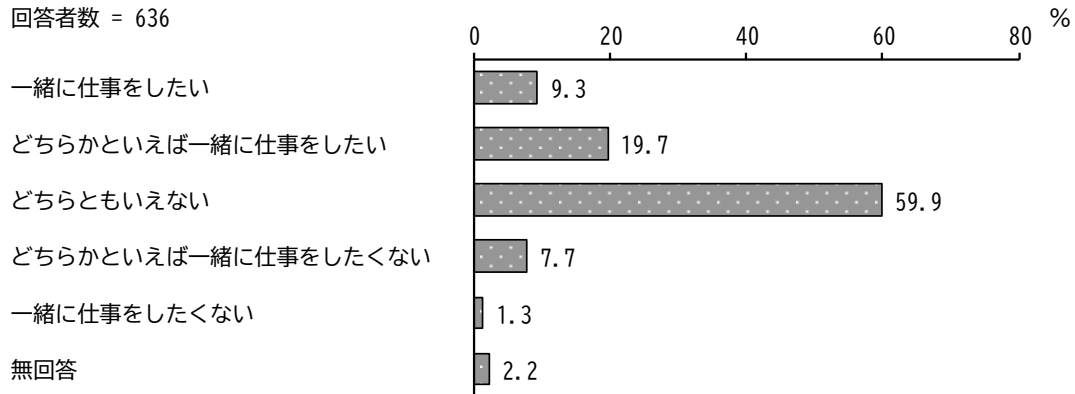
⑤ 高次脳機能障がい

「あまり理解をしていないと思う」の割合が 28.5%と最も高く、次いで「一定の理解をしていると思う」の割合が 25.6%、「どちらともいえない」の割合が 20.9%となっています。



問10 あなたご自身は、障がいのある人と一緒に仕事をするについてどう思いますか。(1つに○)

「どちらともいえない」の割合が59.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば一緒に仕事をしたい」の割合が19.7%となっています。



【福祉の関心度別】

福祉の関心度別にみると、他に比べ、非常に関心がある、ある程度関心があるで「どちらかといえば一緒に仕事をしたい」の割合が高くなっています。

単位：%

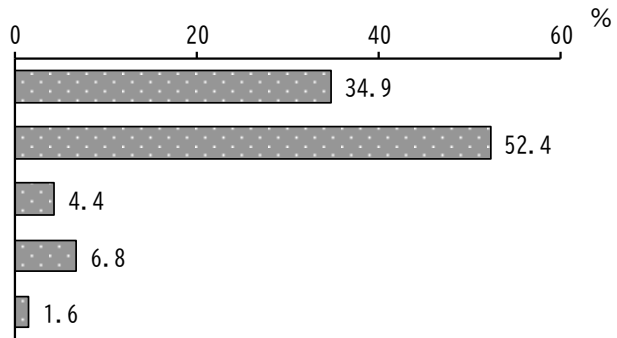
区分	回答者数(件)	一緒に仕事をしたい	どちらかといえば一緒に仕事をしたい	どちらともいえない	どちらかといえば一緒に仕事をしたくない	一緒に仕事をしたくない	無回答
全体	636	9.3	19.7	59.9	7.7	1.3	2.2
非常に関心がある	63	27.0	34.9	36.5	—	1.6	—
ある程度関心がある	312	10.3	26.0	56.1	5.1	0.3	2.2
どちらともいえない	153	3.9	8.5	79.1	6.5	1.3	0.7
あまり関心がない	78	—	9.0	62.8	25.6	1.3	1.3
全く関心がない	10	—	—	40.0	30.0	30.0	—

問 11 障がいの有無に関わらず、子どもたちが一緒に学んだり、保育を受けることについて、あなたの考えに一番近いものはどれですか。(1つに○)

「障がいの状況や程度に合わせて、専門的な保育や教育を受けるほうがよい」の割合が 52.4%と最も高く、次いで「障がいの有無に関わらず、できるだけ一緒に過ごせるのがよい」の割合が 34.9%となっています。

回答者数 = 636

障がいの有無に関わらず、できるだけ一緒に過ごせるのがよい
 障がいの状況や程度に合わせて、専門的な保育や教育を受けるほうがよい
 その他
 わからない
 無回答



【福祉の関心度別】

福祉の関心度別にみると、他に比べ、あまり関心がない、全く関心がないで「障がいの状況や程度に合わせて、専門的な保育や教育を受けるほうがよい」の割合が、ある程度関心があるで「障がいの有無に関わらず、できるだけ一緒に過ごせるのがよい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	障がいの有無に関わらず、できるだけ一緒に過ごせるのがよい	障がいの状況や程度に合わせて、専門的な保育や教育を受けるほうがよい	その他	わからない	無回答
全体	636	34.9	52.4	4.4	6.8	1.6
非常に関心がある	63	34.9	49.2	9.5	4.8	1.6
ある程度関心がある	312	42.9	48.1	4.8	2.9	1.3
どちらともいえない	153	29.4	52.9	3.3	13.7	0.7
あまり関心がない	78	16.7	74.4	1.3	7.7	—
全く関心がない	10	10.0	60.0	—	30.0	—

問12 小金井市で障がいのある人もない人も、みんな一緒に暮らしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。具体的にお書きください。

1 啓発・福祉教育（115件）

- ・ 障がい者に対する理解を深めるような教育を充実させる。（男性、40～44歳）
- ・ 障がい者に偏見を持たない様にする。特に若者、中高年の意識改革、教育が必要だと思います。（男性、50～54歳）
- ・ リーフレット等で知識、理解を市民に広げる。（女性、45～49歳）
- ・ みんなが理解を深める。関心を持つ（女性、65～69歳）
- ・ 障がいの実情などを知ってもらうための啓発が必要と思う。（女性、75～79歳）

2 地域や学校等での交流（100件）

- ・ 交流を増やしてお互い理解しあう場の提供等が必要ではないかと思う。（男性、50～54歳）
- ・ 交流施設の拡充。（男性、55～59歳）
- ・ イベントの告知、同じ体験を行うイベントの実施。（女性、20～24歳）

3 ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進（31件）

- ・ 障がい者対応施設（エレベーター、エスカレーター等）の設置増加。（男性、35～39歳）
- ・ 道路の段差や、道にベンチを設けて休憩できる場所をつくる。お店の通路を広くする。横断歩道の時間を長めにできるようにする。自転車用道路の整備。（女性、35～39歳）

4 支援・サービスの充実（47件）

- ・ 障がいのある人の自立を促す行政のサポート。（男性、50～54歳）

5 就労の場づくり（8件）

- ・ 障がいがあろうと、なかろうと人は「生きがい」が必要だと思います。そのためには、障がいのある人は、その程度に合わせた働く場所があると、その人らしく、より豊かに生きられると思います。（女性、50～54歳）

6 その他（39件）

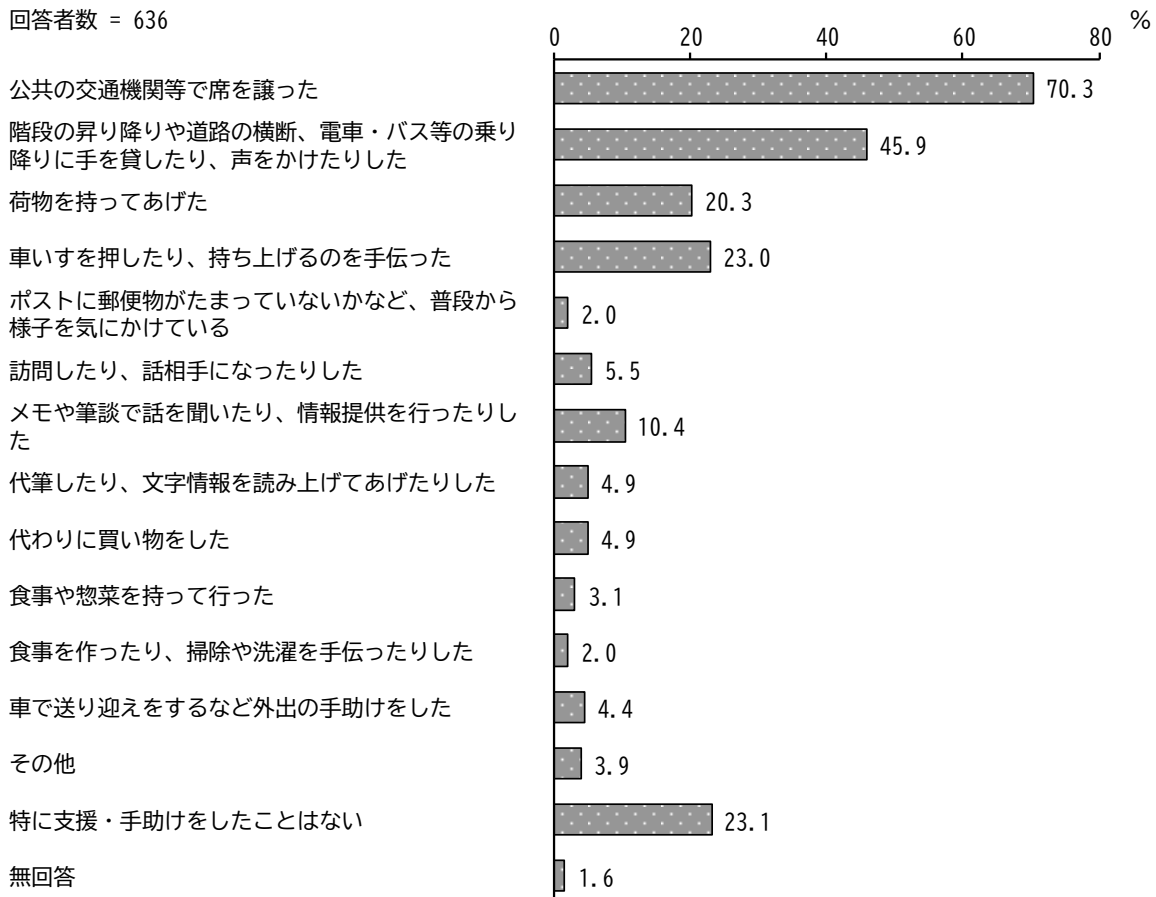
- ・ 障害の種類や程度によって大きく対応が異なる為、一概には言えない。（男性、50～54歳）

5 障がいのある人への日常的な支援・手助けについて

問13 あなたは、個人として障がいのある方に次のような支援・手助けをしたことがありますか。(いくつでも○)

「公共の交通機関等で席を譲った」の割合が70.3%と最も高く、次いで「階段の昇り降りや道路の横断、電車・バス等の乗り降りに手を貸したり、声をかけたりした」の割合が45.9%、「特に支援・手助けをしたことはない」の割合が23.1%となっています。

回答者数 = 636



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、55～59歳で「階段の昇り降りや道路の横断、電車・バス等の乗り降りに手を貸したり、声をかけたりした」の割合が、80歳以上で「特に支援・手助けをしたことはない」の割合が、60～64歳で「車いすを押したり、持ち上げるのを手伝った」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	公共の交通機関等で席を譲った	階段の昇り降りや道路の横断、電車・バス等の乗り降りに手を貸したり、声をかけたりした	荷物を持ってあげた	車いすを押したり、持ち上げるのを手伝った	ポストに郵便物がたまっていないかなど、普段から様子を気にかけている	訪問したり、話相手になったりした	メモや筆談で話を聞いたり、情報提供を行ったりした
全体	636	70.3	45.9	20.3	23.0	2.0	5.5	10.4
18～19歳	6	66.7	50.0	33.3	—	—	16.7	—
20～24歳	23	69.6	17.4	8.7	8.7	—	—	8.7
25～29歳	34	73.5	23.5	11.8	2.9	—	2.9	8.8
30～34歳	38	73.7	39.5	15.8	21.1	2.6	7.9	13.2
35～39歳	52	65.4	42.3	19.2	19.2	1.9	1.9	11.5
40～44歳	60	70.0	38.3	20.0	18.3	1.7	6.7	11.7
45～49歳	72	69.4	40.3	15.3	20.8	—	2.8	9.7
50～54歳	64	67.2	51.6	20.3	25.0	—	3.1	14.1
55～59歳	50	78.0	66.0	32.0	36.0	4.0	12.0	16.0
60～64歳	54	81.5	59.3	22.2	42.6	1.9	3.7	13.0
65～69歳	54	70.4	50.0	20.4	31.5	3.7	7.4	5.6
70～74歳	43	76.7	60.5	34.9	27.9	11.6	9.3	14.0
75～79歳	38	60.5	36.8	18.4	23.7	—	2.6	7.9
80歳以上	42	57.1	52.4	16.7	9.5	—	9.5	—

(次のページへ)

Ⅲ 障害者計画・障害福祉計画策定に関する調査

単位：％

区分	代わりに買い物をした	食事や惣菜を持って行った	食事を作ったり、掃除や洗濯を手伝ったりした	車で送り迎えをするなど外出の手助けをした	その他	特に支援・手助けをしたことはない	無回答
全 体	4.9	3.1	2.0	4.4	3.9	23.1	1.6
18～19 歳	—	—	—	—	—	16.7	—
20～24 歳	—	—	—	—	—	30.4	—
25～29 歳	—	—	—	—	2.9	26.5	—
30～34 歳	7.9	—	—	—	2.6	21.1	—
35～39 歳	—	1.9	1.9	1.9	1.9	25.0	1.9
40～44 歳	6.7	3.3	3.3	3.3	5.0	15.0	1.7
45～49 歳	1.4	2.8	—	2.8	4.2	16.7	—
50～54 歳	3.1	3.1	1.6	10.9	4.7	17.2	—
55～59 歳	10.0	6.0	8.0	10.0	2.0	14.0	2.0
60～64 歳	5.6	1.9	1.9	3.7	3.7	16.7	—
65～69 歳	5.6	7.4	1.9	7.4	5.6	24.1	—
70～74 歳	9.3	2.3	4.7	9.3	7.0	30.2	—
75～79 歳	10.5	5.3	2.6	—	2.6	36.8	2.6
80 歳以上	4.8	4.8	—	2.4	7.1	42.9	11.9

【福祉の関心度別】

福祉の関心度別にみると、他に比べ、非常に関心があるで「メモや筆談で話を聞いたり、情報提供を行ったりした」「代筆したり、文字情報を読み上げてあげたりした」の割合が、非常に関心がある、ある程度関心があるで「公共の交通機関等で席を譲った」の割合が高くなっています。

単位：%

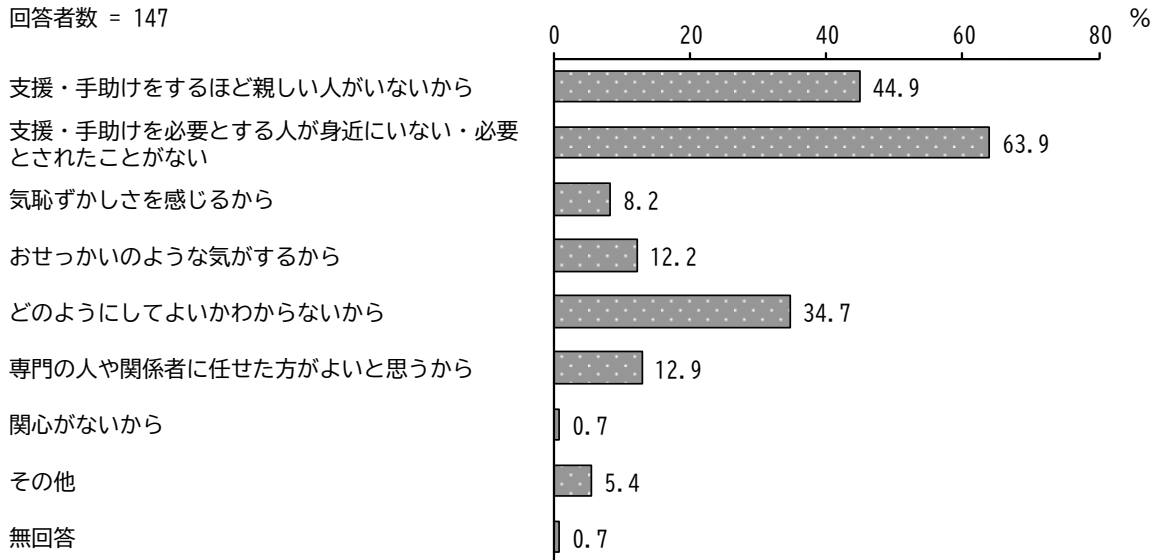
区分	回答者数(件)	公共の交通機関等で席を譲った	階段の昇り降りや道路の横断、電車・バス等の乗り降りに手を貸したり、声をかけたりした	荷物を持ってあげた	車いすを押したり、持ち上げるのを手伝った	ポストに郵便物がたまっていないかなど、普段から様子を気にかけている	訪問したり、話相手になったりした	メモや筆談で話を聞いたり、情報提供を行ったりした
全体	636	70.3	45.9	20.3	23.0	2.0	5.5	10.4
非常に関心がある	63	76.2	58.7	28.6	23.8	3.2	15.9	23.8
ある程度関心がある	312	74.4	54.8	23.1	27.2	2.2	5.8	10.3
どちらともいえない	153	63.4	34.0	14.4	16.3	0.7	2.0	5.2
あまり関心がない	78	61.5	25.6	7.7	16.7	1.3	2.6	10.3
全く関心がない	10	60.0	20.0	30.0	20.0	10.0	10.0	20.0

区分	代筆したり、文字情報を読み上げてあげたりした	代わりに買い物をした	食事や惣菜を持って行った	食事を作ったり、掃除や洗濯を手伝ったりした	車で送り迎えをするなど外出の手助けをした	その他	特に支援・手助けをしたことはない	無回答
全体	4.9	4.9	3.1	2.0	4.4	3.9	23.1	1.6
非常に関心がある	14.3	9.5	7.9	9.5	14.3	9.5	7.9	1.6
ある程度関心がある	3.8	4.2	3.2	1.6	4.5	4.2	20.5	1.3
どちらともいえない	3.9	4.6	2.0	0.7	2.0	2.6	28.8	2.6
あまり関心がない	2.6	3.8	2.6	1.3	2.6	2.6	32.1	—
全く関心がない	20.0	10.0	—	—	—	—	30.0	—

問 13-1 支援や手助けしたことがない理由は何ですか。(いくつでも○)

「支援・手助けを必要とする人が身近にいない・必要とされたことがない」の割合が 63.9%と最も高く、次いで「支援・手助けをするほど親しい人がいないから」の割合が 44.9%、「どのようにしてよいかわからないから」の割合が 34.7%となっています。

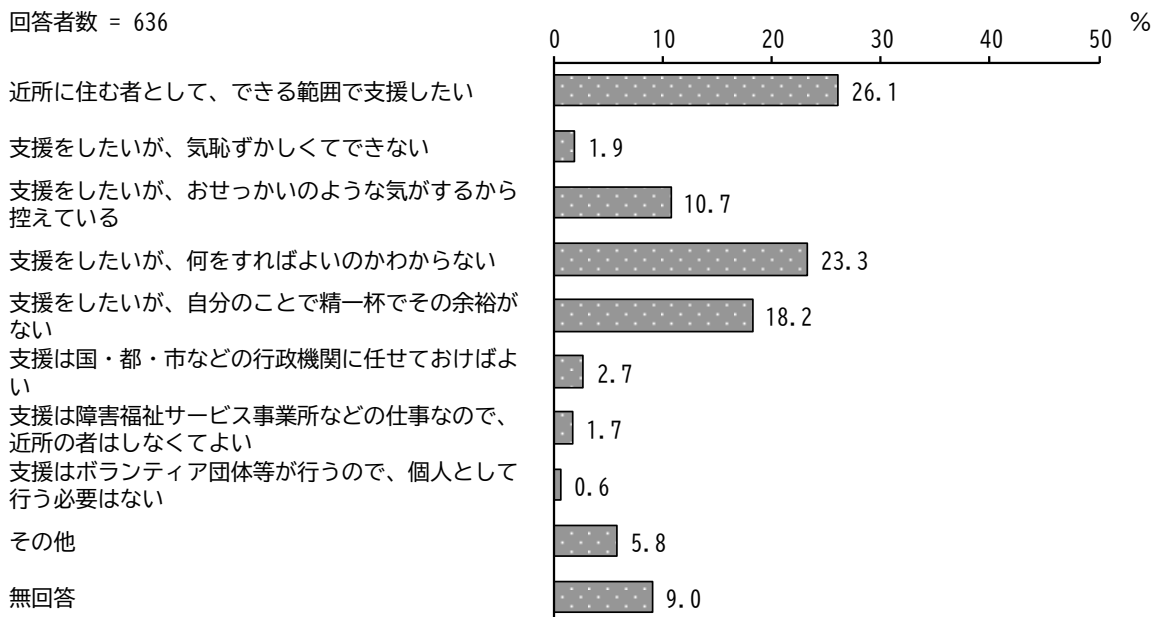
回答者数 = 147



問 14 近所に住む障がいのある方などへの日常的な支援について、あなたの考えに一番近いものはどれですか。(1つに○)

「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」の割合が 26.1%と最も高く、次いで「支援をしたいが、何をすればよいかわからない」の割合が 23.3%、「支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない」の割合が 18.2%となっています。

回答者数 = 636

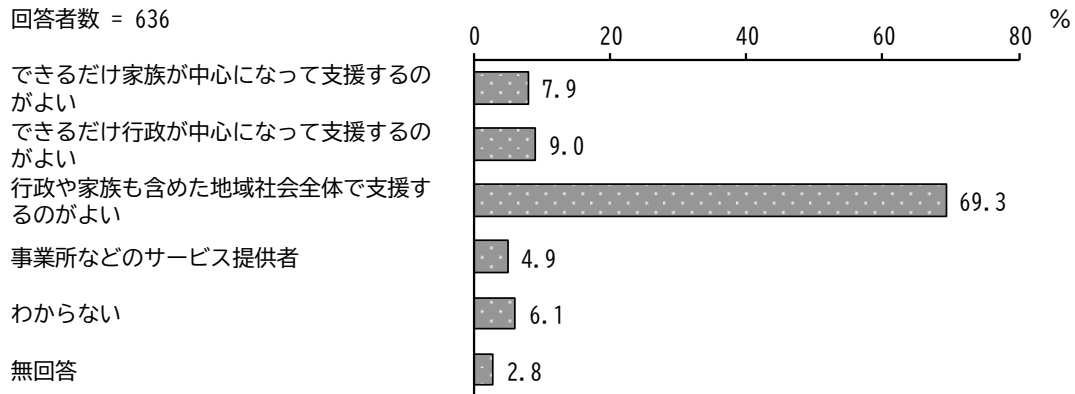


6 障がい者施策について

問 15 あなたは、障がいのある人の身の回りの支援は、主として誰が担うのがよいと思いますか。(1つに○)

「行政や家族も含めた地域社会全体で支援するのがよい」の割合が 69.3%と最も高くなっています。

回答者数 = 636



問 16 平成 28 (2016) 年 4 月 1 日に「障害者差別解消法」が施行され、平成 30 (2018) 年 10 月 1 日に「障害のある人もない人も共に学び共に生きる社会を目指す小金井市条例 (小金井市差別解消条例)」が施行されました。あなたが考える、障がい者に対する配慮 ※とはどのようなことですか。思いつくことをお書きください。

1 障がい者に対する理解・知識、偏見を無くす (134 件)

- ・ どんなことに配慮してもらいたいのか障がい者の声に耳を傾ける、無関心でないこと (女性、45～49 歳)
- ・ 差別なく、対等に接することで、何に困っているか、本人に話してもらう。気を使いすぎず、本人から発信してもらう。話しやすい環境を作る。(女性、45～49 歳)
- ・ その人の障害について正しく理解すること (女性、65～69 歳)

2 支え合い (90 件)

- ・ 気になったら声かけをする。困っていたら助ける。(男性、40～44 歳)
- ・ 障害者が個々人の能力を発揮できるように無理のない範囲での支援を行うこと (男性、45～49 歳)
- ・ 必要とされた時に動ける事。自分出来る事は協力したい。(女性、65～69 歳)
- ・ 障がいがある方でもない方でも街中で助けを求められたら自分にできる範囲内でお手伝いできれば良いと思う気持 (女性、70～74 歳)

3 バリヤフリー化・ユニバーサルデザインの推進 (16 件)

- ・ 段差の無い歩道, 列車ホームのドア。(男性、70～74 歳)
- ・ バリアフリーをたくさん設けて住みやすい街づくり。(女性、50～54 歳)

4 支援の充実 (29 件)

- ・ 障がいのある方々の考えや困り事に寄り添い、しっかりニーズを聞きとって支援体制を築いていくことが大切だと思う。(女性、55～59 歳)

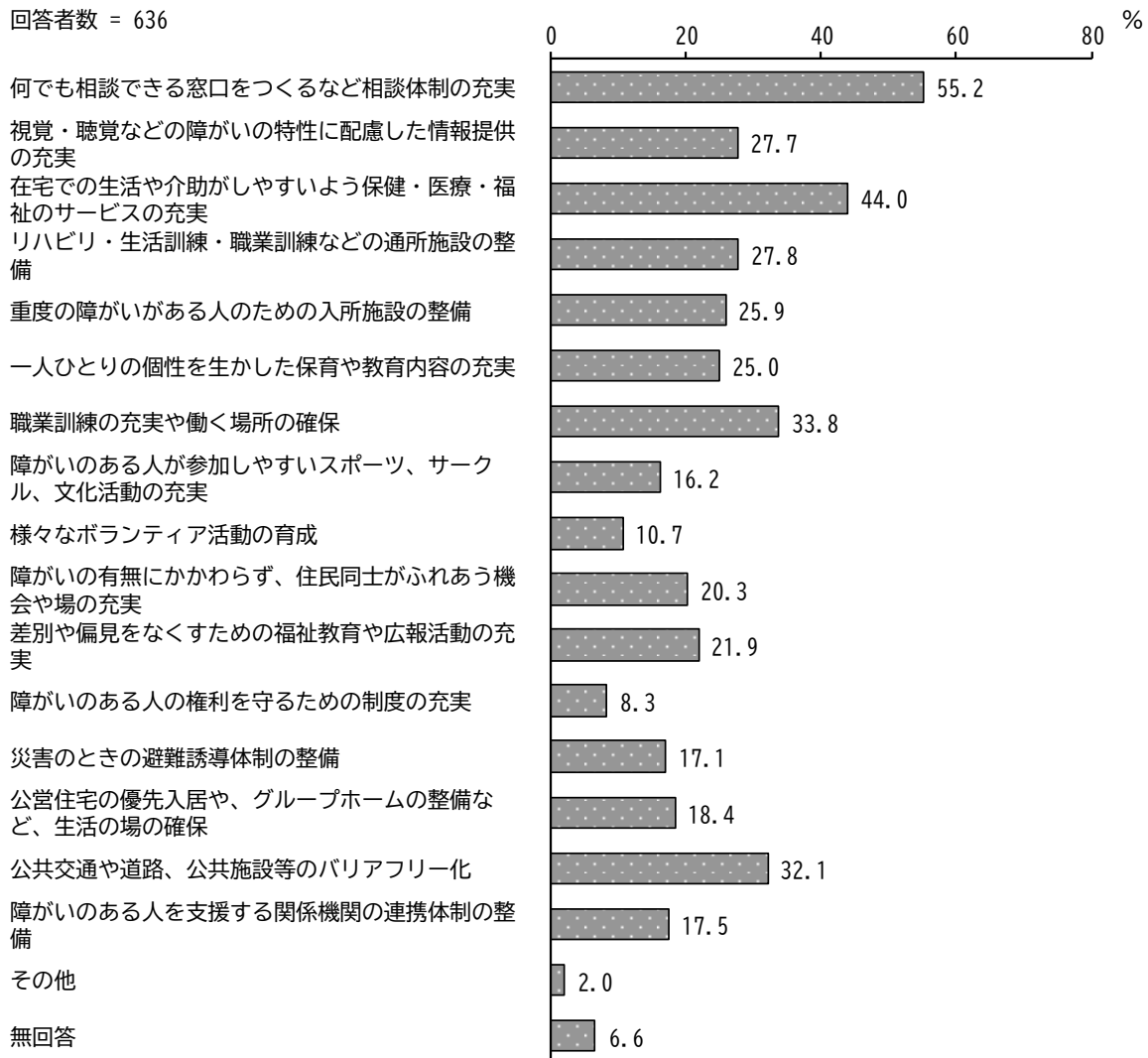
5 その他 (17 件)

- ・ 障がいも色々、程度も色々なので、どうするのが良いか、思いつかない。(女性、70～74 歳)

問 17 障がいのある人にとって暮らしよいまちづくりのためには、どのようなことが必要だと考えますか。(5つまで○)

「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」の割合が 55.2%と最も高く、次いで「在宅での生活や介助がしやすいよう保健・医療・福祉のサービスの充実」の割合が 44.0%、「職業訓練の充実や働く場所の確保」の割合が 33.8%となっています。

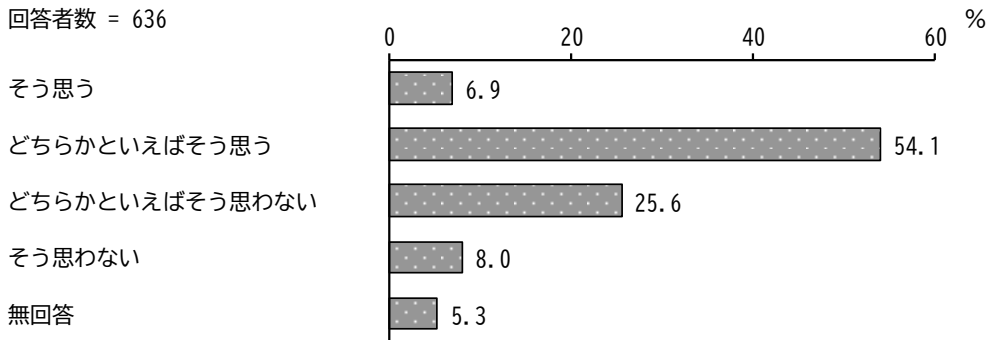
回答者数 = 636



問 18 小金井市では、「誰もがいきいきと暮らすことのできるまち」の実現をめざしています。あなたは、小金井市は「誰もがいきいきと暮らすことのできるまち」だと思いますか。(1つに○)

「どちらかといえばそう思う」の割合が 54.1%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」の割合が 25.6%となっています。

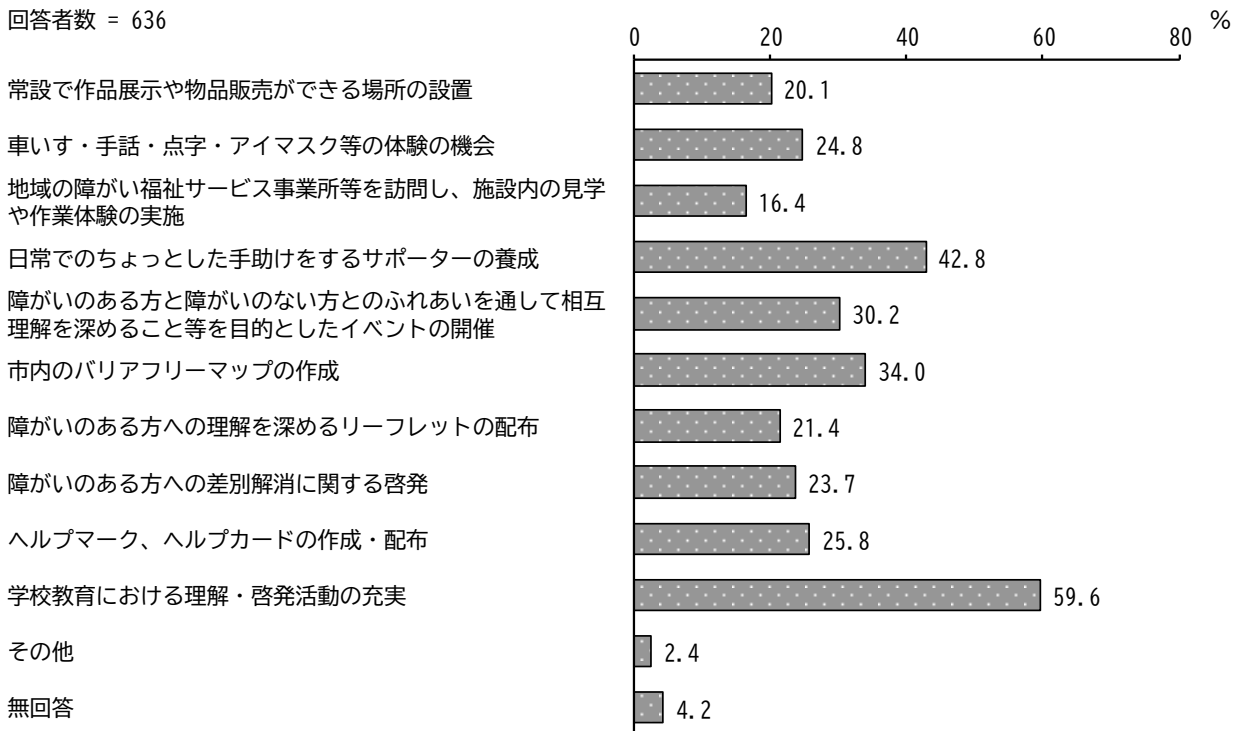
回答者数 = 636



問 19 障がいに関する理解を深めるために、どのような理解啓発活動が必要であると思いますか。(いくつでも○)

「学校教育における理解・啓発活動の充実」の割合が 59.6%と最も高く、次いで「日常でのちょっとした手助けをするサポーターの養成」の割合が 42.8%、「市内のバリアフリーマップの作成」の割合が 34.0%となっています。

回答者数 = 636



ご意見、ご提案などがありましたら、自由にお書きください。

1 市政全般（27件）

- ・ 本人や家族、関わる人がどんな事に困っているかを把握できる体制を整えて欲しい。たらい回しされると頼りたくても頼れない。(女性、50～54歳)
- ・ 市報はチェックしているが、保健福祉についての情報を目にすることが少ない。将来、自分が家族がいつ万一どうなるか分からないことも考えると、小金井市の現状(福祉関係諸々)や今後考えていることは、住民としてもっともっと発信してほしいですし、紙ベースでなくても良いので、ネット等他、南口広場等を使って報告をやってほしい。(男性、50～54歳)

2 差別・理解（40件）

- ・ 機会があれば、サポートしたいと感じている方は、自身を含めて多いのではと思います。ただ、周りにそのような方がいないのと、障がいに対する知識や障がい者の思いを理解していないため、どうサポートすれば良いのか、どう接すれば良いのかわからず、いざと言うときには戸惑ってしまう人がほとんどではないでしょうか。理解、啓発活動の機会を積極的に発信していただきたいと思います。ぜひ、利用したいと思います。また、平日参加できない方がほとんどのため、そのような機会は休日に開催いただけると良いと思います。(男性、50～54歳)
- ・ (思いつくままに)子供のころ近所に複数の障がい者(身体・精神)がいましたが、特別意識しないで普通に暮らしていました。あるがままを受け入れるといった感覚があると良いと思います。(男性、75～79歳)
- ・ 障害のある方について、接したことがない方はわからないので、対応できないのではないのでしょうか。しかし、個性としてへだてなく、1人の人として接することで良いと、小さな時から教えてもらえば特別な存在ではなくなると思います。(女性、55～59歳)
- ・ 気になり、何とかできないかと考える事があるがそれで終わってしまっている。障がい者の方を知り理解ができて、次にできる何かを私達の方から理解し、何かを行う事ができる。その入り口に立たないとずっと同じだと思うので、何かの機会に参加しようと思った。(女性、70～74歳)

3 障がい者施策・サービス等（22件）

- ・ 発達障がい、知的障がいの子どもが通える施設をふやしてほしい。公立の幼稚園はできないのか。障がいの程度で入園をことわられたり、退園になると聞いたことがあり、受け入れ先が無いととても不安に感じる。定型の発達の児と生活する場と障がいに応じてサポートしてもらえる場の両方を利用させたい。(男性、35～39歳)
- ・ 身近に障がいのある方がいないため”どのように考えているのか”や”支援を必要としているのか”が分かりません。ウーバーイーツのようなかんじで”支援を求める人”と”手助けしてもよい(ボランティア)”を結びつける方法があれば利用するかもしれません。(1日中お手伝いはむずかしくても、1～2時間の買い物補助とかちょっとしたことなら機会があればお手伝いしようと思います(1～2回/月))。理解を深めようと積極的に思っているわけではないため、展示会のような物はあまり見ないかもしれません。(女性、35～39歳)

4 地域・交流・ボランティア（17件）

- ・ 障がいがあっても自立して生活できる町 障がいがある人ない人の相互交流がさかんな町としての小金井市を目指して暮らしやすい町にしていきたいです。（女性、45～49歳）
- ・ 障がいがある人とない人の交流は理解のために必要だが、わざわざ分けたイベントだと参加しにくい。趣味の会などを通して自然な形で理解を深めるためのレクチャーもしてもらおうと、参加しやすいと思います。（女性、50～54歳）

5 まち・住まい（8件）

- ・ 高齢者や障害者にやさしい街づくり。コミュニティバスなどこれからも大切にしてほしいと思います。歩道の整備、スーパーなど買物をしやすい整備、路肩の整備（男性、80歳以上）

6 アンケート（15件）

- ・ 日常生活をおくる中でなかなか考える機会がないというのが正直なところです。今回のようなアンケートがなければ考えることはなかったかもしれません。町全体で支え合っていくのであればやはり地域ごとでイベントを増やしたり接する機会やきっかけがあるとよいと思いました。（男性、30～34歳）

7 その他（6件）

- ・ 「特になし」など

